

第5回淑徳大学学生生活 実態調査報告書

第Ⅰ部 記述編 大学の概要



2010年3月

淑 徳 大 学

刊 行 に あ た っ て

本学では、「自己点検・評価作業の一環として、淑徳大学に学ぶ学生諸君が、日頃、本学の教育等に対してどう考え、どのような学生生活を送っているのかを知り、それを今後の淑徳大学のあり方に役立たせること」を目的に、1993年に第1回学生生活実態調査を実施いたしました。以後4年に一度の実施を目指して、1997年の第2回、2001年の第3回、2005年の第4回に続き、昨年第5回の実態調査を実施し、今回の報告書を刊行する運びとなりました。

この間、第1回の調査時には、千葉キャンパスの社会学部（社会福祉学科・社会学科）のみ、第2回の折りには、埼玉県みずほ台キャンパスに国際コミュニケーション学部（経営環境学科・文化コミュニケーション学科）が開設後2年目、第3回には千葉キャンパスに心理学科が開設されて3学科体制となり、第4回には、千葉キャンパスでは社会学部が総合福祉学部へと名称変更を行った初年度、みずほ台キャンパスでは2003年に経営環境学科を改組して人間環境学科と経営コミュニケーション学科を新設して3年目、そして第5回の昨年は、千葉キャンパスでは看護学部が、みずほ台キャンパスでも人間環境学科にこども教育専攻を開設して、それぞれ3年目を迎えております。

私たちは、この実態調査を通して、学生の大学生生活の状況、学生生活への期待とその達成度、大学生活全般についての要望や意見などとともに、学生生活への満足度を測る貴重な資料を得ることができました。過去4回の実態調査の折りもそうでしたが、我々はこのような結果を真摯に受けとめ、学生諸君の大学生生活がより豊かに展開し得るよう、今後速やかに諸方面の改善・改革に向けた具体的な対応策の検討を開始します。そして、可能なところから順次着手し、学生サービスの一層の向上に努めてゆく所存です。

今回の実態調査の実施にあたってご協力いただいた学生諸君に心より厚く御礼申し上げます。なお、第5回学生生活実態調査実行委員会各位のご苦勞に感謝いたします。

学長 長谷川匡俊

学 生 諸 君 へ

昨年末の「学生生活実態調査」が滞りなく実施できたことについて、ご協力いただいた多くの学生諸君に対しお礼申し上げます。

この実態調査は本学にとって第5回目であり、4年ごとに実施されるものです。その目的とするところは、「調査報告書」の冒頭の「刊行にあたって」にも記されているように、本学の「自己点検・評価事業の一環として、淑徳大学に学ぶ学生諸君が、日頃、本学の教育等に対してどう考え、どのような学生生活を送っているのかを知り、それを今後の淑徳大学のあり方に役立たせること」にあります。今回の調査では、前回調査とほぼ同様の回収率となり、学生諸君の大学生生活の諸状況、学生生活への期待とその達成度あるいは大学生生活全般についての様々な要望や意見、さらに学生生活への満足度を測る貴重な調査データを得ることができました。また、様々な要望がある一方で、今回は、学生諸君が本学のどのような点を良いと思っているか、外部で紹介したいと感じているかを示してもらえたことは、教職員にとってもありがたいことでした。

本報告書は、単純集計の結果に基づくものであり、今後、さらに詳細な分析作業をすすめてまいります。学生諸君のニーズや要望・意見を真摯に受けとめ、その内容に関する担当部署の検討をふまえた大学あるいは学部としての対応については、夏休み前までのなるべく早い段階に報告できるように作業をすすめています。

しかしながら、学生諸君のニーズや要望・意見等のなかには、学生諸君の誤解に基づくもの、あるいは大学を運営する法人当局との折衝を要する事項、改善・改革のための方策を立案するのに一定程度の検討時間を要する事項も含まれており、それらについては予定しております夏休み前までの報告の中には必ずしも含まれないことを、予めご了承下さい。

第5回大学学生生活実態調査実行委員会

委員長 松原 健司

(国際コミュニケーション学部 教授)

目 次

I 調査の概要と回答者の属性

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査の方法及び実施時期	1
(4) 有効回収率	2
2 回答者の属性	
(1) 基本属性：所属学部・学科・性別・学年	3
(2) 入学試験の種類等	5
1) 受験した入学試験の種類	5
2) 現役・浪人の別	5
3) 志望の状況	6
(3) 出身高校の所在地	7
(4) 通学時の状況	8
1) 通学時の住まい	8
2) 通学時間	8
3) 主に利用するスクールバス	9
(5) パソコンの保有状況	9

II 大学全体としての結果の概要

1 大学選択の理由と学生生活の状況	11
(1) 淑徳大学を選んだ理由	11
(2) 大学生活の実現状況	11
(3) 学内サークル活動への所属状況	15
(4) 学外サークルへの所属状況	16
(5) アルバイトの実施状況	16
(6) ダブルスクールについて	20
(7) 学生生活の悩み	21
(8) 授業への取り組み	23
(9) 日常生活の習慣	37
(10) 大学内の人間関係	46

(11) 大学の行事・イベント	50
(12) 学生のマナー	53
(13) 学生生活全体の評価	55
2 学生生活への満足度	57
(1) 各学部における結果の概要	57
(2) 授業・教員関連事項に関する満足度	58
(3) 教室・備品・設備等の整備状況に関する満足度	61
(4) 事務対応・学生サービスに関する満足度	66
(5) 食堂・購買の営業等に関する満足度	69
(6) 全体的な大学への評価－まとめにかえて	76

I 調査の概要と回答者の属性

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、本学における自己点検・評価の一環として、淑徳大学に学ぶ学生諸君が、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考えるうえでの基礎データを収集することを目的とする。

(2) 調査対象

平成 21 年 11 月 1 日現在で、総合福祉学部および国際コミュニケーション学部ならびに看護学部に在学する、休学者を除く全学生を対象とした[表 I-1]。なお、看護学部は平成 19 年 4 月に開設されたため、在学学生は 3 年次生までである。

表 I-1 在学学生数（平成 21 年 11 月 1 日現在）

		総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部	大学計
		社会福祉 学科	実践心理 学科	人間社会 学科	学部計	人間環境 学科	経営コミュ ニケーション 学科	文化コミュ ニケーション 学科	学部計	看護学科 /学部計	
1年次生	男	121	56	50	227	63	75	36	174	12	413
	女	218	109	13	340	43	36	63	142	92	574
	計	339	165	63	567	106	111	99	316	104	987
2年次生	男	139	60	84	283	69	68	78	215	15	513
	女	201	110	40	351	46	27	82	155	92	598
	計	340	170	124	634	115	95	160	370	107	1111
3年次生	男	144	70	61	275	81	88	85	254	9	538
	女	234	94	46	374	66	14	107	187	86	647
	計	378	164	107	649	147	102	192	441	95	1185
4年次生 以上	男	123	78	91	292	99	73	153	325	—	617
	女	252	102	48	402	42	13	104	159	—	561
	計	375	180	139	694	141	86	257	484	—	1178
計	男	527	264	286	1077	312	304	352	968	36	2081
	女	905	415	147	1467	197	90	356	643	270	2380
	計	1432	679	433	2544	509	394	708	1611	306	4461

(3) 調査の方法および実施時期

調査は、自記式の質問紙を用いたアンケート調査により実施した。調査票の配布は、平成 21 年 11 月中旬から下旬にかけて、総合福祉学部においては、1 年次生は基礎演習、2 年次生は英語、3 年次生は専門演

習、4 年次生は卒業演習の授業時間中に行い、3 年次生以上で演習に属さない者は、各人学事部にて受け渡す方法で行った。国際コミュニケーション学部においては、1 年次生は基礎演習、2 年次生および3 年次生は演習、4 年次生は卒業研究の授業時間中に調査票を配布し、人間環境学科の社会福祉コースの 2 年次生および3 年次生に関しては、上記に準じた社会福祉援助技術演習の授業時間中に配布した。看護学部においては、1 年次生は病態学、2 年次生は母性看護援助論、3 年次生は各看護学実習の授業時間中に配布した。

調査票の回収は、封筒に密封した後、教員への手渡ししか、各キャンパス備え付けの「アンケート回収ボックス」への投函という方法によって行った。回収の締め切りは3 学部とも 12 月 3 日までとした。

(4) 有効回収率

今回の有効回答者数は、総合福祉学部 1,253 人、国際コミュニケーション学部 950 人、看護学部 202 人の計 2,405 人であった。回収率は、総合福祉学部 49.3%、国際コミュニケーション学部 59.0%、看護学部 66.0%で、大学全体では 53.9%であった[表 I-2]。

なお、前回平成 17 年の第 4 回調査の回収率は、総合福祉学部 57.1%、国際コミュニケーション学部 44.9%であった。総合福祉学部は 7.8 ポイント減であるのに対し、国際コミュニケーション学部は 14.1 ポイント増であった。

表 I-2 有効回収率

		総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部	大学全体
		社会福祉学科	実践心理学科	人間社会学科	学部全体	人間環境学科	経営コミュニケーション学科	文化コミュニケーション学科	学部全体	看護学科/学部全体	
1 年次生	男	73.6%	66.1%	58.0%	68.3%	63.5%	65.3%	41.7%	59.8%	50.0%	64.2%
	女	74.8%	77.1%	38.5%	74.1%	79.1%	77.8%	38.1%	60.6%	66.3%	69.5%
	全体	74.3%	73.3%	54.0%	71.8%	69.8%	69.4%	39.4%	60.1%	64.4%	67.3%
2 年次生	男	42.4%	33.3%	26.2%	35.7%	75.4%	54.4%	62.8%	64.2%	53.3%	48.1%
	女	51.7%	33.6%	22.5%	42.7%	73.9%	59.3%	52.4%	60.0%	63.0%	50.3%
	全体	47.9%	33.5%	25.0%	39.6%	74.8%	55.8%	57.5%	62.4%	61.7%	49.3%
3 年次生	男	43.8%	27.1%	36.1%	37.8%	69.1%	59.1%	67.1%	65.0%	66.7%	51.1%
	女	52.6%	53.2%	65.2%	54.3%	69.7%	28.6%	61.7%	62.0%	73.3%	59.0%
	全体	49.2%	42.1%	48.6%	47.3%	69.4%	54.9%	64.1%	63.7%	72.6%	55.4%
4 年次生以上	男	43.1%	35.9%	31.9%	37.7%	59.6%	37.0%	48.4%	49.2%	—	43.8%
	女	41.7%	50.0%	45.8%	44.3%	73.8%	30.8%	51.0%	55.3%	—	47.4%
	全体	42.1%	43.9%	36.7%	41.5%	63.8%	36.0%	49.4%	51.2%	—	45.5%
全 体	男	50.1%	39.4%	35.7%	43.6%	66.3%	54.3%	55.4%	58.6%	55.6%	50.8%
	女	54.7%	53.5%	44.9%	53.4%	73.6%	57.8%	52.2%	59.6%	67.4%	56.6%
	全体	53.0%	48.0%	38.8%	49.3%	69.2%	55.1%	53.8%	59.0%	66.0%	53.9%

注) 表 I-1-2-1 の平成 21 年 11 月 1 日現在の在学学生数を分母として計算してある。

回収率を性別にみると、総合福祉学部では男子 43.6%、女子 53.4%、国際コミュニケーション学部では男子 58.6%、女子 59.6%、看護学部では男子 55.6%、女子 67.4%であった。国際コミュニケーション学部では男女の回収率がほぼ同じであるのに対して、総合福祉学部と看護学部では男子の回収率が低い。この結果をさらに学科別にみると、国際コミュニケーション学部の文化コミュニケーション学科を除いた学科において男子の回収率が低くなっている。

学年別にみると、総合福祉学部では1年次生 71.8%、2年次生 39.6%、3年次生 47.3%、4年次生 41.5%、国際コミュニケーション学部では1年次生 60.1%、2年次生 62.4%、3年次生 63.7%、4年次生 51.2%、看護学部では1年次生 64.4%、2年次生 61.7%、3年次生 72.6%となっている。国際コミュニケーション学部と看護学部では学年間の差が大きいところでも 10 ポイント前後にとどまっているのに対して、総合福祉学部では学年間の差が大きく、回収率が最も高い1年次生と最も低い2年次生とを比較すると 20 ポイント以上の開きがある。総合福祉学部においてとくに2年次生の回収率が低いことは、調査票の配布方法によるところが大きいとみてよい。2年次生に関しては、全学生を過不足なくカバーする科目の担当者が専任教員とは限らないため、調査の実施に対する周知が十分に徹底されなかったと思われる。

2. 回答者の属性

(1) 基本属性：所属学部・学科・性別・学年

有効回答者数 2,405 人を学部別にみると、総合福祉学部 1,253 人 (52.1%)、国際コミュニケーション学部 950 人 (39.5%)、看護学部 202 人 (8.4%) であった。各学部を学科別にみると、総合福祉学部では社会福祉学科 759 人 (60.6%)、心理学科・実践心理学科 326 人 (26.0%)、社会学科・人間社会学科 168 人 (13.4%) であり、国際コミュニケーション学部では人間環境学科 352 人 (37.1%)、経営コミュニケーション学科 217 人 (22.8%)、文化コミュニケーション学科 381 人 (40.1%) であった。一学部一学科の看護学部では学部生全員が看護学科の学生である。

性別では、男子が 1,057 人 (44.0%)、女子が 1,348 人 (56.0%) と、女子が多い。これを学部別にみると、総合福祉学部では男子 470 人 (37.5%)、女子 783 人 (62.5%)、国際コミュニケーション学部では男子 567 人 (59.7%)、女子 383 人 (40.3%)、看護学部では男子 20 人 (9.9%)、女子 182 人 (90.1%) となっており、総合福祉学部と看護学部において女子の比率が高く、対して国際コミュニケーション学部では男子の比率が高い。学年別では、1年次生は男子 265 人 (39.9%)、女子 399 人 (60.1%)、2年次生は男子 247 人 (45.1%)、女子 301 人 (54.9%)、3年次生は男子 275 人 (41.9%)、女子 382 人 (58.1%)、4年次生は男子 267 人 (50.2%)、女子 265 人 (49.8%)、5年次生以上は男子 3 人 (75.0%)、女子 1 人 (25.0%) であった。

学年別の性別人数・構成比を各学部の学科ごとにみると、総合福祉学部の社会福祉学科では、1 年次生男子 89 人（35.3%）、女子 163 人（64.7%）、2 年次生男子 59 人（36.2%）、女子 104 人（63.8%）、3 年次生男子 63 人（33.9%）、女子 123 人（66.1%）、4 年次生男子 53 人（33.5%）、女子 105 人（66.5%）と、いずれの学年においても女子の比率が高い。

心理学科・実践心理学科では、1 年次生男子 37 人（30.6%）、女子 84 人（69.4%）、2 年次生男子 20 人（35.1%）、女子 37 人（64.9%）、3 年次生男子 19 人（27.5%）、女子 50 人（72.5%）、4 年次生男子 27 人（34.6%）、女子 51 人（65.4%）、5 年次生以上男子 1 人（100.0%）と、5 年次生を除けば、社会福祉学科と同様、いずれの学年においても女子の比率が高い。

社会学科・人間社会学科では、1 年次生男子 29 人（85.3%）、女子 5 人（14.7%）、2 年次生男子 22 人（71.0%）、女子 9 人（29.0%）、3 年次生男子 22 人（42.3%）、女子 30 人（57.7%）、4 年次生男子 27 人（55.1%）、女子 22 人（44.9%）、5 年次生以上男子 2 人（100.0%）であった。総合福祉学部の他の 2 学科と異なり、3 年次生を除き、男子の比率が高い。

国際コミュニケーション学部について学科別にみると、人間環境学科では、1 年次生男子 40 人（54.1%）、女子 34 人（45.9%）、2 年次生男子 52 人（60.5%）、女子 34 人（39.5%）、3 年次生男子 56 人（54.9%）、女子 46 人（45.1%）、4 年次生男子 59 人（65.6%）、女子 31 人（34.4%）と、いずれの学年においても男子の比率が高い。

経営コミュニケーション学科では、1 年次生男子 49 人（63.6%）、女子 28 人（36.4%）、2 年次生男子 37 人（69.8%）、女子 16 人（30.2%）、3 年次生男子 52 人（92.9%）、女子 4 人（7.1%）、4 年次生男子 27 人（87.1%）、女子 4 人（12.9%）と、人間環境学科と同様、いずれの学年においても男子の比率が高い。とくに 3, 4 年次生においては 9 割前後が男子であった。

文化コミュニケーション学科では、1 年次生男子 15 人（38.5%）、女子 24 人（61.5%）、2 年次生男子 49 人（53.3%）、女子 43 人（46.7%）、3 年次生男子 57 人（46.3%）、女子 66 人（53.7%）、4 年次生男子 74 人（58.7%）、女子 52 人（41.3%）であった。国際コミュニケーション学部の他の 2 学科と比較すると、女子の比率が高い。

看護学部(看護学科)では、1 年次生男子 6 人（9.0%）、女子 61 人（91.0%）、2 年次生男子 8 人（12.1%）、女子 58 人（87.9%）、3 年次生男子 6 人（9.1%）、女子 66 人（91.3%）と、いずれの学年においても女子の比率が高い。

回答者の男女比は、前回調査の結果（男子 42.9%、女子 57.1%）とほぼ同様、女子の比率が高いが、とくに看護学部では全体の 9 割を女子が占めている[基礎表 0-1, 2, 3, 4]。

(2) 入学試験の種類等

1) 受験した入学試験の種類

受験した入学試験種類をみると、学部別では、総合福祉学部は、A0 入試を受験した学生が 386 人 (30.8%) で最も多く、続いて指定校推薦 332 人 (26.5%)、A 方式 244 人 (19.5%)、一般推薦・公募推薦・推薦 B・同窓生特別推薦 177 人 (14.1%)、B 方式 149 人 (11.9%)、SL 方式・S 方式・C 方式 30 人 (2.4%)、学園傘下校推薦 24 人 (1.9%)、編入学 26 人 (2.1%)、社会人 3 人 (0.2%) であった (無回答 4 人を除いた MT109.8%)。

国際コミュニケーション学部は、A0 入試 351 人 (36.9%) が最も多く、続いて指定校推薦 210 人 (22.1%)、A・C 方式 125 人 (13.2%)、B 方式 (センター試験方式) 115 人 (12.1%)、公募推薦・推薦 B・同窓生特別推薦 88 人 (9.3%)、学園傘下校推薦 65 人 (6.8%)、編入学 12 人 (1.3%)、海外帰国生徒・外国人留学生 11 人 (1.2%)、社会人 3 人 (0.3%) であった (無回答 4 人を除いた MT103.6%)。

看護学部は、A 方式が 88 人 (43.6%) で最も多く、続いて公募推薦 68 人 (33.7%)、A0 入試 42 人 (20.8%)、B 方式 15 人 (7.4%) であった (無回答 1 人を除いた MT106.0%)。

総合福祉学部では、指定校推薦が各学年とも 25% 前後、A0 入試が 15% (4 年) から 41% (1 年) へと増加している。国際コミュニケーション学部でも、指定校推薦が約 20%、A0 入試が 34% 以上と、ともに大きな割合を占めているのに対して、看護学部では公募推薦が 41% (3 年) から 22% (1 年) へと減少し、A0 入試が 40% (1 年) と増加傾向があるものの、A 方式が各学年平均して 44% と、大きな割合を占めている。

受験した入試の種類の数別にみると、大学全体では、1 種類のみ入試を受験した者が 2,237 人 (93.0%)、2 種類の入試を受験した者が 150 人 (6.2%)、3 種類の受験をした者が 9 人 (0.4%) であり (無回答 0.4%)、ほとんどが 1 種類の入試であった。1 種類のみ受験者数と全体に占めるその割合を学部別にみると、総合福祉学部は 1,135 人 (90.6%)、国際コミュニケーション学部 913 人 (96.1%)、看護学部は 189 人 (93.6%) であり、国際コミュニケーション学部においてその比率が最も高かった [基礎表 0-5]。

2) 現役・浪人の別

大学全体では現役 2,177 人 (90.5%)、浪人 83 人 (3.5%)、その他 (社会人・編入生・留学生) 58 人 (2.4%) であった。学部別では、総合福祉学部は現役 1,144 人 (91.3%)、浪人 39 人 (3.1%)、その他 32 人 (2.6%)、国際コミュニケーション学部では現役 847 人 (89.2%)、浪人 37 人 (3.9%)、その他 22 人 (2.3%)、看護学部では現役 186 人 (92.1%)、浪人 7 人 (3.5%)、その他 4 人 (2.0%) であり、いずれの学部においても約 9 割が現役であった [基礎表 0-6]。

3) 志望の状況

大学全体では、第1志望 1,431 人 (59.5%)、第2志望 372 人 (15.5%)、第3志望以下 572 人 (23.8%)、無回答 30 人 (1.2%) であった。第1志望と第2志望の合計は 65.0% であり、第2志望までで入学している割合を前回調査 (68.0%) と比較するとやや減少している。前々回の調査 (79.8%) も踏まえると、割合の減少が加速している。

学部別では、総合福祉学部は第1志望 879 人 (70.2%)、第2志望 176 人 (14.0%)、第3志望以下 182 人 (14.5%) であり、第1志望の割合は前回調査 (第1志望 58.3%) より増加し、第3志望以下の割合 (前回調査 27.6%) は減少していた。

国際コミュニケーション学部では、第1志望 472 人 (49.7%)、第2志望 155 人 (16.3%)、第3志望以下 311 人 (32.7%) であった。第1志望の割合は、前回調査 (45.2%) より増加し、第3志望以下の割合は、前回 (38.2%) よりも減少していた。

看護学部では、第1志望 80 人 (39.6%)、第2志望 41 人 (20.3%)、第3志望以下 79 人 (39.1%) であった。

入学の志望順位では総合福祉学部が第1志望の割合が最も高く、次いで国際コミュニケーション学部が高く、最も低いのが看護学部 (39.6%) であった。

学科別では、総合福祉学部の社会福祉学科では第1志望 572 人 (75.4%)、第2志望 98 人 (12.9%)、第3志望以下 77 人 (10.1%)、心理学科・実践心理学科では第1志望 192 人 (58.9%)、第2志望 60 人 (18.4%)、第3志望以下 72 人 (22.1%)、社会学科・人間社会学科では第1志望 115 人 (68.5%)、第2志望 18 人 (10.7%)、第3志望以下 33 人 (19.6%) であった。総合福祉学部の3つの学科では、第1志望の割合は、社会福祉学科が最も高く、次いで社会学科・人間社会学科、心理学科・実践心理学科の順となっていた。

国際コミュニケーション学部の学科別では、人間環境学科は、第1志望 174 人 (49.4%)、第2志望 59 人 (16.8%)、第3志望以下 115 人 (32.7%)、経営コミュニケーション学科は、第1志望 133 人 (61.3%)、第2志望 30 人 (13.8%)、第3志望以下 51 人 (23.5%)、文化コミュニケーション学科は、第1志望 165 人 (43.3%)、第2志望 66 人 (17.3%)、第3志望以下 145 人 (38.1%) であった。国際コミュニケーション学部の3つの学科では、第1志望の割合が最も高いのは経営コミュニケーション学科であり、次いで人間環境学科、文化コミュニケーション学科の順となっていた。

看護学科については、上記の看護学部の結果に現われているとおりである。

学科ごとの比較では、第1志望の割合が最も高いのは社会福祉学科であり、続いて社会学科・人間社会学科、経営コミュニケーション学科、心理学科・実践心理学科であり、これらの学科では第1志望の割合

が 6 割弱から 7 割台半ばとなっていた。一方、人間環境学科、文化コミュニケーション学科、看護学科においては、第 1 志望の割合は約 4 割から 5 割にとどまっていた。

性別に志望順位をみると、男子は第 1 志望 593 人 (56.1%)、第 2 志望 171 人 (16.2%)、第 3 志望以下 283 人 (26.8%)、女子は第 1 志望 838 人 (62.2%)、第 2 志望 201 人 (14.9%)、第 3 志望以下 289 人 (21.4%) であった。男女それぞれの第 1 志望者とその比率を学部別にみると、総合福祉学部では男子 323 人 (68.7%)、女子 556 人 (71.0%) でほぼ同じ割合だったが、国際コミュニケーション学部では男子 264 人 (46.6%)、女子 208 人 (54.3%) で女子の方が多かった。看護学部では、男子 6 人 (30.0%)、女子 74 人 (40.7%) で女子の方が多かった。

第 1 志望の割合は、総合福祉学部では、2 年次生で最も高く (190 人 75.7%)、以下 1 年次生 (295 人 72.5%)、4 年次生 (191 人 67.0%)、3 年次生 (202 人 65.8%) の順であった。国際コミュニケーション学部では、1 年次生 (100 人 52.6%) と 2 年次生 (21 人 52.4%) において第 1 志望の割合が高く、3 年次生 (134 人 47.4%) と 4 年次生 (117 人 47.4%) において低いが、学年別の差は比較的小さい。看護学部では、1 年次生が最も高く (36 人 53.7%)、続いて 2 年次生 (26 人 39.4%)、最も低いのが 3 年次生 (18 人 26.1%) であった。

第 3 志望以下の割合は、総合福祉学部男子 73 人 (15.5%)、女子 109 人 (13.9%)、国際コミュニケーション学部男子 201 人 (35.4%)、女子 110 人 (28.7%)、看護学部男子 9 人 (45.0%)、女子 70 人 (38.5%) であり、第 3 志望の割合が最も多かったのは看護学部の回答者であった[基礎表 0-7]。

(3) 出身高校の所在地

出身高校の所在地は、北海道から沖縄まで全国に渡っていた。全体では、千葉県 1,052 人 (43.7%) が最も多かった。続いて東京都 466 人 (19.4%)、埼玉県 421 人 (17.5%) であり、この 3 県で 82.1% を占めており、前回調査 (80.2%) よりも上昇していた。以下、茨城県 93 人 (3.9%)、静岡県 51 人 (2.1%)、長野県 41 人 (1.7%)、新潟県 40 人 (1.7%)、福島県 30 人 (1.2%)、栃木県 29 人 (1.2%)、神奈川県 27 人 (1.1%)、群馬県 21 人 (0.9%) となっており、ここまでの合計で 96.1% となっている。関東とその近隣の県に出身高校の所在地が集中しているのは前回調査結果と同様であるが、今回は千葉県と東京都および埼玉県に集中する傾向がさらに強まった。

学部別では、総合福祉学部において千葉県 875 人 (69.8%)、東京都 128 人 (10.2%)、埼玉県 32 人 (2.6%)、看護学部において千葉県 119 人 (58.9%)、東京都 22 人 (10.9%)、埼玉県 10 人 (5.0%) となっており、千葉県下にキャンパスがあるこれら 2 学部では千葉県、東京都、埼玉県で 7 割台半ばから 8 割強を占めていた。対して国際コミュニケーション学部では、キャンパスのある埼玉県 379 人 (39.9%) が最も多く、次いで東京都 316 人 (33.3%)、千葉県 58 人 (6.1%) となっていた。

性別では、大学全体では、男子は千葉県 375 人 (35.5%)、埼玉県 256 人 (24.2%)、東京都 231 人 (21.9%)、女子は千葉県 677 人 (50.2%)、東京都 235 人 (17.4%)、埼玉県 165 人 (12.2%) であり、男女ともに千葉県が最も多かった。

これを学部別にみると、総合福祉学部の男子は千葉県 335 人 (71.3%)、東京都 45 人 (9.6%)、同女子は、千葉県 540 人 (69.0%)、東京都 83 人 (10.6%) であり、男女とも千葉県が 7 割前後を占めている。他方、国際コミュニケーション学部の男子は、埼玉県 240 人 (42.3%)、東京都 185 人 (32.6%)、同女子は、埼玉県 139 人 (36.3%)、東京都 131 人 (34.2%) であり、東京都と埼玉県の合計で男子は 74.9%、女子は 70.5%であった[基礎表 0-8]。

(4) 通学時の状況

1) 通学時の住まい

通学時の住まいは、大学全体では、自宅 1,866 人 (77.6%)、アパート・下宿・マンション 473 人 (19.7%)、寮 29 人 (1.2%)、親戚の家 18 人 (0.7%)、その他 5 人 (0.2%) の順となっていた。

これを学部別にみると、通学時の住まいが自宅である者は、総合福祉学部 994 人 (79.3%)、国際コミュニケーション学部 737 人 (77.6%)、看護学部 135 人 (66.6%) であり、学部により差はあるものの、自宅通学者が 6 割台半ばから 8 割と大半を占めている。

性別では、自宅通学者は男子 844 人 (79.8%)、女子 1,022 人 (75.8%) と男子の方が多かった。

学年別では、いずれの学部についてみてもどの学年も自宅通学者の割合が大半を占めるが、とくにその割合が 8 割以上と多かったのは、総合福祉学部の 1 年次生 (335 人 82.3%)、同学部 3 年次生 (249 人 81.1%)、国際コミュニケーション学部の 1 年次生 (154 人 81.1%) であった[基礎表 0-9]。

2) 通学時間

大学全体では、1 時間以上 1 時間 30 分未満が 746 人 (31.0%) で最も多く、続いて 30 分以上 1 時間未満が 646 人 (26.9%)、30 分未満が 500 人 (20.8%)、1 時間 30 分以上 2 時間未満が 329 人 (13.7%)、2 時間以上 159 人 (6.6%) であった。

学部別では、総合福祉学部では、1 時間以上 1 時間 30 分未満 395 人 (31.5%)、30 分以上 1 時間未満 353 人 28.2%、30 分未満 247 人 (19.7%) の順であった。

国際コミュニケーション学部では、1 時間以上 1 時間 30 分未満が 303 人（31.9%）、30 分以上 1 時間未満が 258 人（27.2%）、30 分未満が 204 人（21.5%）の順であった。

看護学部では、30 分未満が 49 人（24.3%）、30 分以上 1 時間未満が 35 人（17.3%）、1 時間以上 1 時間 30 分未満が 48 人（23.8%）、1 時間 30 分以上 2 時間未満が 41 人（20.3%）であり、通学にかかる時間は分散していた。

以上をさらに性別にみると、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では、男女ともに 1 時間以上 1 時間 30 分未満の割合が最も多いが、看護学部では、男子は 30 分未満が最も多く（6 人 30.0%）、女子は 1 時間以上 1 時間 30 分未満（45 人 24.7%）と 30 分未満（43 人 23.6%）の者がほぼ同じ割合で多かった〔基礎表 0-10〕。

3）主に利用するスクールバス

主に利用するスクールバスでは、大学全体では、スクールバスを利用しているという回答者は 1983 人（82.5%）（このうち 21 人は複数種類のスクールバスを回答している）、利用していないという者が 360 人（16.2%）であった。

バスの出発場所も含め学部別にみると、総合福祉学部は、蘇我駅から 1023 人（81.6%）、利用していない 209 人（16.7%）であった。国際コミュニケーション学部は、みずほ台駅から 587 人（61.8%）、東所沢駅から 261 人（27.5%）、利用していない 99 人（10.4%）であった。看護学部は、蘇我駅から 72 人（35.6%）、千葉キャンパスから 50 人（24.8%）、大森台駅から 11 人（5.4%）、利用していない 82 人（40.6%）であった。学部別では、看護学部の回答者は、スクールバスを利用していない割合が他学部よりも多かった。これは、通学時の住まいがアパート・下宿・マンションという者が他学部より多いことに加え、駅から看護学部キャンパスへ直行するスクールバスの運行がないことにもよると考えられる〔基礎表 0-11〕。

（5）パソコンの保有状況

大学全体でのパソコンの保有状況は、自分専用で持っている 1,070 人（44.5%）、家にあり自由に使用できる 1,048 人（43.6%）、家にはあるが、あまり自由には使用できない 169 人（7.0%）、パソコンは持っていない 115 人（4.8%）であり、前回調査の結果と比較すると、自分専用のパソコンを持っている学生の割合が増加していた（前回調査 37.6%）。

学部別にみると、自分専用で持っている者の割合は、総合福祉学部 506 人（40.4%）、国際コミュニケーション学部 457 人（48.1%）、看護学部 107 人（53.0%）と、看護学部、次いで国際コミュニケーション学部の学生に多かった。

性別では、男子は自分専用で持っているが 503 人（47.6%）で最も多く、次いで、家にあり自由に使用できる 410 人（38.8%）、以下、家にはあるが自由に使用できない 90 人（8.5%）、パソコンを持っていない 52 人（4.9%）であった。女子は、家にあり自由に使用できるが 638 人（47.3%）で最も多く、次いで自分専用で持っている 567 人（42.1%）、以下、家にはあるが自由に使用できない 79 人（5.8%）、パソコンは持っていない 63 人（4.7%）であった。以上より、男子は自分専用のパソコンを持っている者が多いが、女子はパソコンが家にあり自由に使用できるという者が多く、男子と女子ではパソコンの保有状況に違いがあった。

学年別では、どの学部でも、概ね高学年になるほど自分専用のパソコンを持っている学生の割合が多かった[基礎表 0-12]。

Ⅱ 大学全体としての結果の概要

1. 大学選択の理由と学生生活の状況

(1) 淑徳大学を選んだ理由

「淑徳大学を選んだ理由」（複数回答）について、大学全体での選択率順に並べ直し、上位 14 項目について、学科別の選択率を示したものが図Ⅱ-1-1 である。選択率の高い項目を順に挙げていくと、「専門的な勉強をしたかったから」(67%)、「将来の仕事に必要な勉強がしたかったから」(48%)、「色々な免許や資格を取得できると思ったから」(36%)、「自宅から通学できるから」(36%)等となる。

学科別の特徴に着目すると、「将来の仕事に必要な勉強」は看護学科(78%)、社会福祉学科(67%)で特に高く、文化コミュニケーション学科(24%)や経営コミュニケーション学科(26%)ではあまり高くない。

「色々な免許や資格」も社会福祉学科(57%)で特に高いが、文化コミュニケーション学科(20%)、経営コミュニケーション学科(20%)は高くない。「自分の勉強したい科目が揃っているから」は、実践心理学科(37%)、社会福祉学科(32%)のみで高く、「英語の力も身につくと思ったから」は文化コミュニケーション学科(31%)のみで高い。

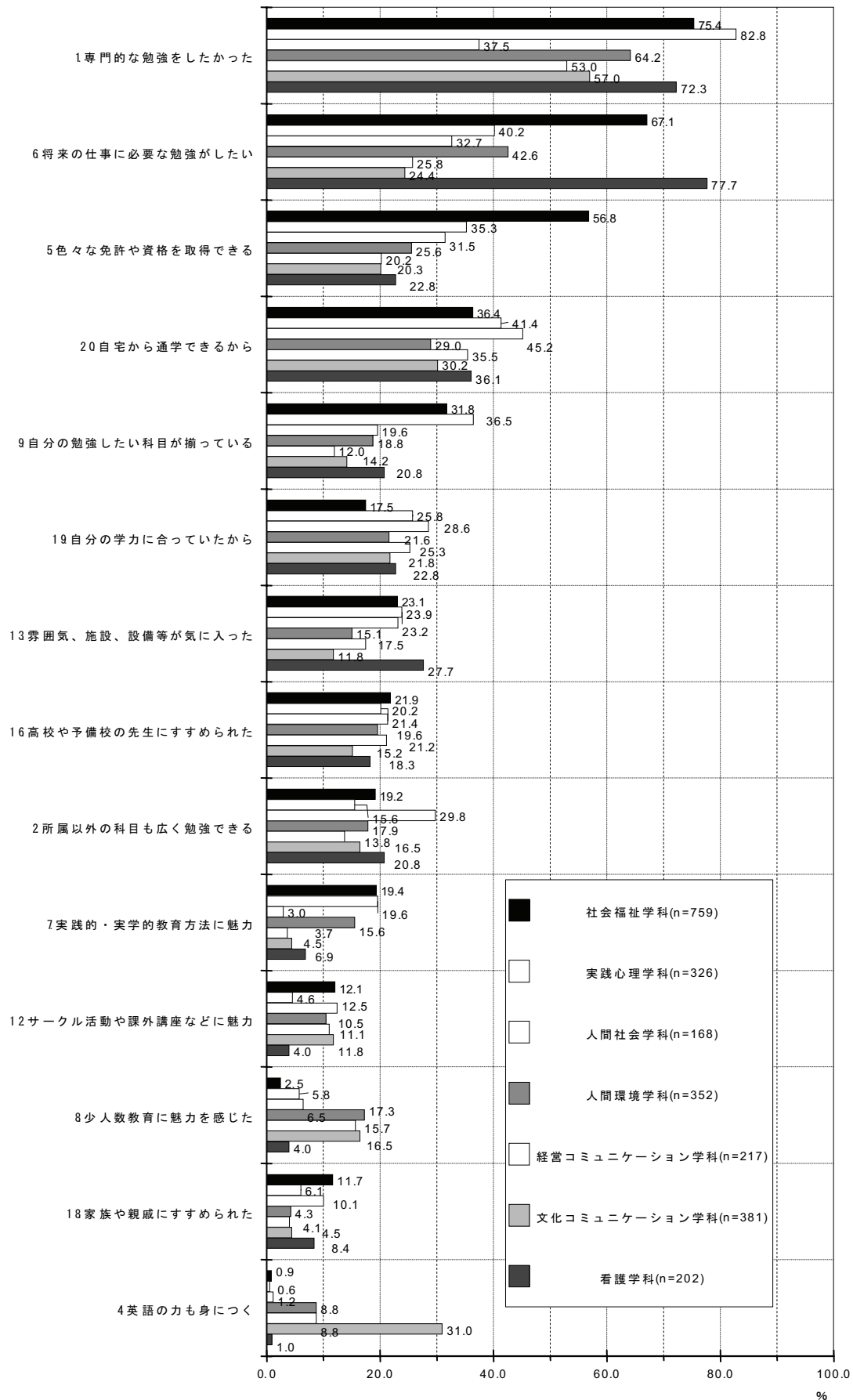
次に、各学部内で性差の大きかった項目に着目してみる。総合福祉学部では、女子の方が男子よりも「専門的な勉強をした」く(77/65%)、「将来の仕事に必要な勉強がした」く(58/52%)、「色々な免許や資格を取得できるから」(51/43%)、「実践的・実学的教育方法に魅力を感じたから」(19/14%)選んだと答えている。国際コミュニケーション学部では、女子が男子よりも、「専門的な勉強がしたく」(64/55%)、「将来の仕事に必要な勉強がした」く(36/28%)、「少人数教育に魅力を感じたから」(22/15%)、「英語の力も身につくと思ったから」(22/15%)、「海外留学や海外研修に魅力を感じたから」(11/4%)選んでおり、逆に男子が女子よりも「自分の学力に合っていたから」(25/18%)選んだと答えている。看護学部では、男女差が大きく、10%以上男子が女子よりも選択していた項目は、「将来の仕事に必要な勉強がした」く(90/76%)、「実践的・実学的教育方法に魅力を感じたから」(30/4%)、「自分の勉強したい科目が揃っているから」(30/20%)、「所属以外の科目も広く勉強できると思ったから」(30/20%)、「友人や先輩にすすめられたから」(15/2%)となっていた。

30%以上の選択率の項目を前回の調査と比較してみると、総合福祉学部では、「自分の勉強したい科目が揃っている」が 24%から 31%に増加、国際コミュニケーション学部では、「英語の力も身につく」が 37%から 18%に低下していた[基礎表 1-1]。

(2) 大学生活の実現状況

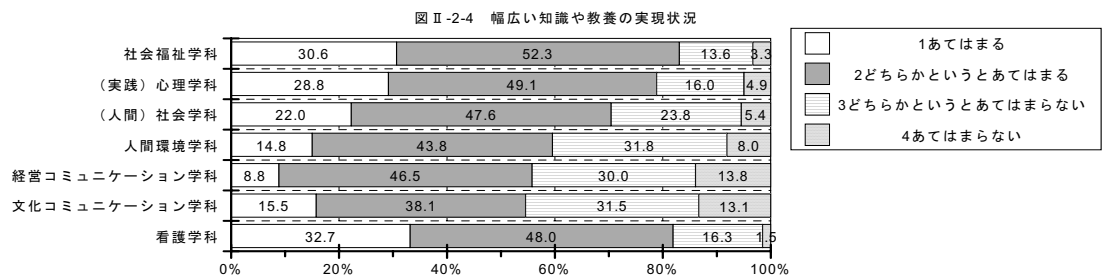
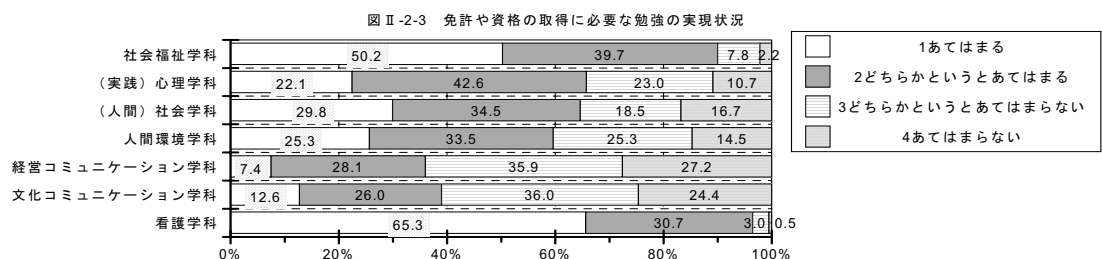
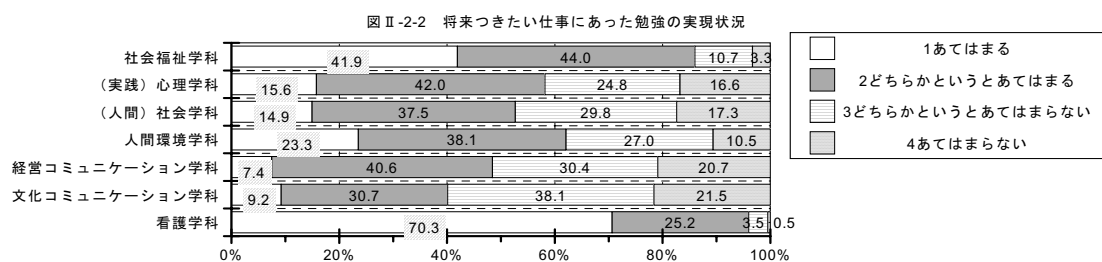
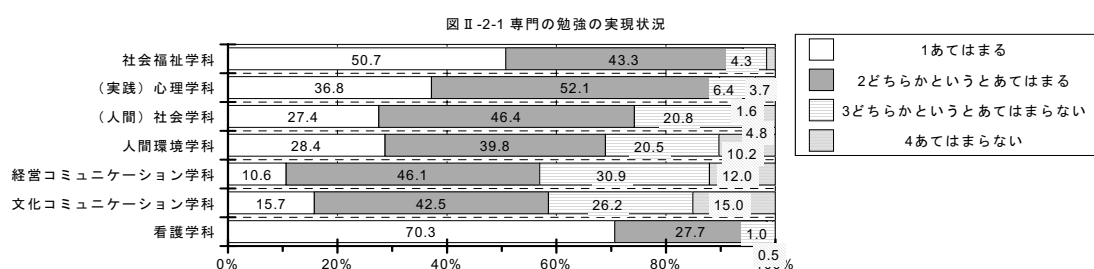
次に、勉強や学生生活などの 8 項目についての実現状況をみていく。回答は「あてはまる」「どちらか」というとあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」の 4 件法としたが、ここでは前 2 者を選択した比率を、便宜的に＜実現率＞として記述していく。

図Ⅱ-1-1 淑徳大学を選んだ理由（複数回答）（％）



1) 勉強の実現状況

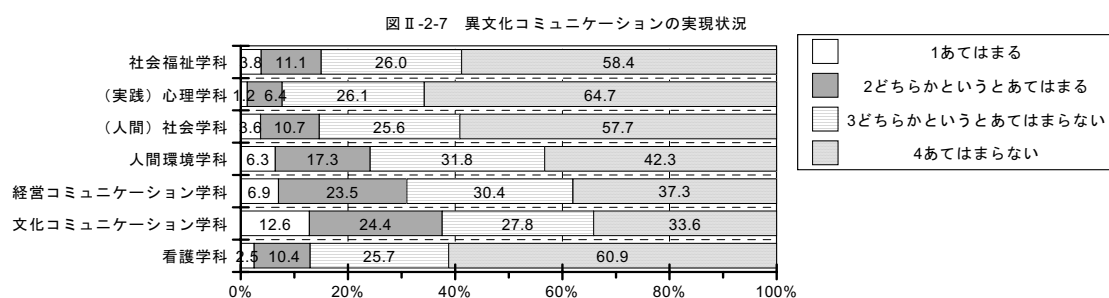
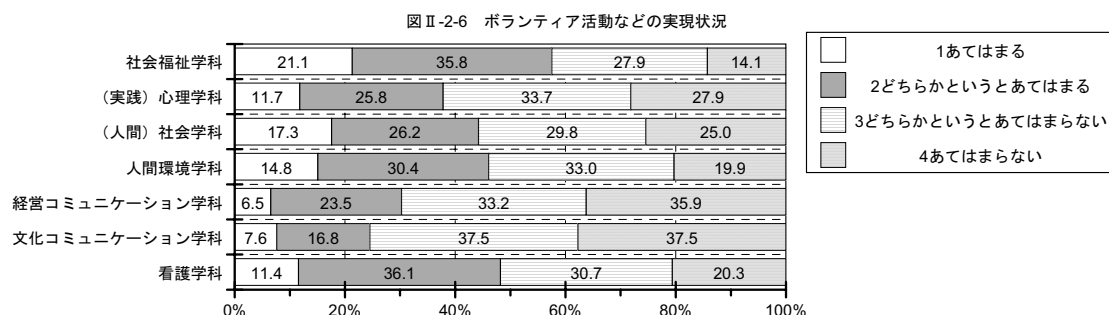
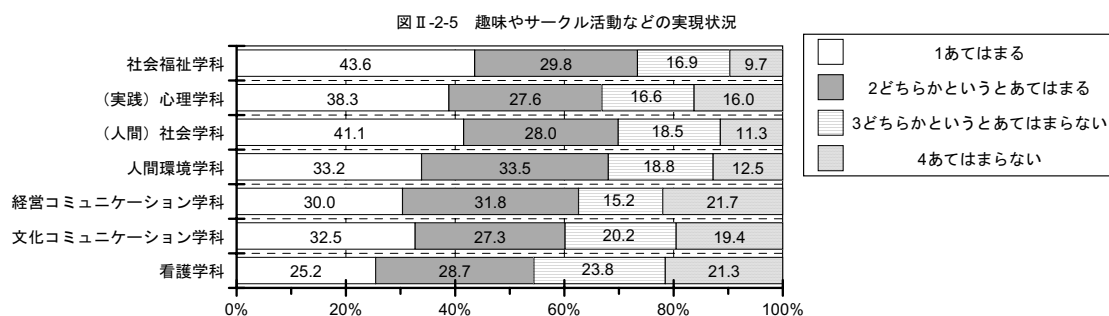
専門の勉強の＜実現率＞は、大学全体で 79%だが、看護学部が 98%、総合福祉学部が 90%と非常に高いのに対し、国際コミュニケーション学部では 62%とやや低調であった。「将来つきたい仕事にあった勉強」の＜実現率＞は、看護学部で 96%、総合福祉学部で 74%だが、国際コミュニケーション学部は 50%であり、「免許や資格の取得に必要な勉強」の＜実現率＞も、看護学部が 96%、総合福祉学部が 80%に対し、国際コミュニケーション学部は 45%にとどまり、学部の性質を反映しているといえよう。「幅広い知識や教養」の＜実現率＞は、看護学部が 81%、総合福祉学部が 80%で、国際コミュニケーション学部は 56%であった（図Ⅱ-2-1～4）〔基礎表 1-2-1～4〕。



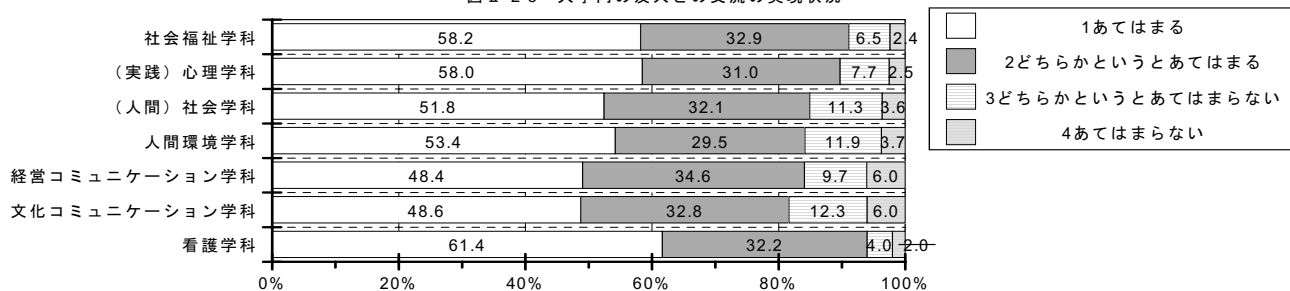
2) 勉強以外の実現状況

次に、趣味やサークル活動などの＜実現率＞をみると、総合福祉学部で71%、国際コミュニケーション学部で63%、看護学部で54%となっている。また、ボランティア活動などの社会に役立つことの＜実現率＞は、総合福祉学部で50%、国際コミュニケーション学部で33%、看護学部が48%であった。社会福祉になじみの深い総合福祉学部のみならず、他の学部でも比較的高い社会参画がなされているといえよう。一方、国際コミュニケーション学部に関係の深い、「海外留学や国際交流などの異文化コミュニケーション」の＜実現率＞は、国際コミュニケーション学部で31%、総合福祉学部と看護学部はともに、13%であった（図Ⅱ-2-5～7）〔基礎表1-2-5～7〕。

さらに、「大学内の友人と楽しく交流できている」＜実現率＞は、看護学部が94%、総合福祉学部が90%、国際コミュニケーション学部が82%と、概ねの学生は学内でしっかりした友人関係を結ぶことができている（図Ⅱ-2-8）〔基礎表1-2-8〕。



図Ⅱ-2-8 大学内の友人との交流の実現状況



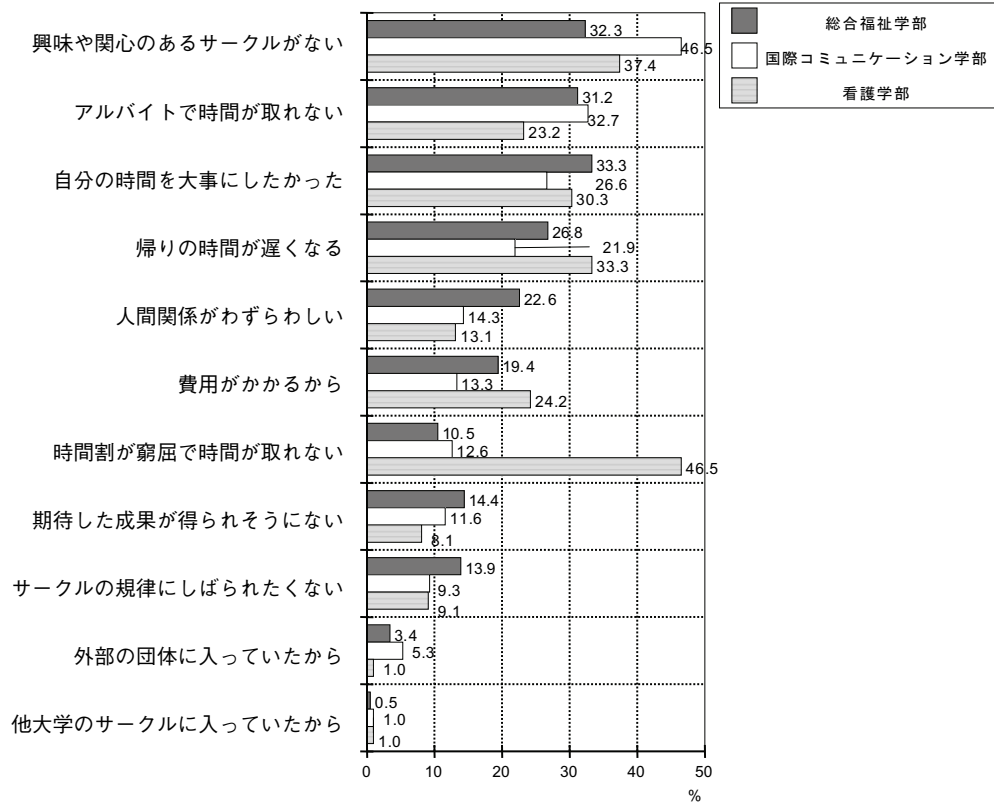
(3) 学内サークル活動への所属状況

学内におけるサークル活動への所属状況をみると、学内サークル所属者は大学全体の62%である。その内訳は、重複する場合も数えて、ボランティア系サークルへの所属が14.8%、文化系サークルへの所属が16%、体育系サークルへの所属が39%、生協委員（国際コミュニケーション学部のみ）への所属が0.5%であり、サークル活動をする者の半数以上が体育系サークルに所属していることになる。

学部別に学内サークル所属者をみると、総合福祉学部69%、国際コミュニケーション学部56%、看護学部49%であり、総合福祉学部と看護学部とでは20%の開きが生じている。ボランティア系サークルへの所属については、総合福祉学部21%、国際コミュニケーション学部と看護学部が8%である。文化系サークルへの所属については、総合福祉学部20%、国際コミュニケーション学部13%、看護学部5%である。体育系サークルへの所属については、総合福祉学部35.6%、国際コミュニケーション学部42%、看護学部43%である。サークルの系統別では、体育系サークルへの所属について学部間で顕著な差は無いが、ボランティア系サークルへの所属率が総合福祉学部で高く、文化系サークルへの所属率が看護学部で低い傾向にある〔基礎表1-3-1〕。

学内でサークルに所属していない学生は、大学全体で37%である。その理由について、多いものから順に列記すると図Ⅱ-3-1のようになる。3学部を比較したとき、大きな違いがあらわれたのは、「時間割が窮屈で時間が取れない」ことを理由にあげた割合である。総合福祉学部が11%、国際コミュニケーション学部が13%であるのに対し、看護学部は47%に達しており、これは学部の性格を反映した結果だと考えられる。とはいえ、サークル活動等の課外活動への参加も、大学生生活の充実に重要な役割を担うことは言うまでもなく、学業とのバランスという面から考慮すべき点である〔基礎表1-3-2〕。

図Ⅱ-3-1 学内サークルに所属しない理由（複数回答）（%）



（４）学外サークルへの所属状況

学外サークルへの所属状況を大学全体で見ると、他大学のサークルへの所属者の割合は2. %、地域等のサークルへの所属者の割合は8%である。学部別に他大学のサークルへの所属者の割合をみると、総合福祉学部 2%、国際コミュニケーション学部 3%、看護学部 1%であり、同じく地域等のサークルへの所属者の割合は、総合福祉学部 7%、国際コミュニケーション学部 9%、看護学部 5%である。他大学のサークル、地域等のサークルのいずれにおいても、その割合の高い学部から示すと、国際コミュニケーション学部、総合福祉学部、看護学部の順となる〔基礎表 1-3-2〕。

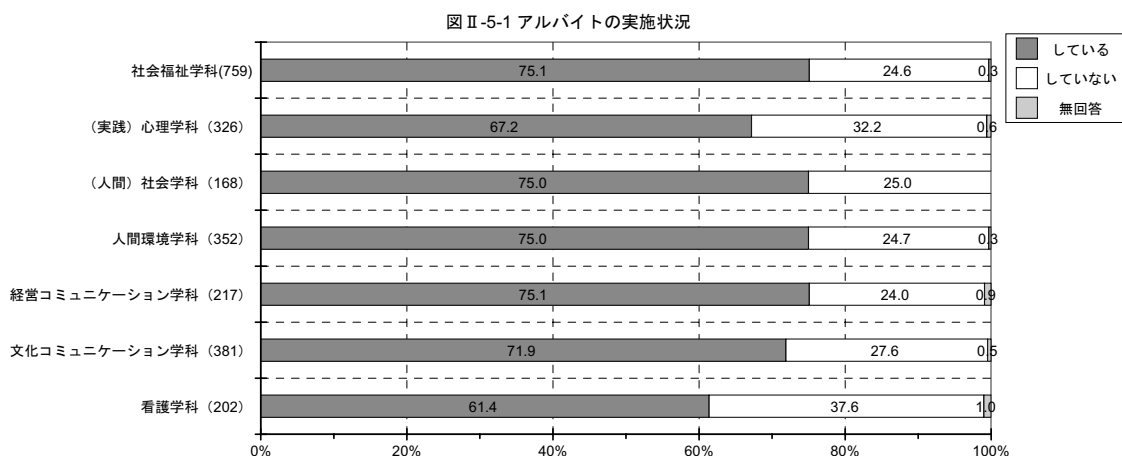
（５）アルバイトの実施状況

１）全体の実施状況

アルバイトの実施状況について、大学全体で見ると、アルバイトをしている学生は全体の72%あった。学部別に見ると総合福祉学部が73%、国際コミュニケーション学部が74%、看護学部が61%であり、看護学部でやや低い傾向が見られた(図Ⅱ-5-1)。

男女別にアルバイトの状況を見ると、総合福祉学部では男子 71%、女子 74%、国際コミュニケーション学部では男子 75%、女子 72%、看護学部では男子 65%、女子 61%となっており、男女による大きな差異は見られなかった。

学年別に傾向を見ると、総合福祉学部では1年次 63%、2年次 79%、3年次 79%、4年次 74%と、1年次に比べて2年次以降にアルバイトをする学生が増えている傾向が見られた。国際コミュニケーション学部でも1年次 71%、2年次 72%、3年次 75%、4年次 77%と、学年が上がるにつれてアルバイトをする学生が緩やかに増える傾向が見られた。看護学部では1年次 61%、2年次 71%、3年次 52%となっており、学年による差異が大きかった〔基礎表 1-5-1〕。

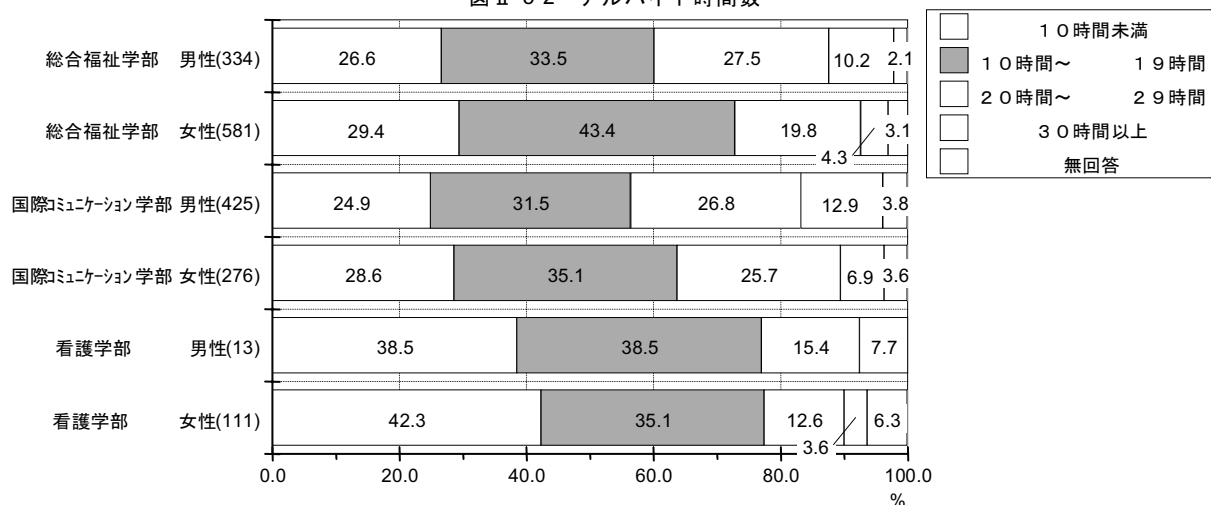


2) アルバイト時間数

週あたりのアルバイト時間では、大学全体では「10 時間～19 時間」という学生が 37%で最も多く、週あたりの平均時間数は 15.6 時間となっている。平均時間数を学部別・男女別に見ると、総合福祉学部男子が 17.0 時間、女子が 14.0 時間、国際コミュニケーション学部の男子が 17.9 時間、女子が 15.1 時間、看護学部男子が 12.2 時間、女子が 12.0 時間となっており、総合福祉学部及び国際コミュニケーション学部においては、男子学生のアルバイト時間が長い傾向がみられる (図Ⅱ-5-2)。

学年別の傾向としては、総合福祉学部では3年次生の平均アルバイト時間が 13.9 時間とやや少なくなっているが、4年次では 16.5 時間に増えている。国際コミュニケーション学部では、学年が上がるにつれてアルバイト時間が長くなる傾向があり、4年次では 20 時間～30 時間という学生が 26%、30 時間を超える学生が 18%となっており、4割を越える4年次生が週に 20 時間以上のアルバイトをしている状況である〔基礎表 1-5-2〕。

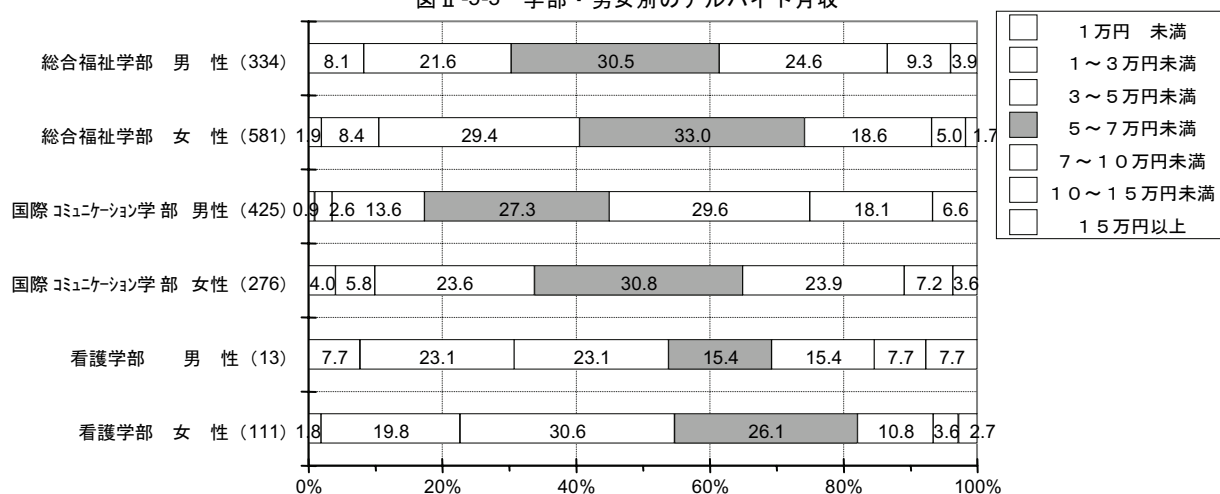
図Ⅱ-5-2 アルバイト時間数



3) アルバイト収入

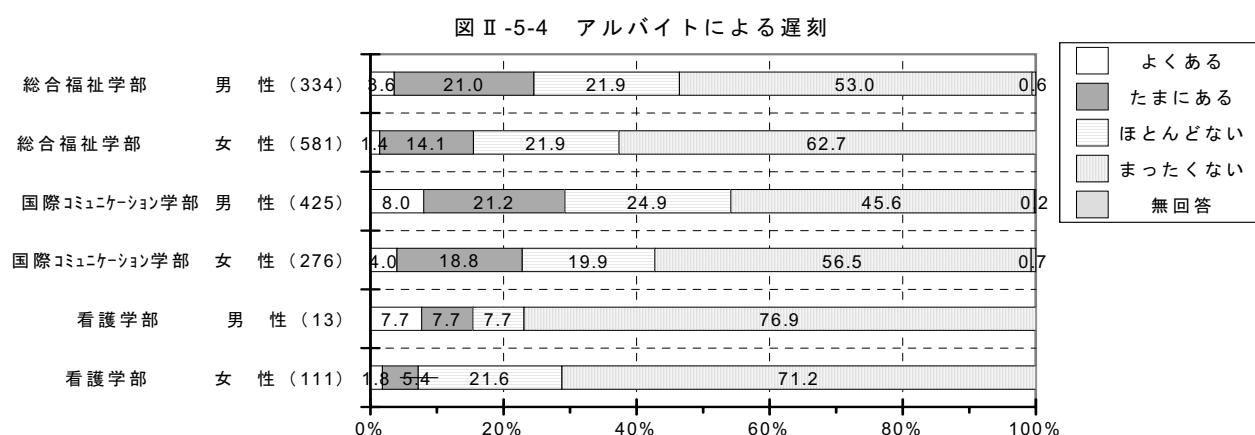
アルバイトで得ている月収は、大学全体では5万円～7万円が30%で最も多く、次いで3万円～5万円が23%となっている。一方で、15万円以上という学生も4%いる。学部別に見ると、総合福祉学部では5万円～7万円が32%、7万円～10万円が21%、10万円～15万円が7%となっている。国際コミュニケーション学部の学生では5万円～7万円が28%、7万円～10万円が27%、10万円～15万円が14%となっている。看護学部では5万円～7万円が25%、7万円～10万円が11%、10万円～15万円が4%となっており、国際コミュニケーション学部では月収額が多い学生が高い割合を示している。これは同学部生のアルバイト時間が長いことと相関していると考えられる。大学全体を通じて、男子学生に高い月収を得ている学生が多い傾向も見られた(図Ⅱ-5-3) [基礎表 1-5-5]。

図Ⅱ-5-3 学部・男女別のアルバイト月収



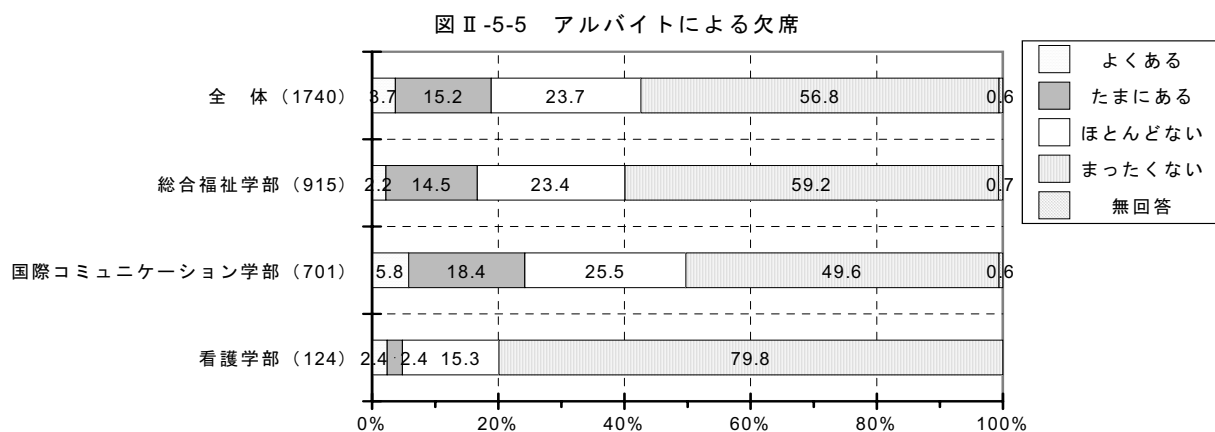
4) アルバイトによる遅刻の有無

アルバイトが原因で授業に遅刻してしまふことがありますかという問いには、大学全体で「よくある」が4%、「たまにある」が17%、「ほとんどない」が22%、「まったくない」が56%となっている。学部別に見ると、看護学部ではアルバイトによる遅刻が少ないのに比較して、国際コミュニケーション学部では多い傾向が見られた。同学部生のアルバイト時間数が多いことと相関していると考えられる。男女別に見ると、大学全体で男子学生にアルバイトによる遅刻が多い傾向が見られた(図Ⅱ-5-4) [基礎表 1-5-3]。



5) アルバイトによる欠席の有無

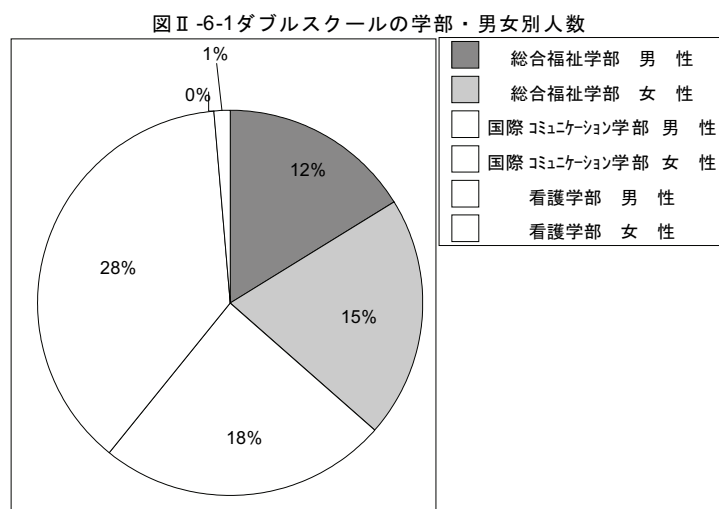
アルバイトが原因で授業に欠席したことがありますか、という問いについては、大学全体では59%の学生が「全くない」と答えており、最頻値であった。次いで「ほとんどない」が24%「たまにある」が15%、「よくある」は4%であった。学部別に見るとアルバイトによる遅刻と同様の傾向が見られ、国際コミュニケーション学部ではアルバイトにより欠席する学生が多い傾向がみられた。一方、看護学部では「よくある」と「たまにある」を合計しても5%であり、ほとんどの学生がアルバイトの影響で欠席することがないと答えている。男女別では、「よくある」「たまにある」を合計した数値で比較すると、総合福祉学部男子24%、女子13%、国際コミュニケーション学部男子28%、女子18%、看護学部男子15%、女子5%と、ここでも男子学生にアルバイトによる欠席者が多い傾向が見られた(図Ⅱ-5-5) [基礎表 1-5-4]。



以上を総合すると、本学では約7割の学生がアルバイトを行っており、特に男子学生においてアルバイト時間が長い傾向が見られる。学部別では国際コミュニケーション学部においてアルバイト時間が長い傾向が見られ、アルバイトによる遅刻や欠席も多い傾向が見られた。看護学部ではアルバイト時間数も少なく、授業への遅刻、欠席にも強くは影響していない傾向が見られた。各学部を通じて、アルバイトによる遅刻や欠席という影響が男子学生に強く表れていた。

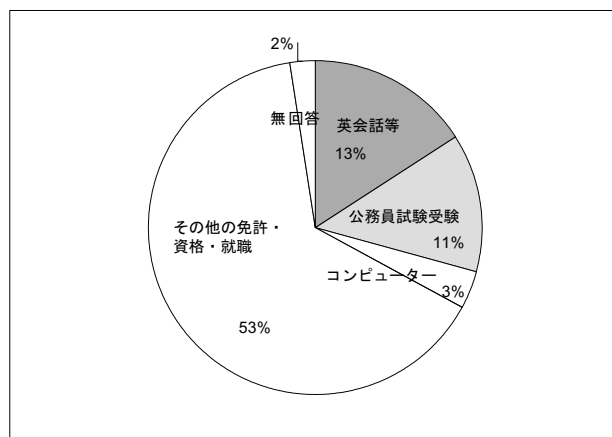
(6) ダブルスクールについて

大学の他に、専門的な能力や資格を修得するために他の学校や講座で学ぶことをダブルスクールと呼んでいる。大学全体でダブルスクールをしている学生は74名(3%)となっている。学部別に見ると、総合福祉学部27名、国際コミュニケーション学部46名、看護学部1名となっている。国際コミュニケーション学部においてダブルスクールをしている学生が多くなっている。全体の傾向として女子学生にダブルスクールをしている学生が多くなっている(図Ⅱ-6-1)〔基礎表 1-6-1〕。



参加しているダブルスクールの種類としては、大学全体で、英会話等の外国語スクールが13名、コンピュータ関連の専門学校が3名、公務員試験受験のための専門学校が11名、その他の免許・資格・就職の学校が53名であった(図Ⅱ-6-2)〔基礎表 1-6-2〕。

図Ⅱ-6-2 ダブルスクールの校種別人数



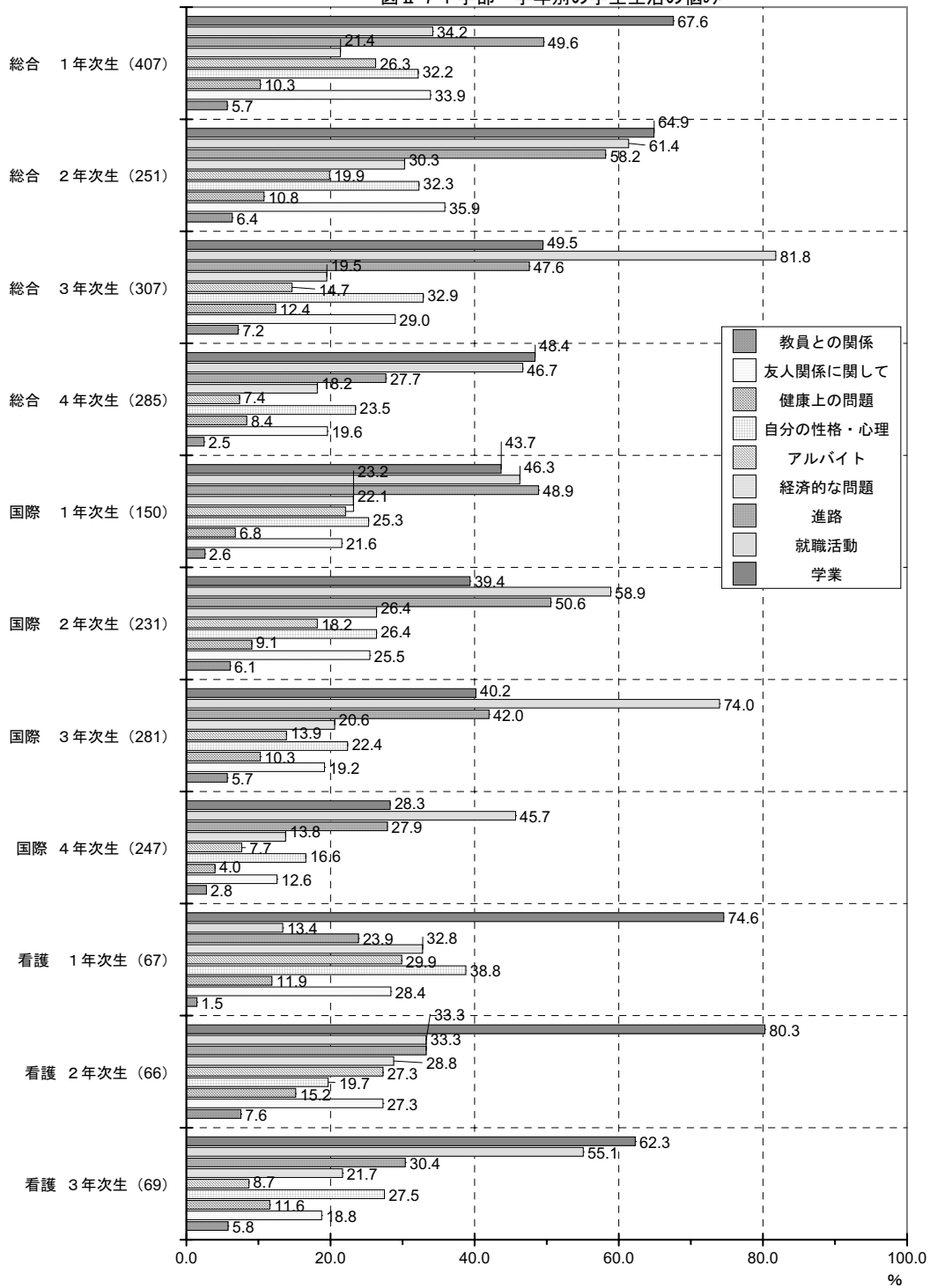
(7) 学生生活の悩み

「学生生活で悩んでいることがありますか」という問いに対しては、就職活動 54%、学業 51%、進路 43%という回答が多かった。以下、自分の性格・心理 27%、友人関係 25%、経済的な問題 22%、アルバイト 17%となっている。学部別に見ると、総合福祉学部では学業が 58%、就職活動が 54%、進路が 46%、自分の性格・心理 30%、友人関係 30%となっており、自分の性格や心理、友人関係での悩みが比較的多く見られた。国際コミュニケーション学部では、就職活動が 57%、進路が 42%、学業が 37%となっており、学業への悩みが相対的に少ない反面、就職活動に悩みを感じている学生が多い傾向が見られた。自分の性格や心理は 23%、友人関係での悩みは 20%と比較的少なかった。看護学部では学業が 72%、就職活動が 34%、進路が 29%、自分の性格や心理が 29%、友人関係が 25%となっており、自分の性格や心理に関する悩みがやや多く示され、学業に関する悩みが非常に多く示された。

学部別・学年別に悩みの内容を見ると、総合福祉学部と看護学部では1年次生で学業に関する悩みが比較的多く示されており、それぞれの学部の学生が悩みを抱えている背景は異なると思われるが、大学での学習に戸惑いを感じている様子がうかがわれる。総合福祉学部では1年次生から3年次生にかけて進路に関する悩みが多く示されており、入学後継続的に進路について悩みを抱えている可能性が読み取れる。国際コミュニケーション学部では、1年次生から進路、就職活動に関する悩みが比較的多く示されており、特徴的な傾向といえる。全ての学部で、3年次生では就職活動に関する悩みが多くなっており、現下の困難な就職状況を反映していると思われる(図Ⅱ-7-1)。

前回の報告書においても、大学が学生に対して「進路」「学業」「就職活動」への配慮をする重要性が指摘されているが、さらに「心理・性格の悩み」や「友人関係の悩み」に対応する体制の構築が求められるであろう[基礎表 1-7]。

図Ⅱ-7-1 学部・学年別の学生生活の悩み



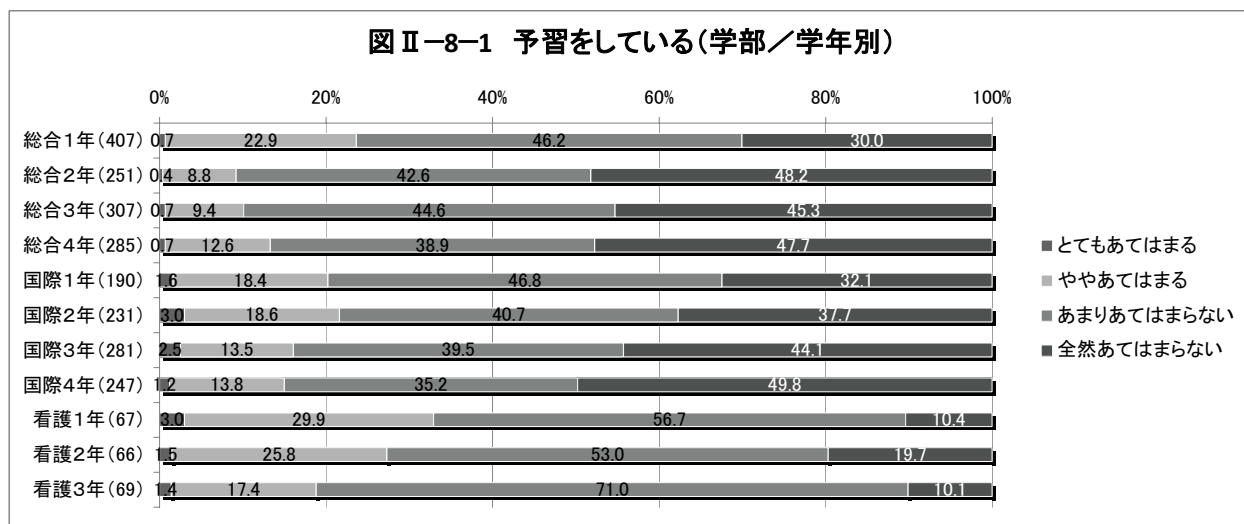
（８）授業への取り組み

これ以降で記載する内容は、学部単位で詳細に分析を行い、個別に対応・改善していくべきものである。したがって本報告での内容は、大学全体あるいは学部全体としての結果を示すのみとする。また、回答数の少なかった過年度生の回答はグラフには示していない。

１）予習をしている

「予習をしている」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」1.3%、「ややあてはまる」16%、「あまりあてはまらない」44%、「全然あてはまらない」39%となっている。8割強の学生が、予習はしていないと回答した。

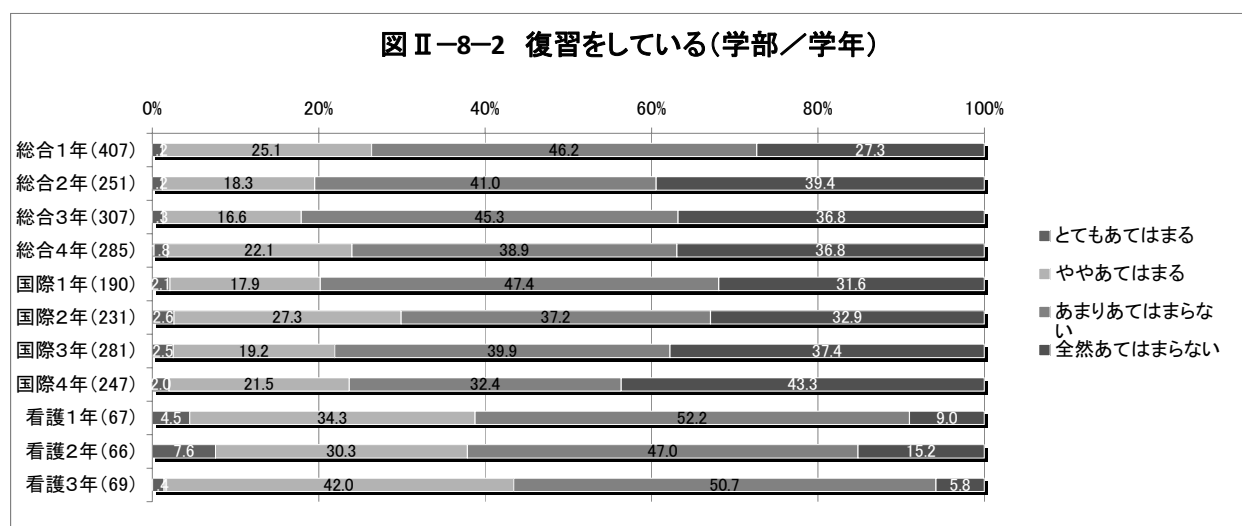
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 15%、国際コミュニケーション学部では 18%、看護学部では 26%となった（図Ⅱ-8-1）〔基礎表 1-8-1〕。



2) 復習をしている

「復習をしている」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」2.0%、「ややあてはまる」23%、「あまりあてはまらない」42%、「全然あてはまらない」33%となっている。7割半の学生が、復習はしていないと回答した。

「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 23%、国際コミュニケーション学部では 24%、看護学部では 40%となった。（図Ⅱ-8-2）〔基礎表 1-8-2〕。

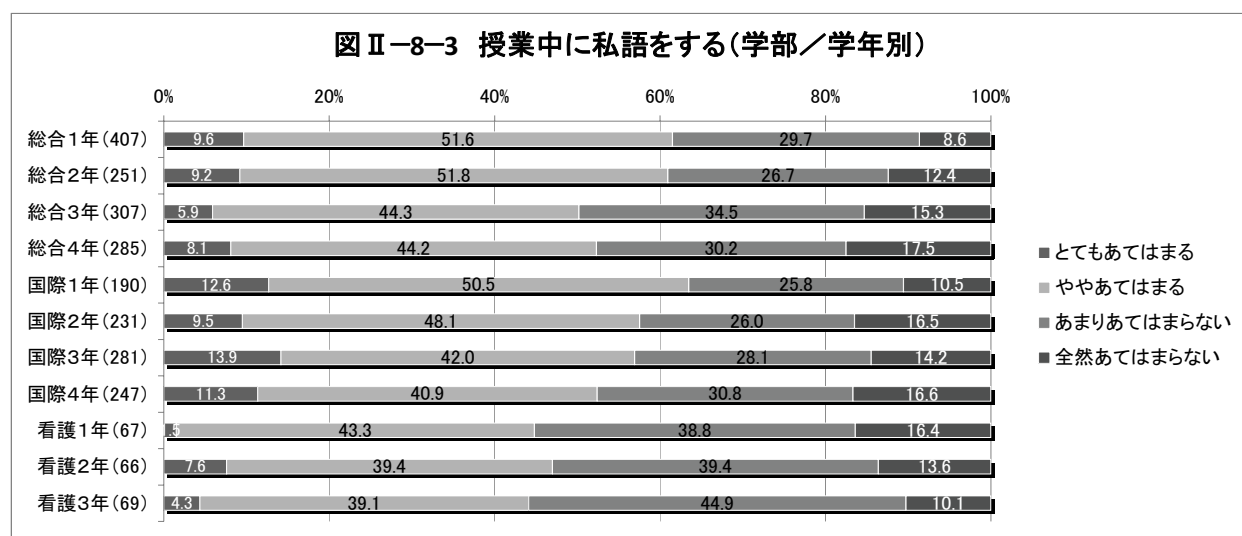


3) 授業中に私語をする

「授業中に私語をしてしまう」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」9%、「ややあてはまる」46%、「あまりあてはまらない」30%、「全然あてはまらない」14%となっている。5割半の学生が私語をしてしまうと回答した。

「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 56%、国際コミュニケーション学部では 57%、看護学部では 45%となった。（図Ⅱ-8-3）〔基礎表 1-8-3〕。

前回と比較すると、総合福祉学科学部で 10%、国際コミュニケーション学部で 7%の減という結果がでた。

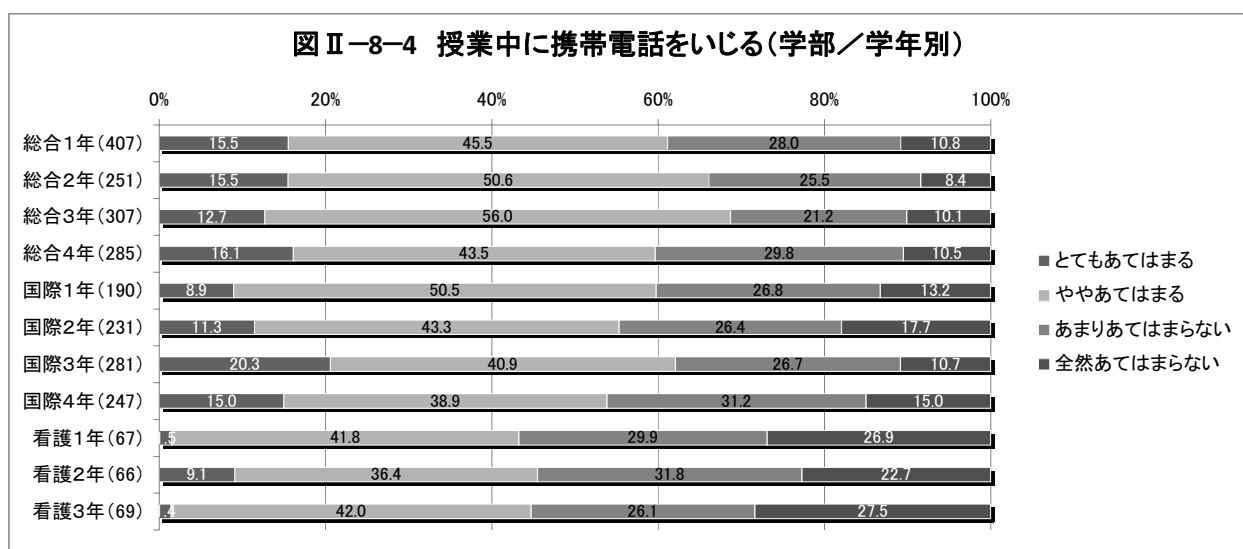


4) 授業中に携帯電話をいじる

「授業中に携帯電話をいじる」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」14%、「ややあてはまる」46%、「あまりあてはまらない」27%、「全然あてはまらない」13%となっている。約6割近い学生が授業中に携帯電話をいじると回答した。

「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では64%、国際コミュニケーション学部では57%と、看護学部では44%となった（図Ⅱ-8-4）〔基礎表1-8-4〕。

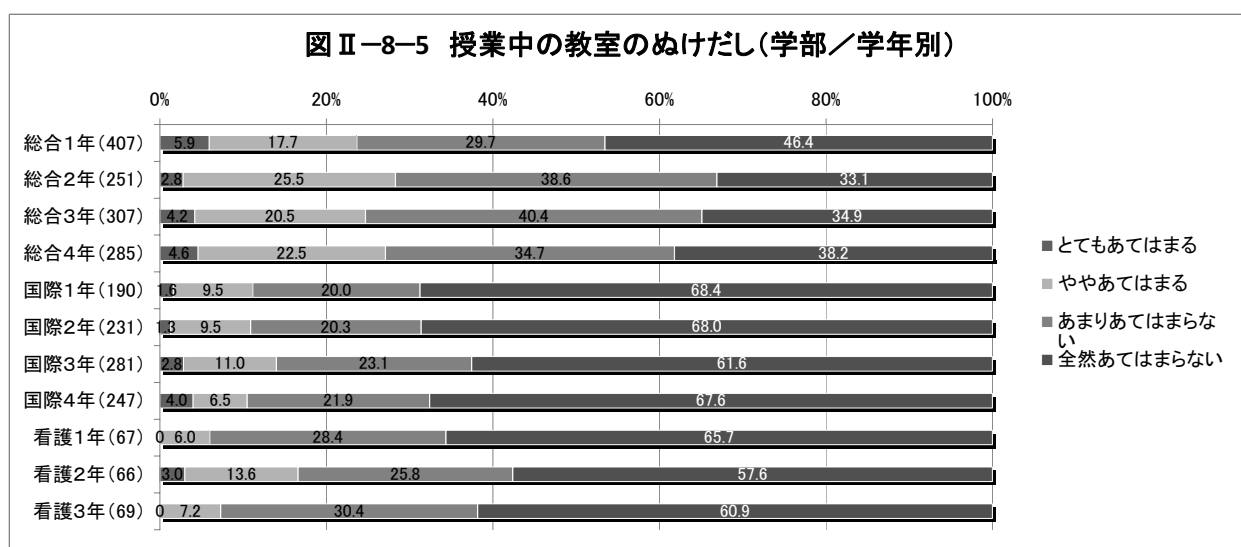
前回と比較すると、総合福祉学科学部で0.8%増、国際コミュニケーション学部で5.2%減という結果がでた。



5) 授業中の教室ぬけだし

「授業中に無断で教室をぬけだしてしまう」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」4%、「ややあてはまる」15%、「あまりあてはまらない」29%、「全然あてはまらない」52%となっている。全体としては2割弱の学生が教室をぬけだしてしまうと回答したことになる。

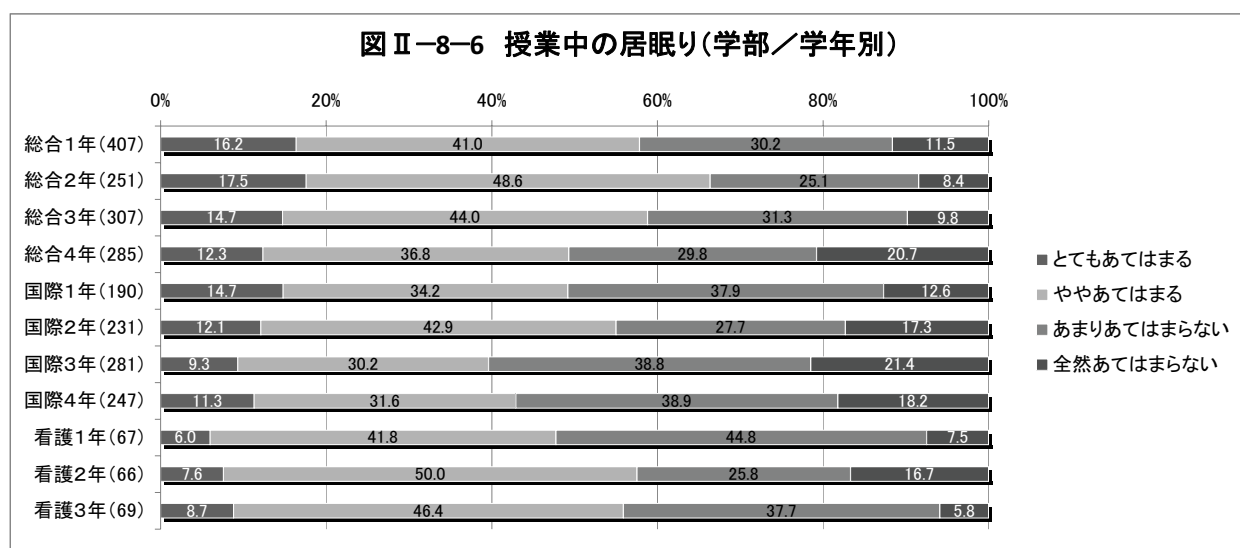
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では26%、国際コミュニケーション学部では12%、看護学部では10%となった。国際コミュニケーションより総合福祉学部の方が14ポイント高い結果となった（図Ⅱ-8-5）〔基礎表1-8-5〕。



6) 授業中の居眠り

「授業中によく居眠りをする」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」13%、「ややあてはまる」40%、「あまりあてはまらない」33%、「全然あてはまらない」46%となっている。全体としては5割の学生が授業中に居眠りをしてしまうと回答したことになる。

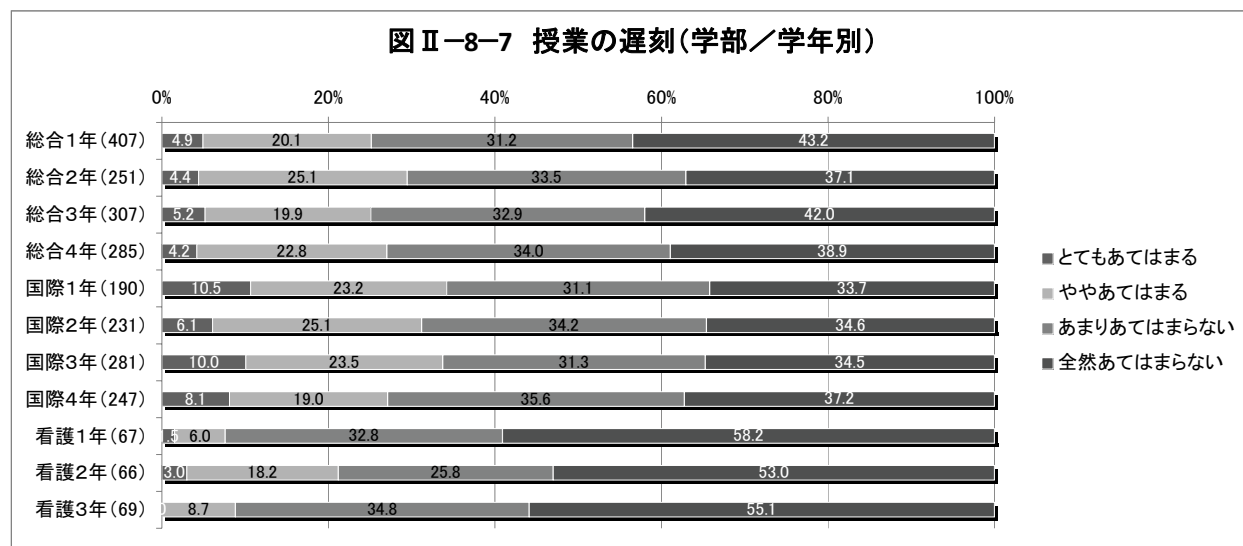
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では58%、国際コミュニケーション学部では46%、看護学部では53%となった。（図Ⅱ-8-6）〔基礎表1-8-6〕。



7) 授業の遅刻

「授業によく遅刻する」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」6%、「ややあてはまる」21%、「あまりあてはまらない」33%、「全然あてはまらない」38%となっている。3割弱の学生が授業に遅刻してしまうと回答した。

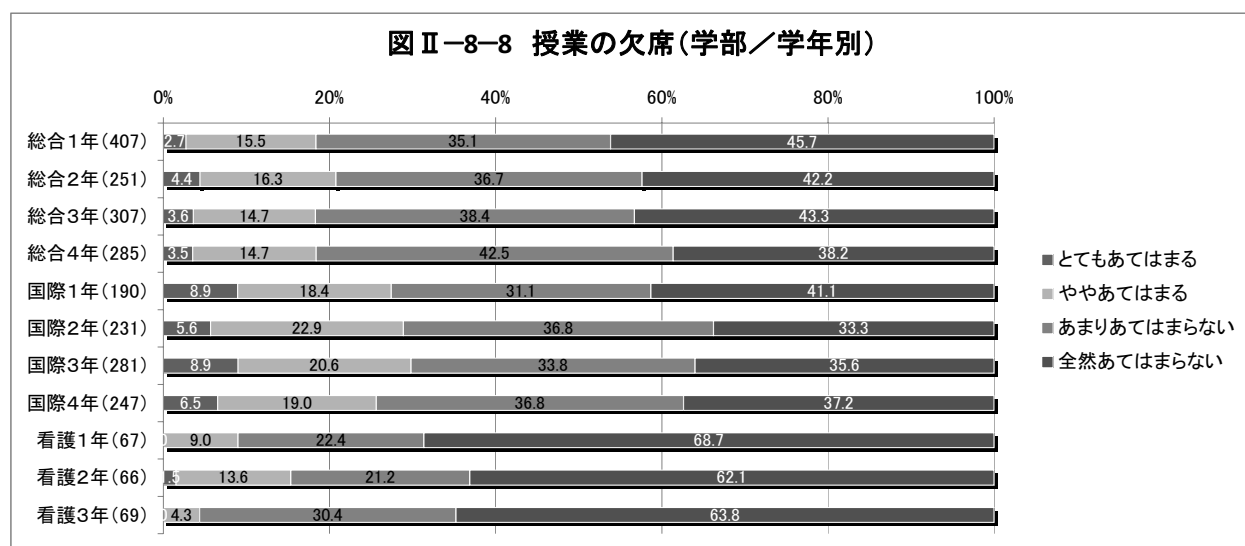
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 26%、国際コミュニケーション学部では 31%、看護学部では 12%となった（図Ⅱ-8-7）〔基礎表 1-8-7〕。



8) 授業の欠席

「授業をよく欠席する」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」5%、「ややあてはまる」17%、「あまりあてはまらない」36%、「全然あてはまらない」42%となっている。約2割の学生が授業をよく欠席してしまうと回答した。

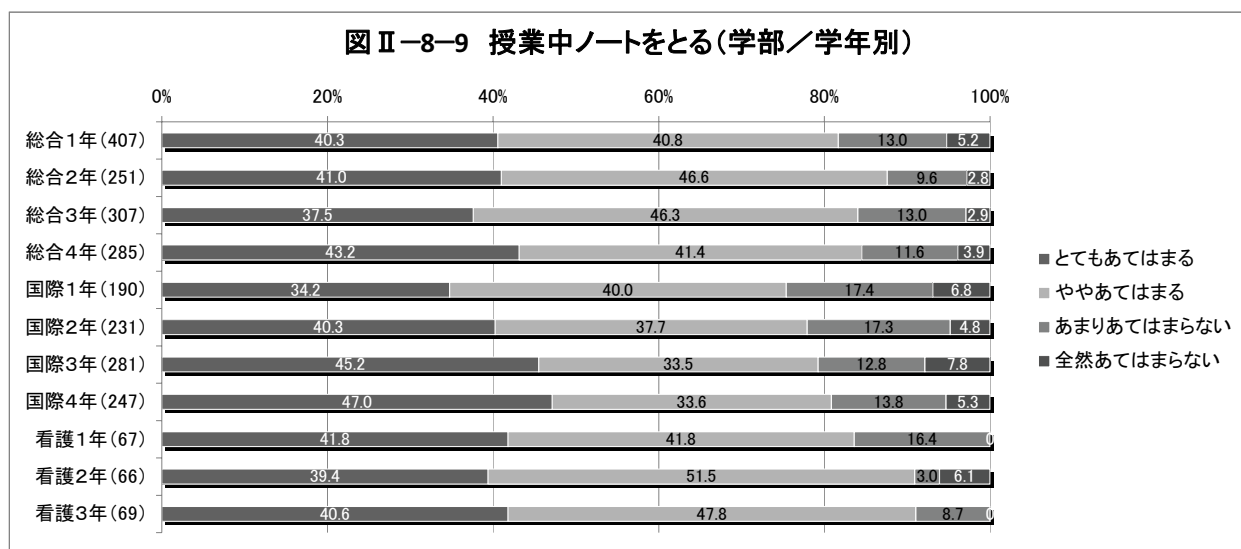
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では19%、国際コミュニケーション学部では28%、看護学部では9%となった（図Ⅱ-8-8）〔基礎表1-8-8〕。



9) 授業中のノート

「授業中、ノートをきちんととる」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」41%、「ややあてはまる」41%、「あまりあてはまらない」13%、「全然あてはまらない」5%となっている。8割の学生がノートをきちんととると回答した。

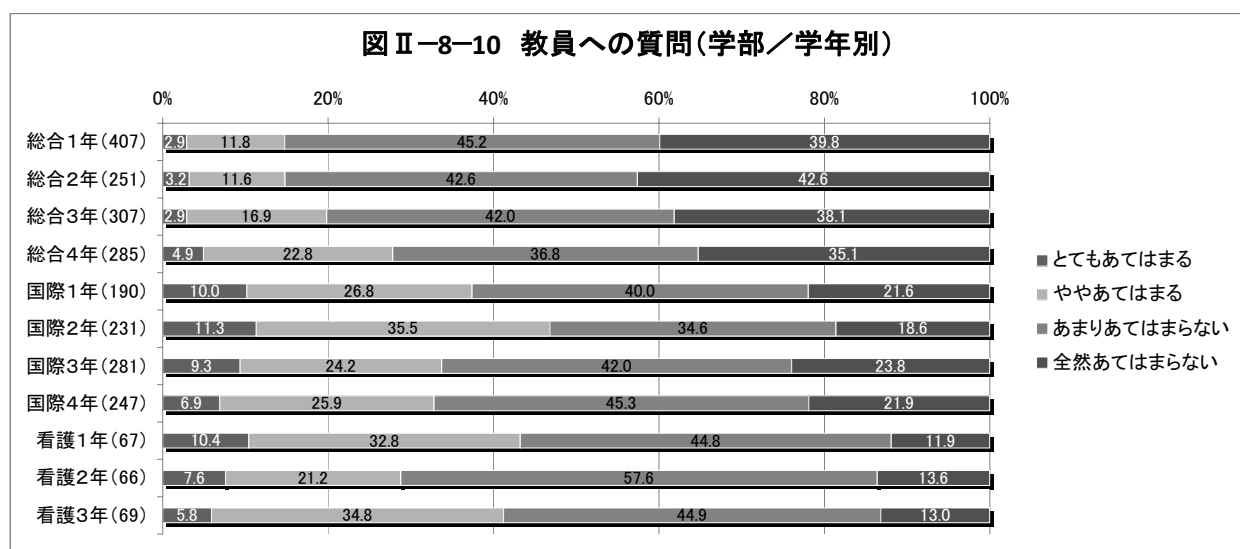
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では84%、国際コミュニケーション学部では78%、看護学部では87%となった。（図Ⅱ-8-9）〔基礎表1-8-9〕。



10) 教員への質問

「わからないことは先生に質問する」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」6%、「ややあてはまる」22%、「あまりあてはまらない」42%、「全然あてはまらない」30%となっている。質問するという学生は2割半にとどまり、7割半の学生は質問をしないという結果である。また、3割の学生はまったく質問をしないと回答している。

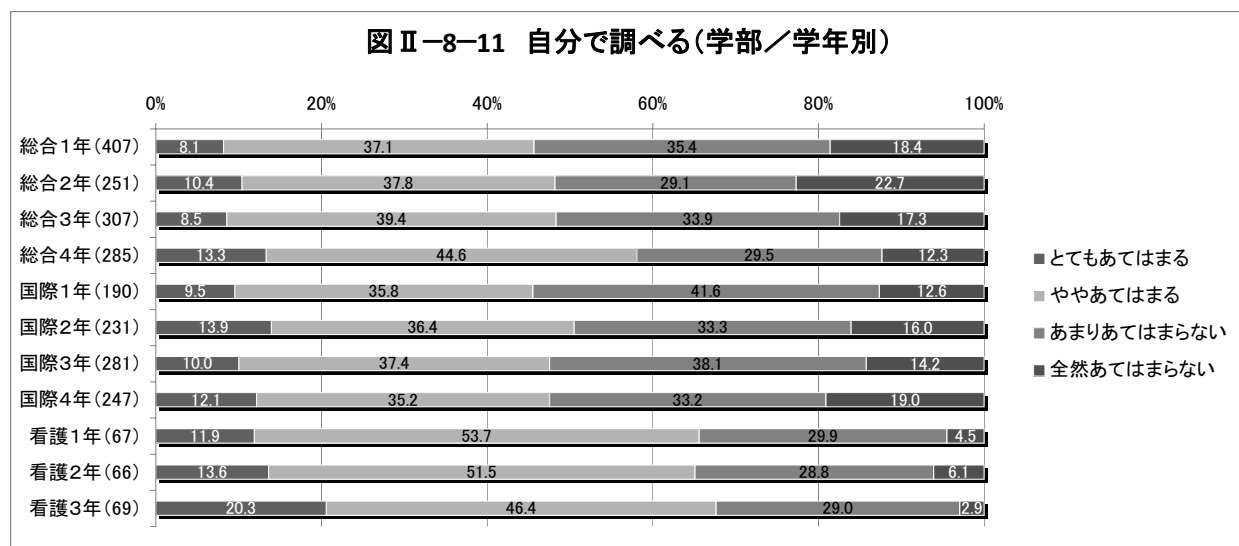
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では19%、国際コミュニケーション学部では37%、看護学部では37%となった。国際コミュニケーション学部および看護学部では3割の学生が質問をするが、総合福祉学部では2割に満たない（図Ⅱ-8-10）〔基礎表1-8-10〕。



11) 自分で調べる

「わからないことは自分で調べる」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」11%、「ややあてはまる」39%、「あまりあてはまらない」34%、「全然あてはまらない」16%となっている。5割の学生がわからないことは自分で調べると回答した。

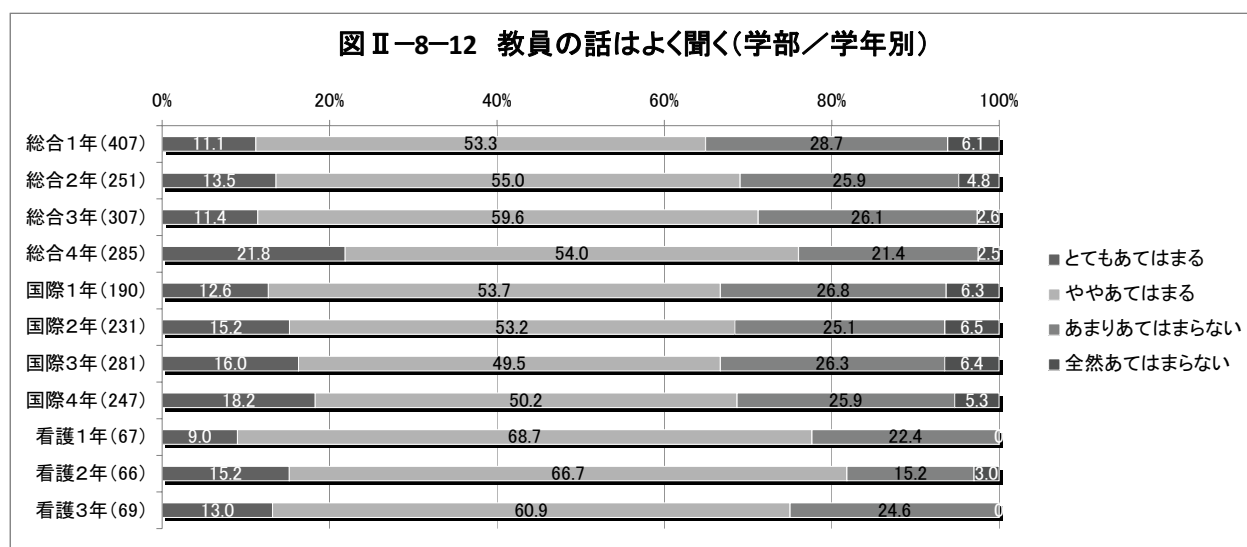
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では50%、国際コミュニケーション学部では48%、看護学部では66%なった。総合福祉学科学部と国際コミュニケーション学部では5割弱であったが、看護学部は6割半という高い数字となった（図Ⅱ-8-11）〔基礎表1-8-11〕。



12) 教員の話はよく聞く

「先生の話はよく聞いている」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」 15%、「ややあてはまる」55%、「あまりあてはまらない」25%、「全然あてはまらない」 5%となっている。7割近い学生が教員の話はよく聞いていると回答した。

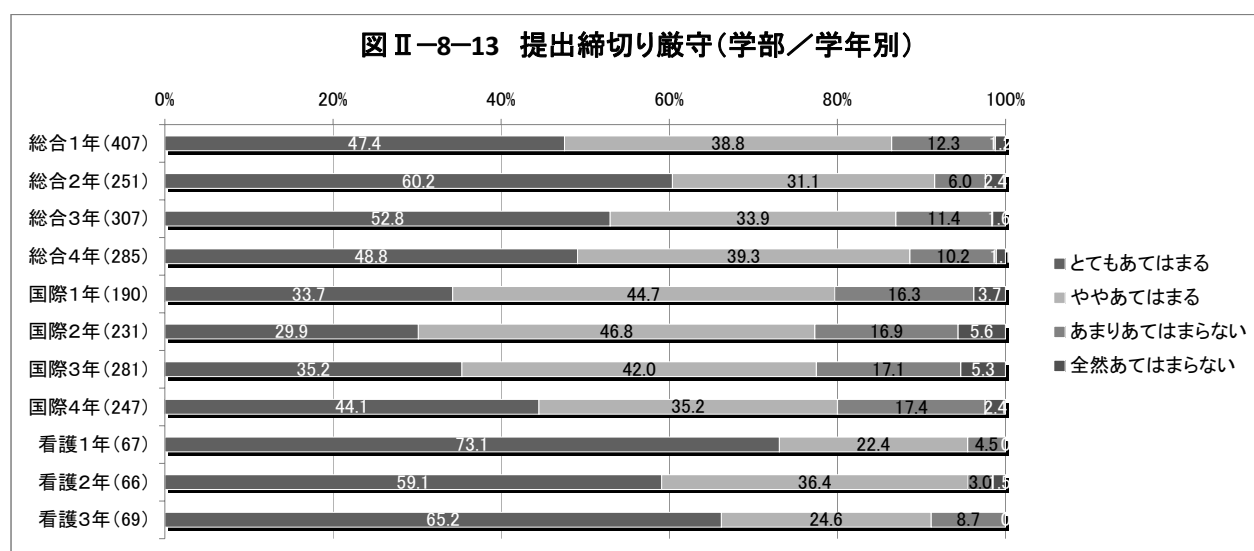
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 70%、国際コミュニケーション学部では 67%、看護学部では 78%なった。（図Ⅱ-8-12）〔基礎表 1-8-12〕。



13) 提出物のしめきり

「提出物のしめきりはきちんと守る」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」47%、「ややあてはまる」38%、「あまりあてはまらない」13%、「全然あてはまらない」3%となっている。8割半の学生がしめきりを守ると回答したが、1割半の学生が提出期限を守らないとしたことに注目すべきであろう。提出期限を守らないと回答した学生は、前回の調査と比較すると増加の傾向が見受けられる。

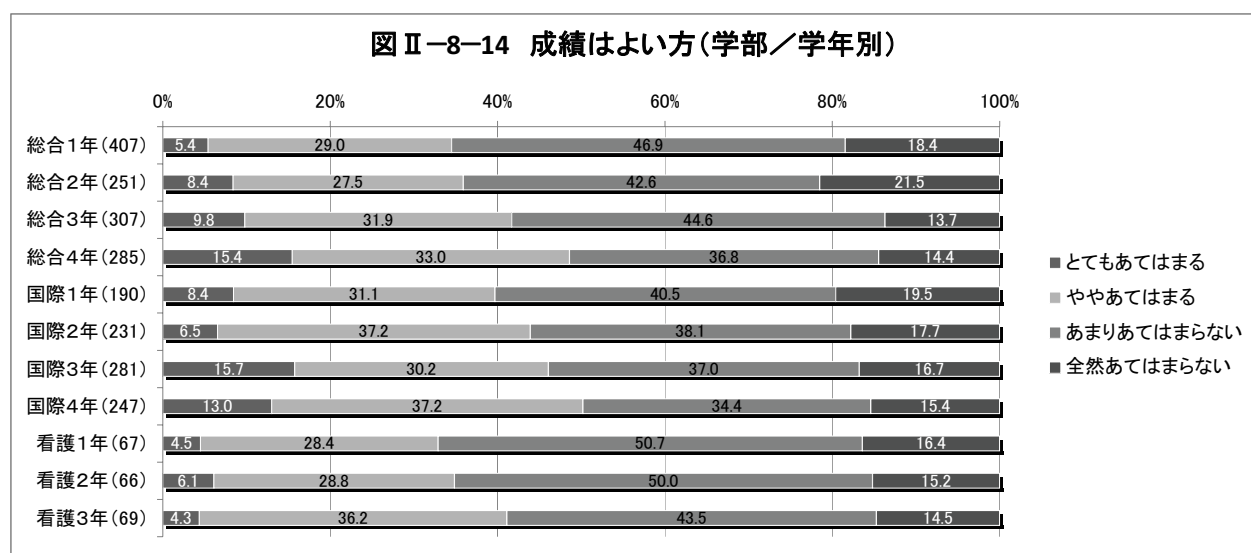
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では88%、国際コミュニケーション学部では78%、看護学部では94%となった。看護学部では提出期限を守らないと回答した学生は1割を切っている。（図Ⅱ-8-13）〔基礎表1-8-13〕。



14) 成績の自己評価

「大学の成績はよい方だと思う」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」10%、「ややあてはまる」32%、「あまりあてはまらない」41%、「全然あてはまらない」17%となっている。4割の学生が成績はよい方と自己評価していることになる。

「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では40%、国際コミュニケーション学部では45%、看護学部では36%となった。国際コミュニケーション学部のみが4割を超えた結果となった（図Ⅱ-8-14）〔基礎表1-8-14〕。

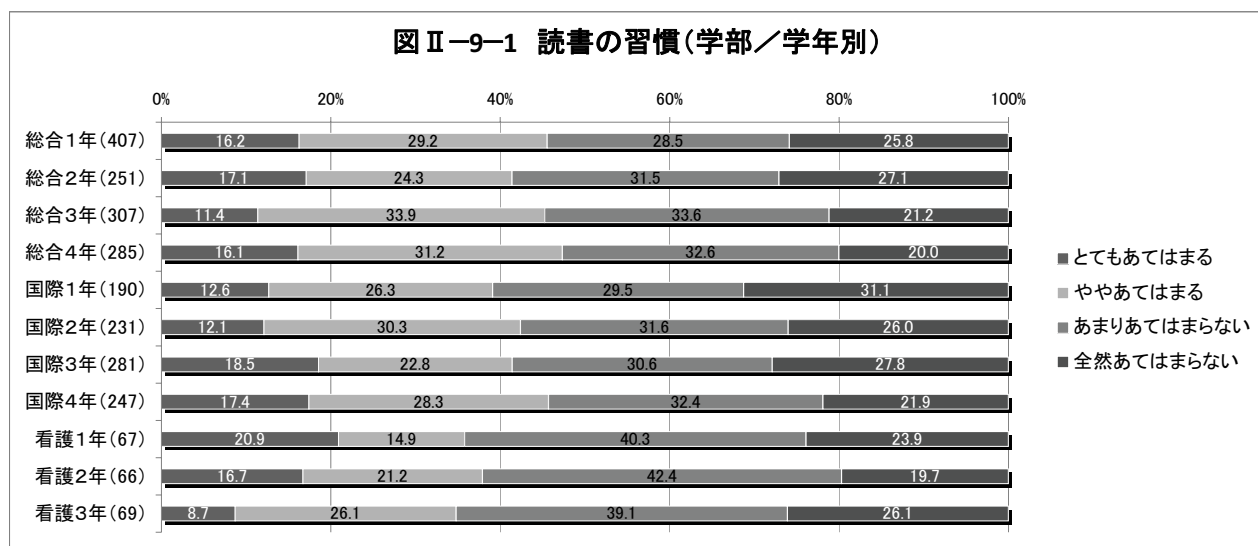


(9) 日常生活の習慣

1) 読書

「よく読書をする」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」15%、「ややあてはまる」28%、「あまりあてはまらない」32%、「全然あてはまらない」25%となっている。半数以上の学生に読書習慣が身に付いていないことがわかる。

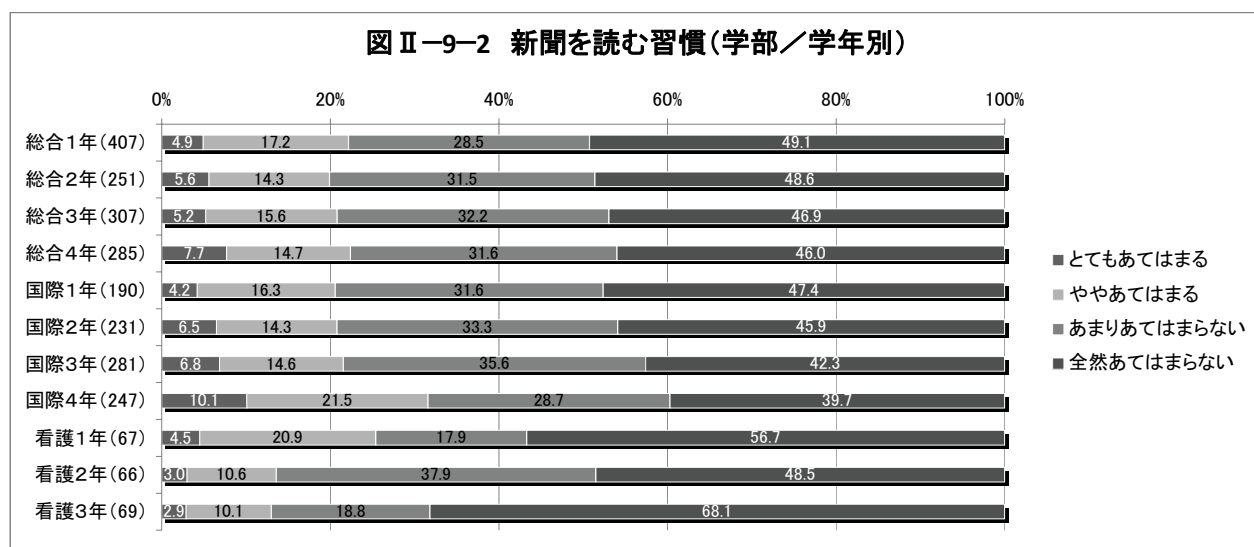
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 45%、国際コミュニケーション学部では 42%、看護学部は 36%となった（図Ⅱ-9-1）〔基礎表1-9-1〕。



2) 新聞

「新聞を毎日読む」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」6%、「ややあてはまる」16%、「あまりあてはまらない」31%、「全然あてはまらない」47%となっている。7割半の学生が新聞を読まないという結果である。

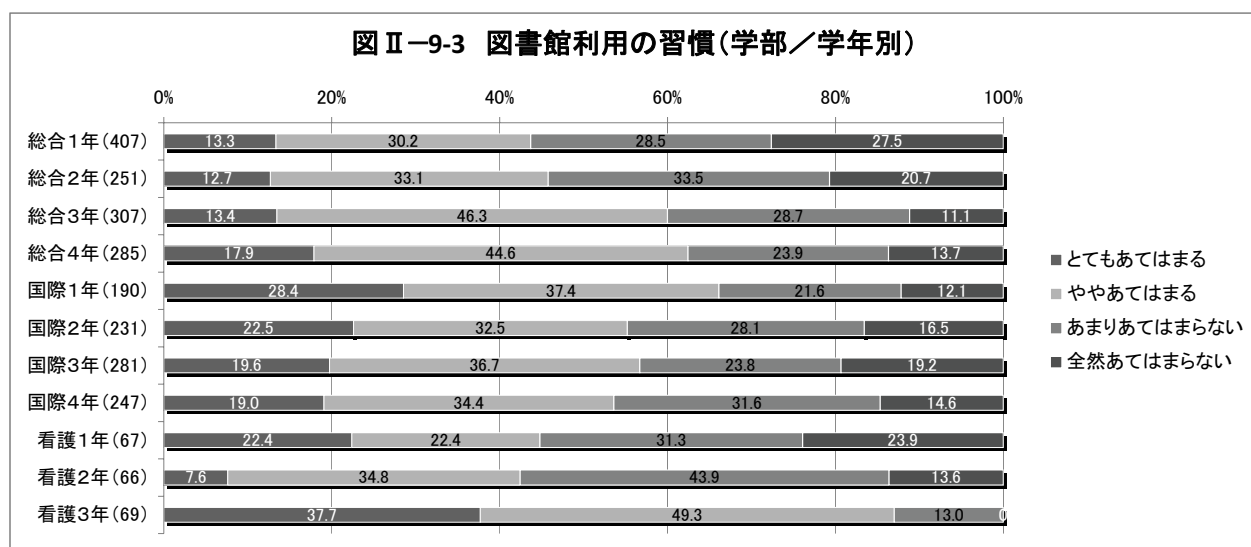
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 21%、国際コミュニケーション学部では 24%、看護学部では 17%となった。読書と同様、看護学部は他学部より低い水準であった（図Ⅱ-9-2）〔基礎表 1-9-2〕。



3) 図書館利用

「図書館を利用する」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」18%、「ややあてはまる」37%、「あまりあてはまらない」28%、「全然あてはまらない」17%となっている。図書館を利用する学生は5割強という結果である。

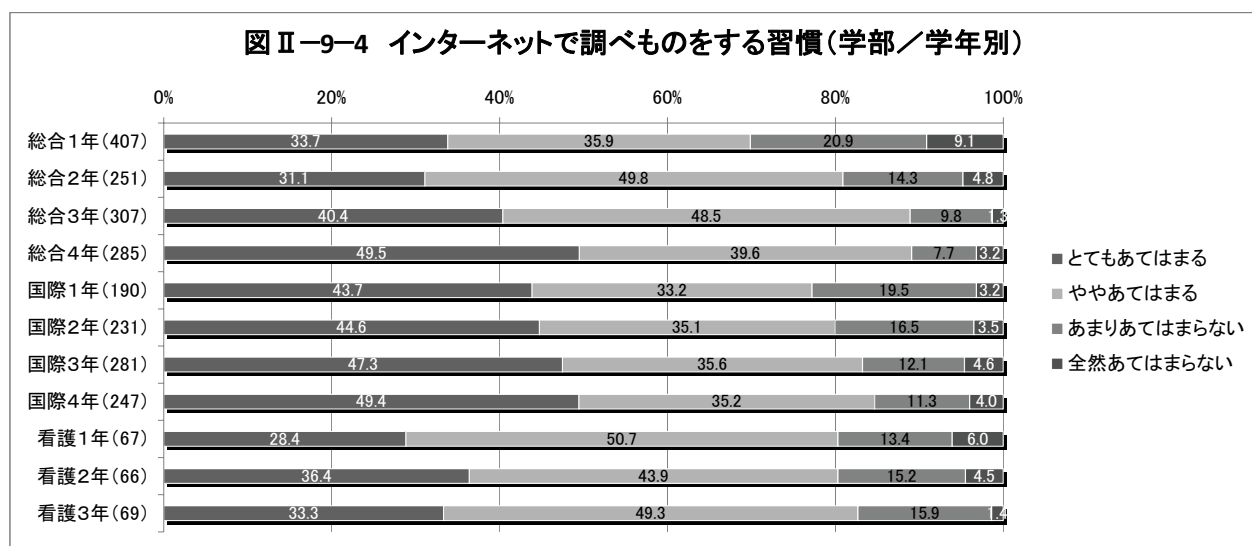
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では52%、国際コミュニケーション学部では57%、看護学部では58%となり、同水準であった（図Ⅱ-9-3）〔基礎表1-9-3〕。



4) インターネット

「ネットで調べものをする」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」41%、「ややあてはまる」40%、「あまりあてはまらない」14%、「全然あてはまらない」4%となっている。8割強の学生がネットを利用して調べものをしていることがわかる。

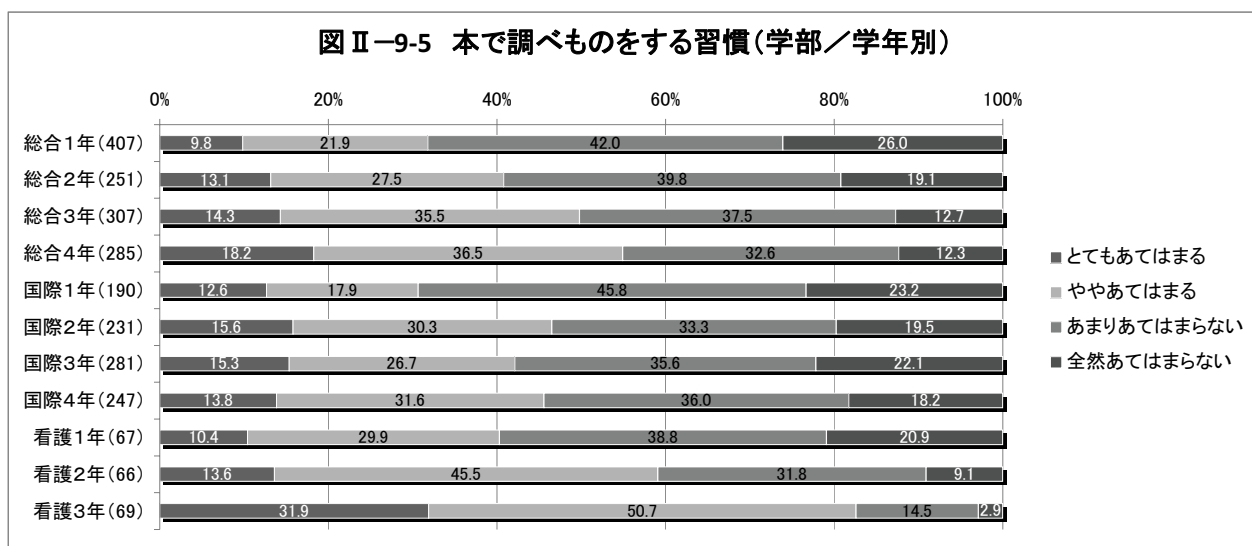
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では81%、国際コミュニケーション学部では81%、看護学部では81%となり、同水準であった（図Ⅱ-9-4）〔基礎表1-9-4〕。



5) 本での調べもの

「本で調べものをする」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」14%「ややあてはまる」30%、「あまりあてはまらない」37%、「全然あてはまらない」19%となっている。本で調べものをするという学生より、本で調べものをしないと回答した学生が上回った。

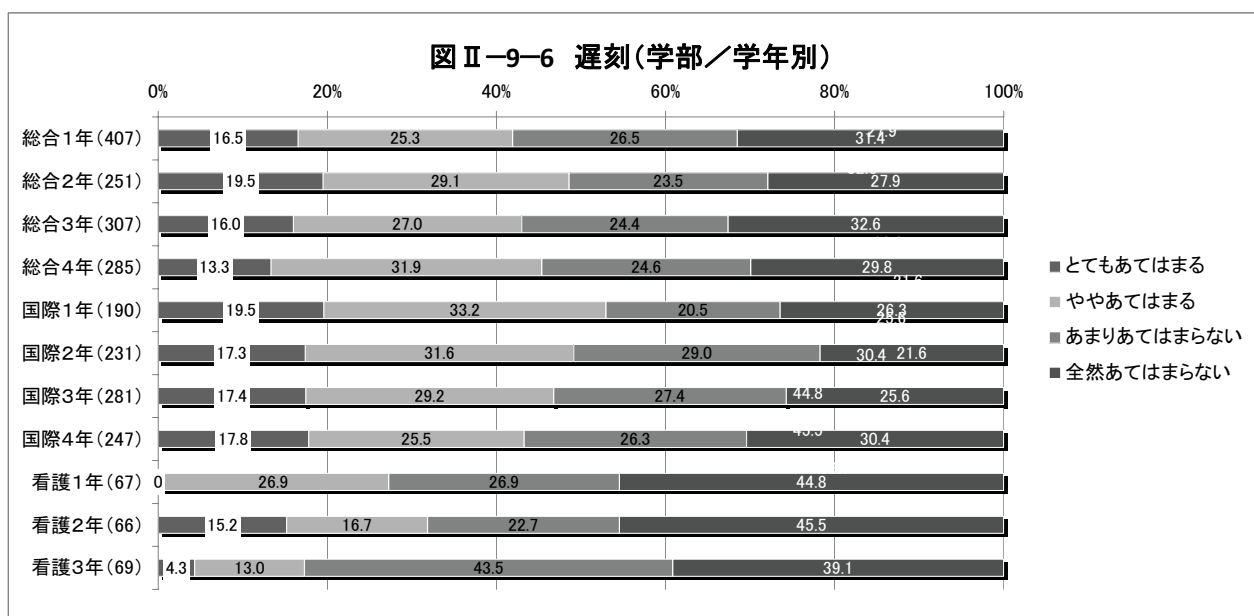
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 43%、国際コミュニケーション学部では 42%、看護学部では 61%となり、看護学部が高い水準であった（図Ⅱ-9-5）〔基礎表 1-9-5〕。



6) 遅刻

「朝、起きられずに遅刻することがある」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」16%「ややあてはまる」28%、「あまりあてはまらない」26%、「全然あてはまらない」30%となっている。4割の学生が朝起きられずに遅刻することがあると回答している。

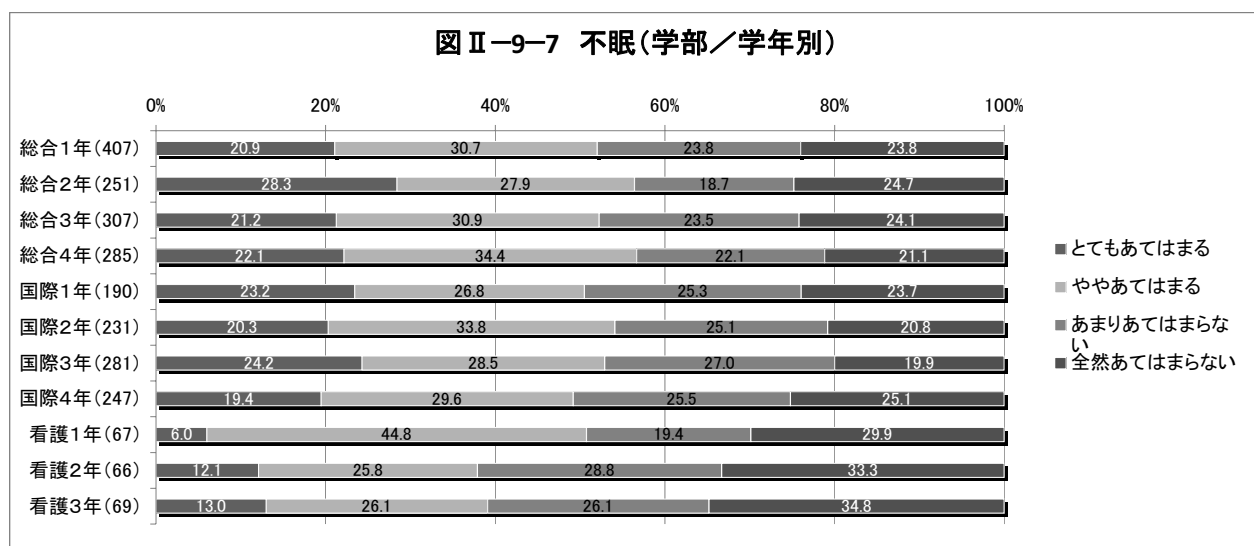
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では44%、国際コミュニケーション学部では48%、看護学部では25%となった（図Ⅱ-9-6）〔基礎表1-9-6〕。



7) 眠れないこと

「夜、眠れないことがある」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」21%、「ややあてはまる」31%、「あまりあてはまらない」24%、「全然あてはまらない」24%となっている。5割強の学生が、「夜、眠れないことがある」に該当する。

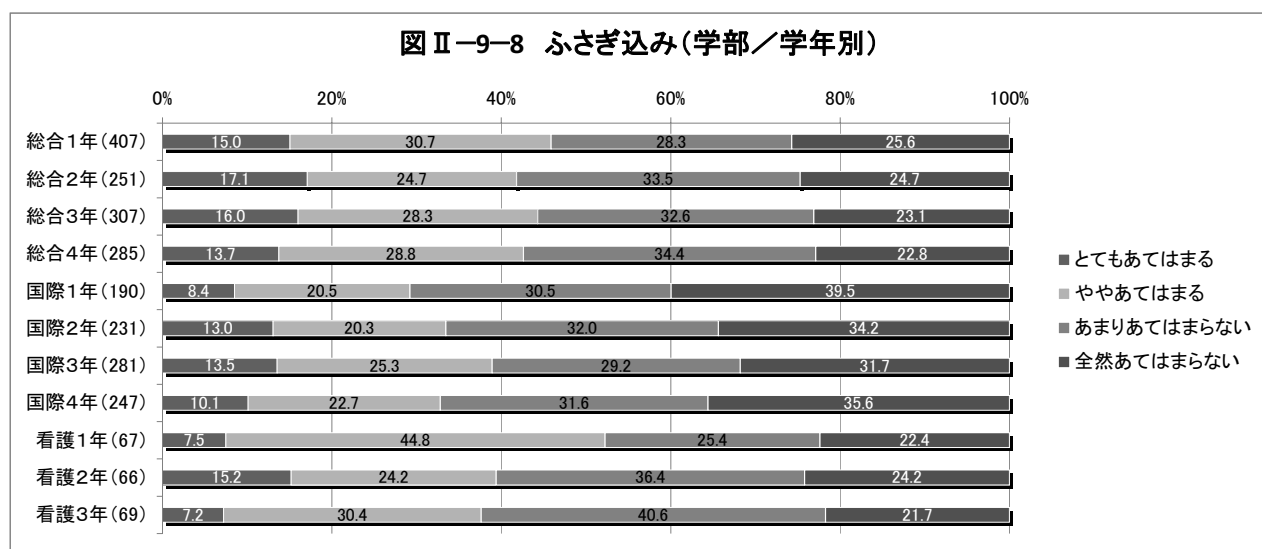
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では54%、国際コミュニケーション学部で52%、看護学部では43%となった（図Ⅱ-9-7）〔基礎表1-9-7〕。



8) ふさぎ込み

「ふさぎ込んでしまうことがある」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」13%、「ややあてはまる」26%、「あまりあてはまらない」32%、「全然あてはまらない」28%となっている。4割の学生が、「ふさぎ込んでしまうことがある」ことになる。

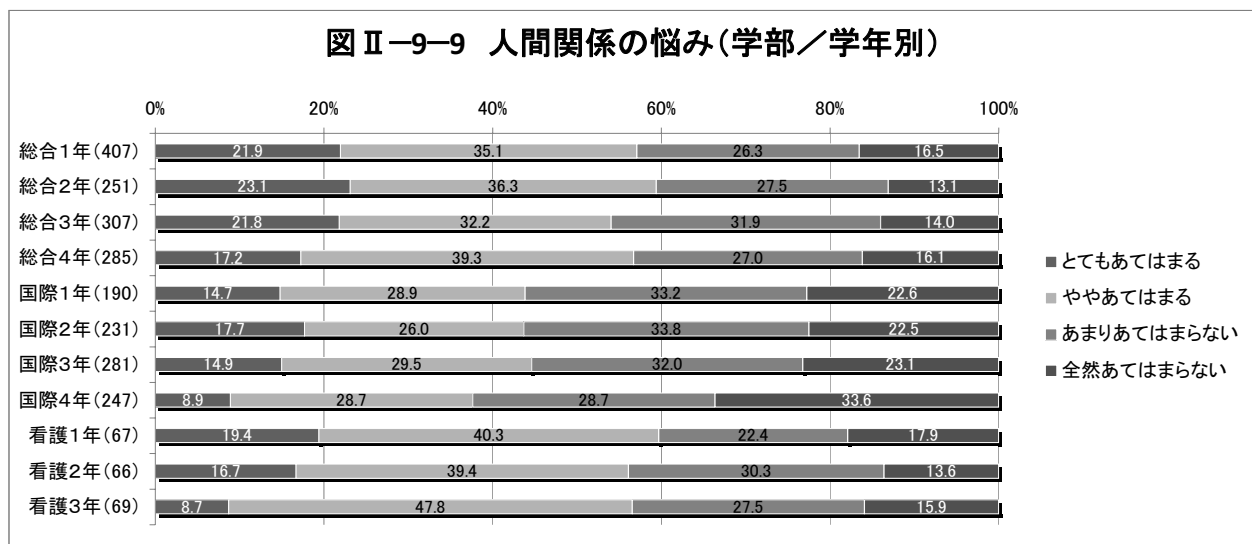
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では44%、国際コミュニケーション学部では34%、看護学部では43%となり、総合福祉学部および看護学部の学生の方は国際コミュニケーション学部の学生より約10ポイント高い（図Ⅱ-9-8）〔基礎表1-9-8〕。



9) 人間関係の悩み

「人間関係で悩むことがある」という設問の回答結果をみると、「とてもあてはまる」 18%、「ややあてはまる」 33%、「あまりあてはまらない」 29%、「全然あてはまらない」 19%となっている。半数強の学生が、「人間関係で悩むことがある」に該当する。

「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を統合して＜あてはまる＞群とし、学部別にみると、総合福祉学部では 57%、国際コミュニケーション学部では 42%、看護学部では 58%となり、抑鬱と同様に、総合福祉学部および看護学部の方が国際コミュニケーション学部よりも約 15 ポイント高かった（図Ⅱ-9-9）〔基礎表 1-9-9〕。

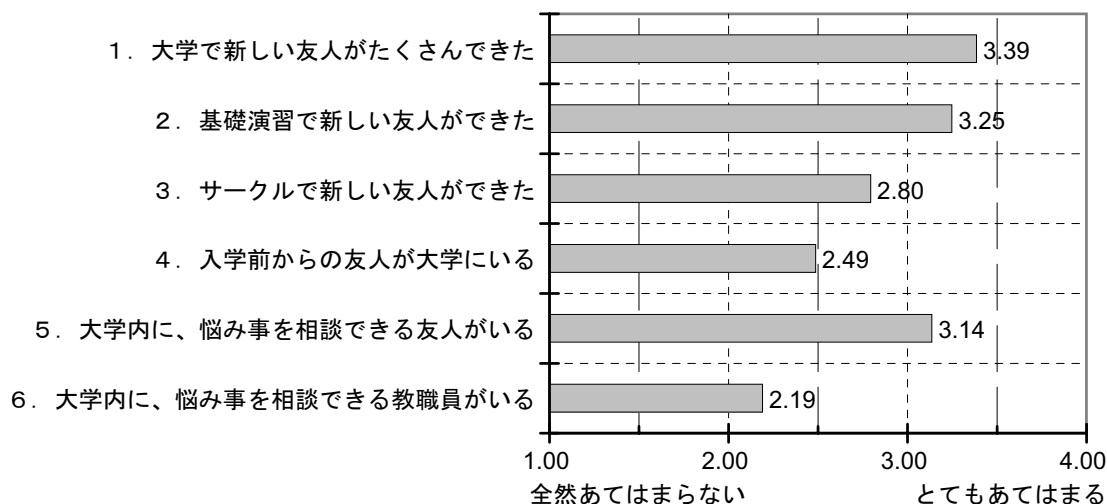


(10) 大学内の人間関係

大学内の人間関係は、学生が大学に適応していくにあたっての重要な要素である。そこで、「大学で新しい友人がたくさんできた」「基礎演習（学問の基礎）で新しい友人ができた」「サークルで新しい友人ができた」「入学前からの友人が大学にいる」「大学内に、悩み事を相談できる友人がいる」「大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる」という項目について尋ね、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4段階で回答を求めた。ここでは、それぞれの項目について、「とてもあてはまる」を4点「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全然あてはまらない」を1点として、無回答を除いて平均値を求めた（注：質問紙の問いでは「とてもあてはまる」が4、「ややあてはまる」が3、「あまりあてはまらない」が2、「全然あてはまらない」が1となっており、それを、人間関係が獲得できているほど点数が高くなるように得点を逆転させた）（図Ⅱ-10-1）。

「大学で新しい友人がたくさんできた」「大学内に、悩み事を相談できる友人がいる」の得点の平均値が「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の間にあることから、本学の学生は平均して、友人作りに成功しており、必要な友人ネットワークを形成していると推測され、そのきっかけとしては、基礎演習の役割が大きいことが分かる。

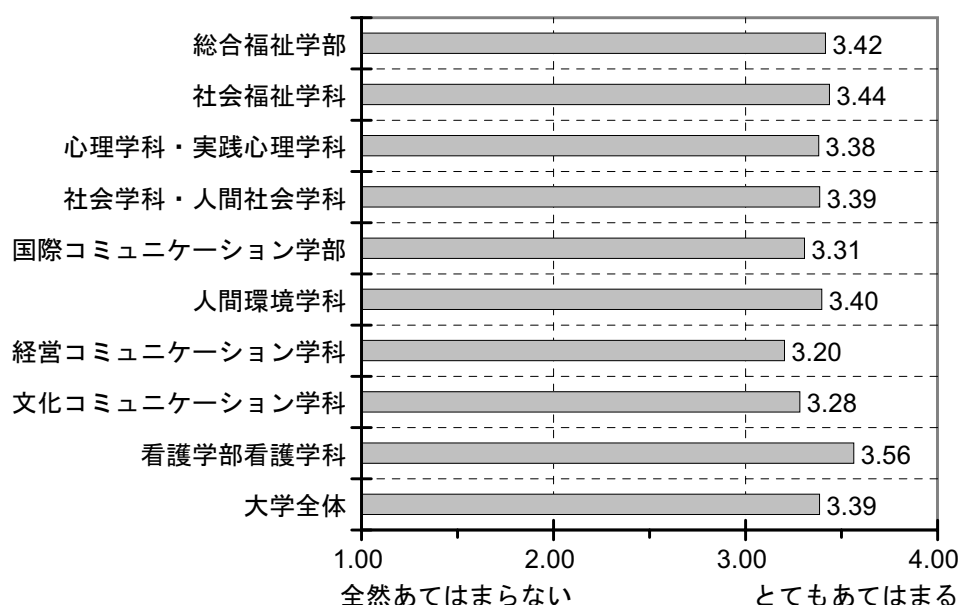
図Ⅱ-10-1 大学内での人間関係(大学全体)



1) 新しい友人

次に、各項目それぞれについて、学部・学科ごとの平均値を示す。まずはじめに、「大学で新しい友人がたくさんできた」という項目については、図Ⅱ-10-2 のようになっている。どの学部・学科も得点が高いが、特に看護学部看護学科が高得点となっている〔基礎表 1-10-1〕。

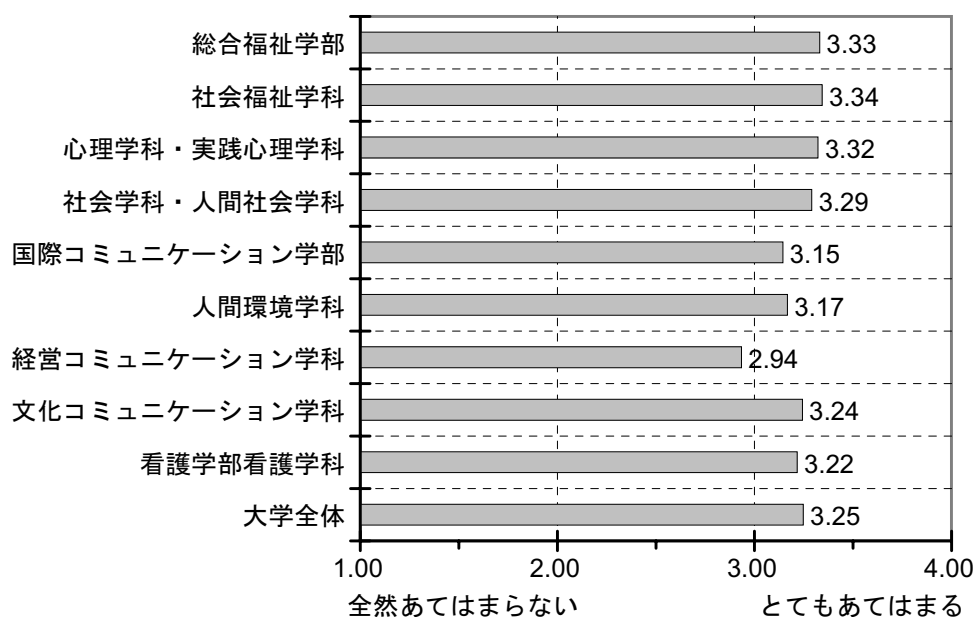
図Ⅱ-10-2 大学で新しい友達がたくさんできた（学部・学科別）



2) 基礎演習での新しい友人

「基礎演習（学問の基礎）で新しい友人ができた」という項目について、同様の方法で平均値を求めたところ、図Ⅱ-10-3の通りになった。経営コミュニケーション学科の得点が若干低い[基礎表1-10-2]。

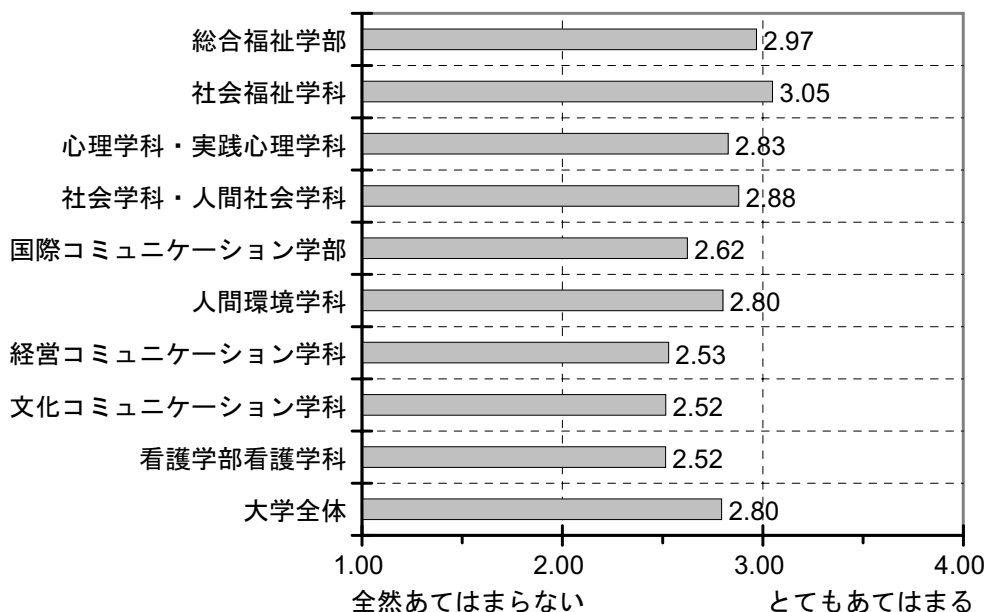
図Ⅱ-10-3 基礎演習で新しい友人ができた（学部・学科別）



3) サークルでの新しい友人

「サークルで新しい友人ができた」という項目について、同様の方法で平均値を求めたところ、図Ⅱ-10-4の通りになった。総合福祉学部の3学科が他学部他学科に比べて高得点となっていることがわかる〔基礎表 1-10-3〕。

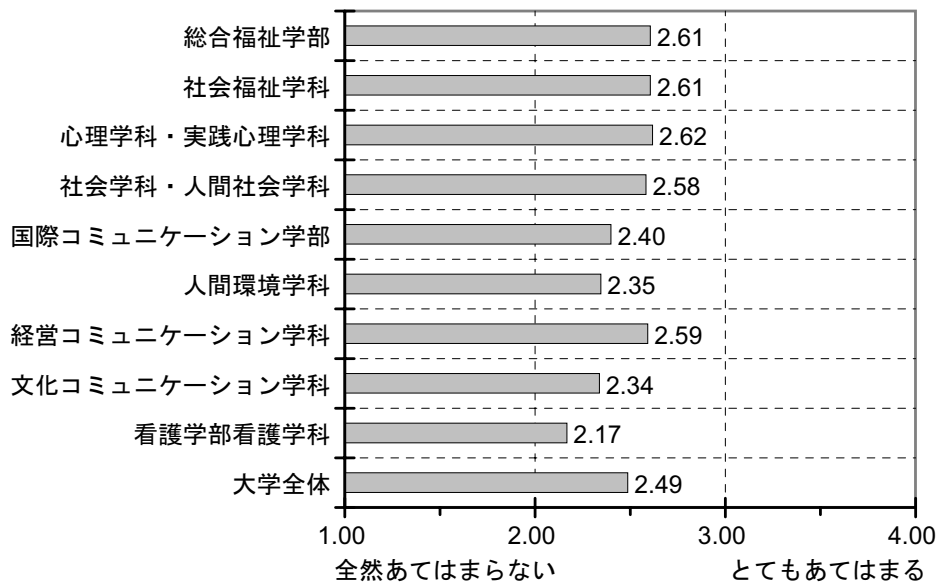
図Ⅱ-10-4 サークルで新しい友人ができた（学部・学科別）



4) 入学前からの友人

「入学前からの友人が大学にいる」という項目についても、同様の方法で平均値を求めた（図Ⅱ-10-5）。総合福祉学部、国際コミュニケーション学部、看護学部の順に得点が高いが、これは、設立年度がその順に古い（看護学部にはまだ4年生がいない）ことと関係があると思われる〔基礎表 1-10-4〕。

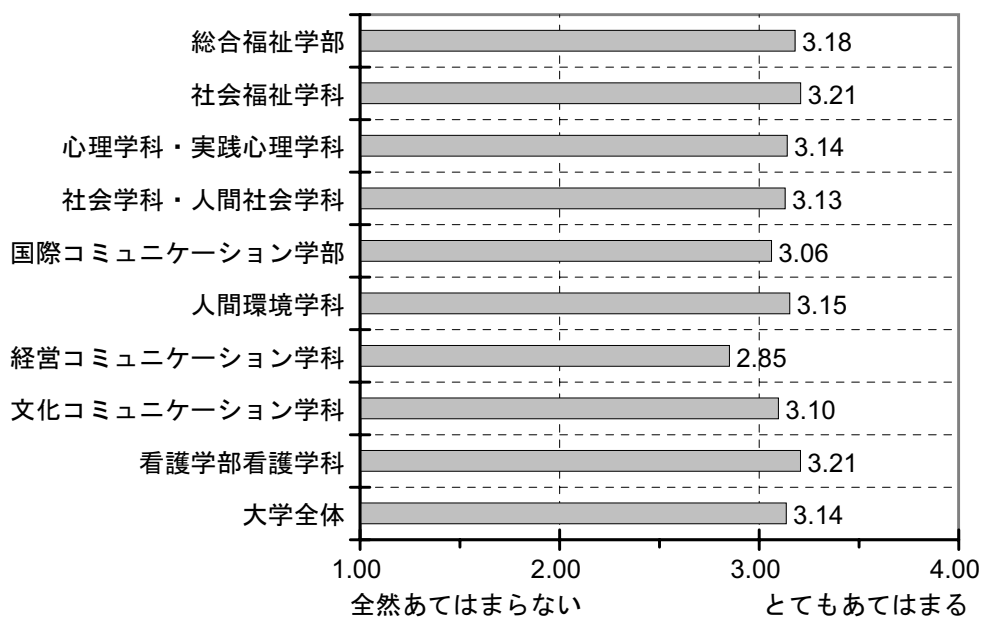
図Ⅱ-10-5 入学前からの友人が大学にいる（学部・学科別）



5) 悩み事を相談できる友人

「大学内に、悩み事を相談できる友人がいる」という項目についても、同様の方法で平均値を求めた（図Ⅱ-10-6）。どの学部・学科についても得点が高いが、経営コミュニケーション学科が若干低くなっている〔基礎表 1-10-5〕。

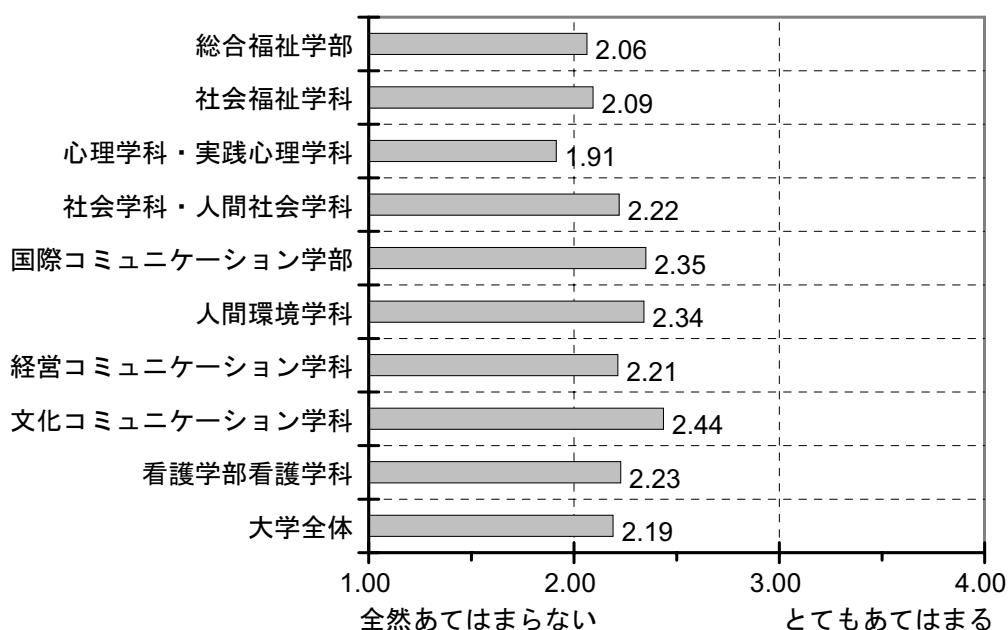
図Ⅱ-10-6 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる（学部・学科別）



6) 悩み事を相談できる教職員

「大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる」という項目についても、同様の方法で平均値を求めた（図Ⅱ-10-7）。友人に比して教職員に悩みを相談できないのは当然だが、国際コミュニケーション学部の文化コミュニケーション学科と人間環境学科の得点が高く、「あてはまる」とも「あてはまらない」ともいえない状況である。これに対し、実践心理学科の得点は若干低く、「あまり」から「全然」あてはまらない状況である〔基礎表 1-10-6〕。

図Ⅱ-10-7大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる（学部学科別）



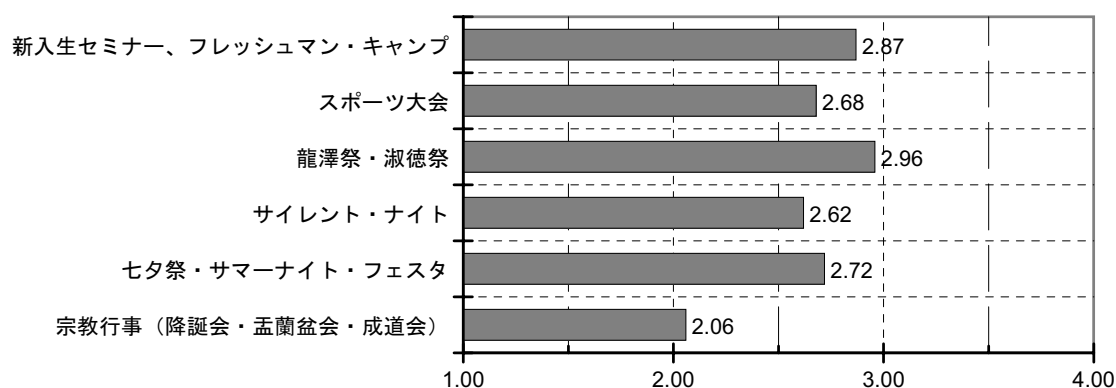
(11) 大学の行事・イベント

大学の行事やイベントは、大学への帰属意識を高め、大学に受け継がれてきた文化や建学の精神伝承していく上で重要なものである。大学側から学生に求めなければならない水準や伝えるべき文化や建学の精神をおろそかにすることはできない一方で、学生が行事やイベントをどう評価しているかを知ることは、行事やイベントの意味を本当の意味で伝えるためにも必要である。

その観点から、「新入生セミナー（総合福祉学部、看護学部）、フレッシュマン・キャンプ（国際コミュニケーション学部）の内容」「スポーツ大会の内容（総合福祉学部、国際コミュニケーション学部）」、「龍澤祭（総合福祉学部、看護学部）・淑徳祭（国際コミュニケーション学部）の内容」、「サイレント・ナイトの内容」、「七夕祭（千葉）・サマーナイト・フェスタ（みずほ台）の内容」、「宗教行事の内容（降誕会・盂蘭盆会・成道会）」という各項目について、「よかった」「まあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」「参加していない」という5つの選択肢から当てはまるものを選択させた。

図Ⅱ-11-1は、「よかった」を4点、「まあよかった」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「よくなかった」を1点とし、「参加していない」という回答を除いて平均得点を算出し、グラフ化したものである（質問紙では「よかった」が1、「まあよかった」が2、「あまりよくなかった」が3、「よくなかった」が4、「参加していない」が5の選択肢となっているが、評価が高いほど得点が高くなるように、得点を逆転させた）。

図Ⅱ-11-1 行事・イベント内容への評価①(大学全体)

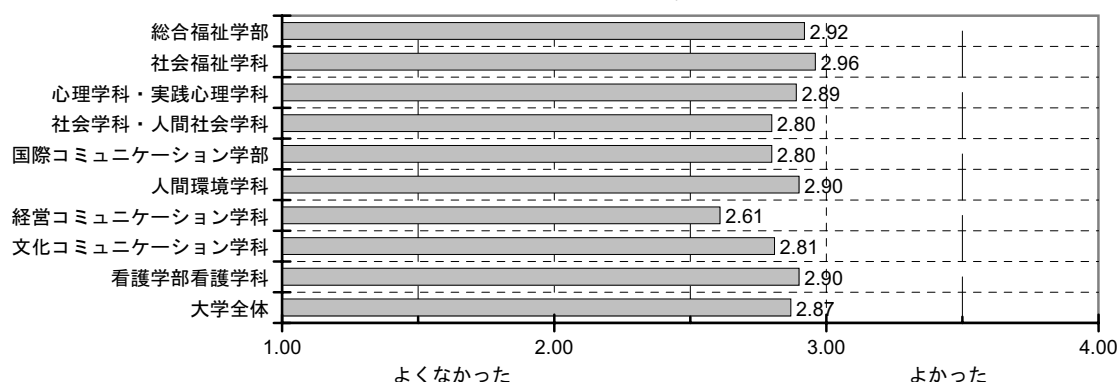


長期にわたる準備を必要とする「龍澤祭・淑徳祭」や、宿泊を含んだ「新入生セミナー、フレッシュマン・キャンプ」のような、楽しみの要素と共に負荷も高い行事の評価が高く、「セタ祭・サマーナイト・フェスタ」「スポーツ大会」「サイレント・ナイト」等の行事がそれに続く。それとは対照的に、宗教行事は得点が低い。

次に、各行事ごとの平均値を、学部・学科別に集計したグラフを示す（図Ⅱ-11-2～7）〔基礎表 1-11-1～6〕。

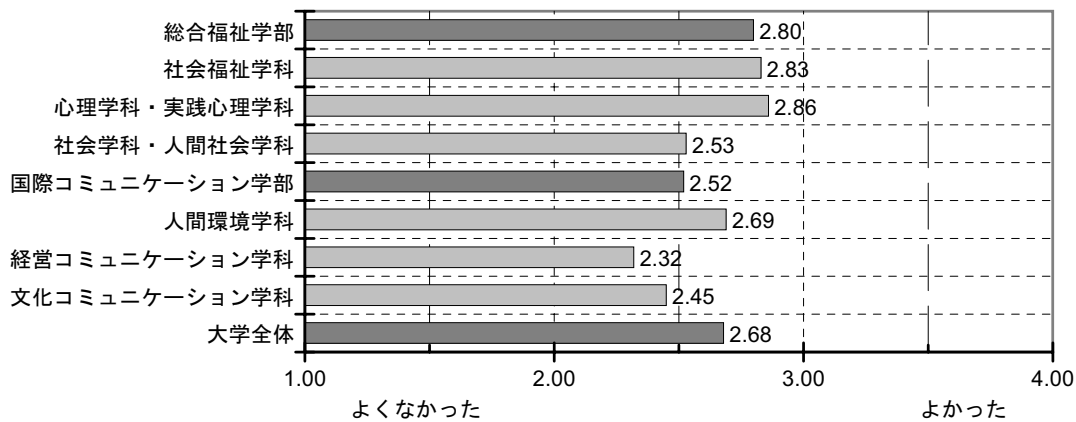
図Ⅱ-11-2 行事・イベント内容への評価②

新入生セミナー・フレッシュマンキャンプ(学部学科別集計)



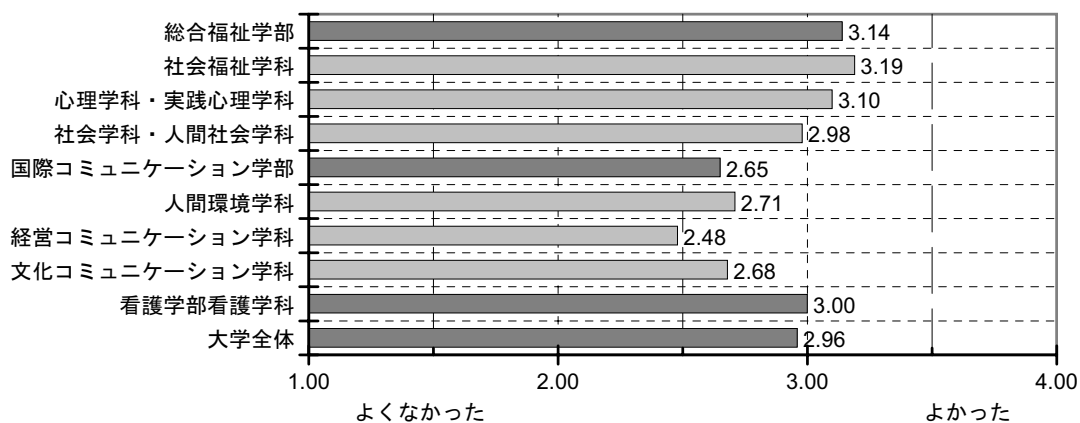
図Ⅱ-11-3 行事・イベント内容への評価③スポーツ大会

(総合福祉学部・国際コミュニケーション学部・学部学科別集計)



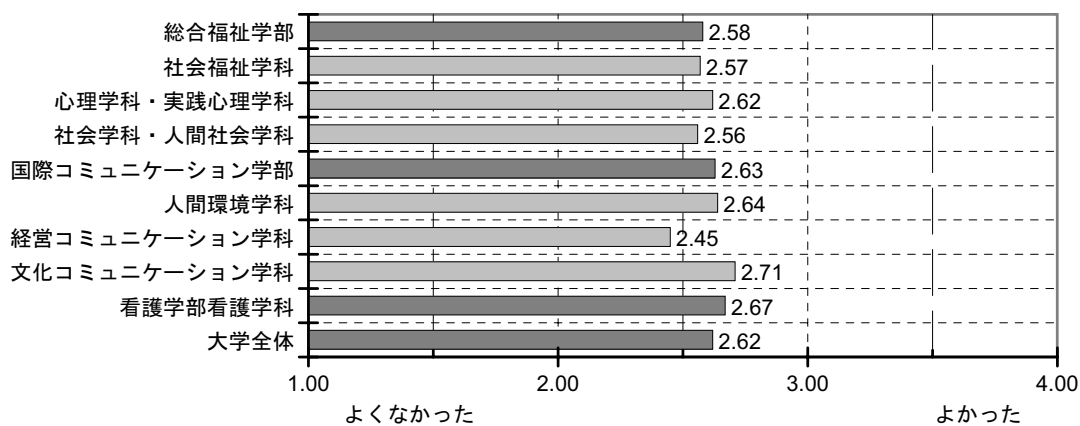
図Ⅱ-11-4 行事・イベントへの評価④

龍澤祭・淑徳祭(学部学科別集計)

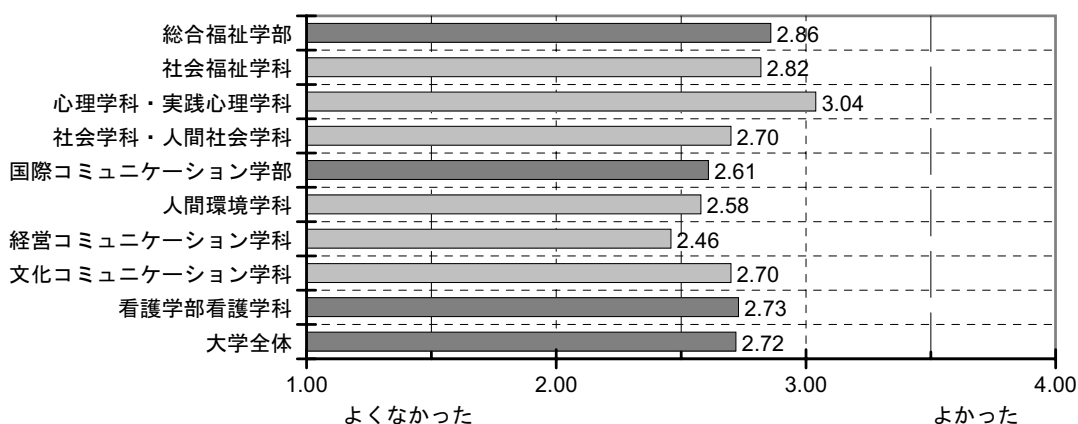


図Ⅱ-11-5 行事・イベントへの評価⑤

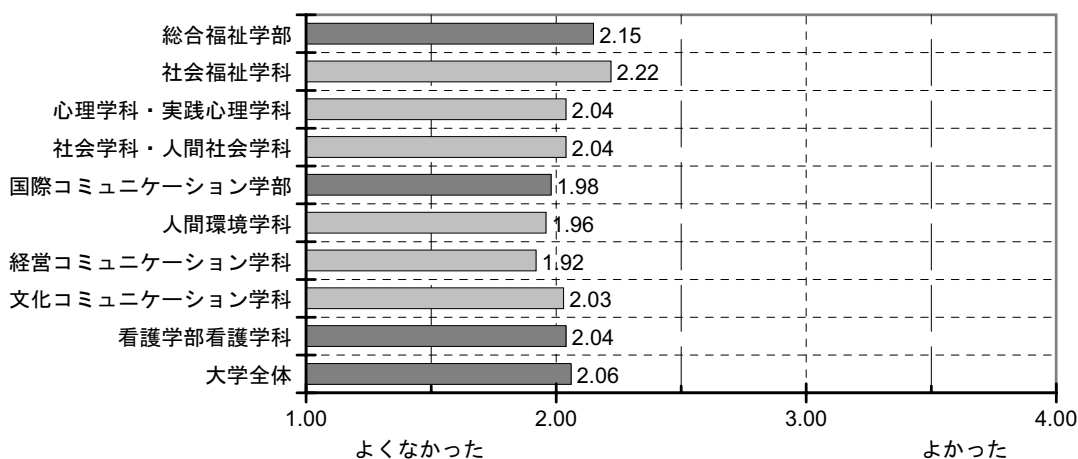
サイレント・ナイト(学部学科別集計)



図Ⅱ-11-6 行事・イベントへの評価⑥
七夕祭、サマーナイト・フェスタ (学部学科別集計)



図Ⅱ-11-7 行事・イベントへの評価⑦宗教行事 (学部学科別集計)



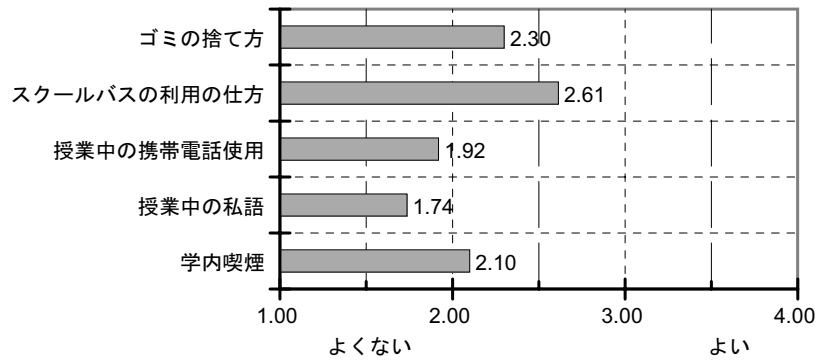
(12) 学生のマナー

「学内の喫煙に関するマナー」「授業中の私語」「授業中の携帯電話使用」「スクールバスの利用の仕方」「ゴミの捨て方」の各項目について、「マナーがよいと思う」「まあよいと思う」「あまりよくないと思う」「マナーがよくないと思う」の4段階の選択肢で評価させた。「マナーがよいと思う」を4点、「まあよいと思う」を3点、「あまりよくないと思う」を2点、「マナーがよくないと思う」を1点として平均値を求め、大学全体の4項目の平均が図Ⅱ-12-1である（なお、質問紙では「マナーがよいと思う」が1、「まあよいと思う」が2点、「あまりよくないと思う」が3、「マナーがよくないと思う」が4となっており、それらの得点を逆転させた）。

その結果を見ると、すでに示してきたように、授業中の私語や携帯電話の使用についてのマナーは、大学全体としても各学部別でも、よいとは感じていない。これに対して、スクールバスの利用に関するマナーは、総じてよいと感じていた。ゴミの捨て方に関しては、学部別にやや違いが見られ、看護学部ではも

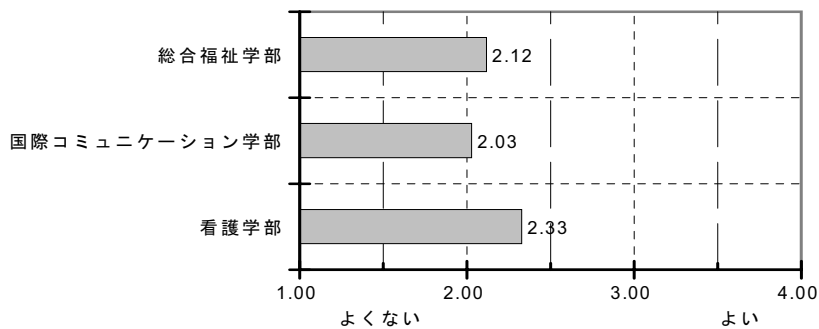
つとも評価が高く（2.63）、総合福祉学部（2.31）、国際コミュニケーション学部（2.21）の順に評価が低くなった。

図Ⅱ-12-1 学生のマナー平均点（大学全体）

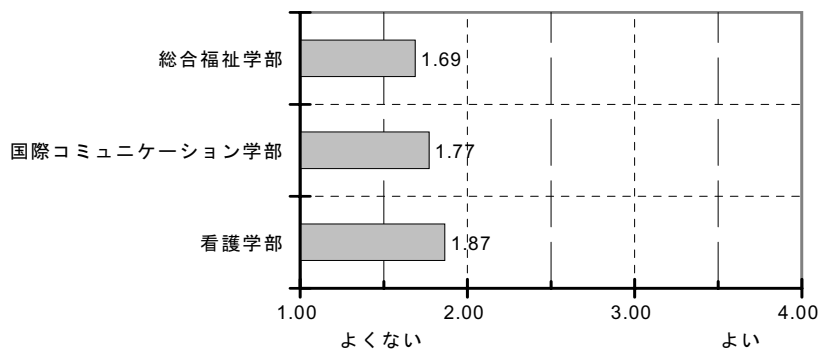


各々の項目について、評価者の学科別に集計したのが図Ⅱ-12-2～5 である。

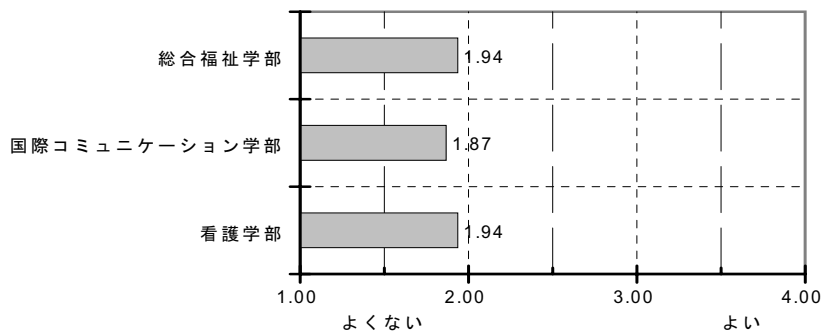
図Ⅱ-12-2 学内の喫煙マナー



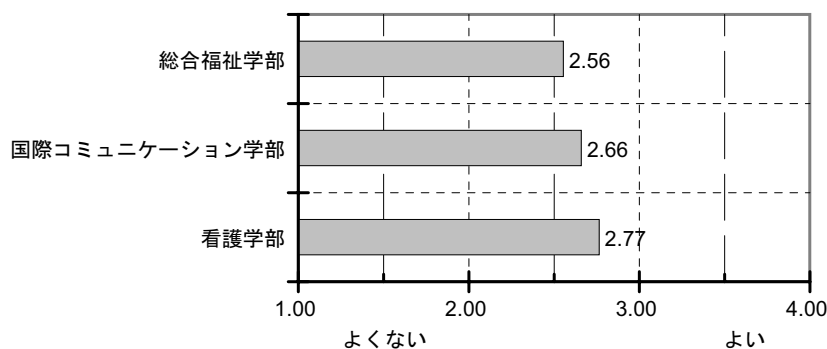
図Ⅱ-12-3 授業中の私語のマナー



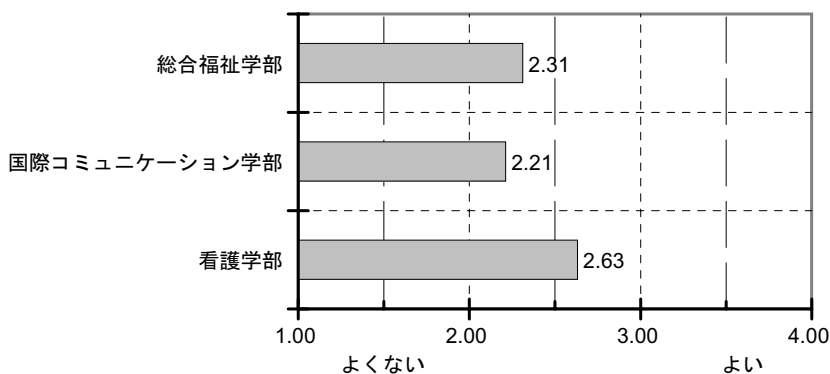
図Ⅱ-12-4 授業中の携帯電話使用のマナー



図Ⅱ-12-5 スクールバスの利用マナー



図Ⅱ-12-6 ゴミの捨て方のマナー

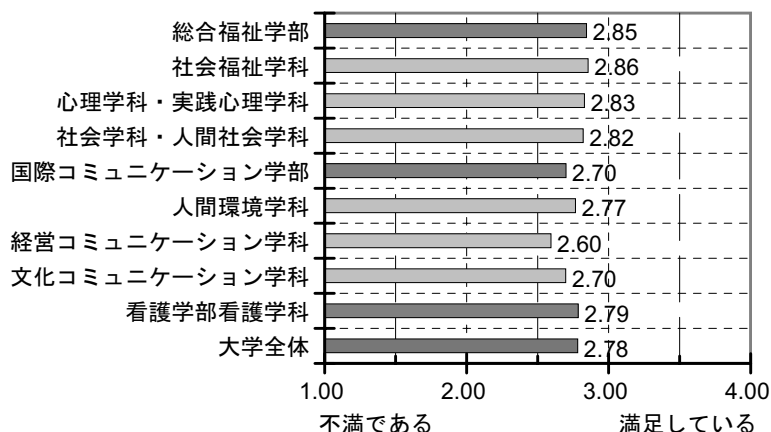


(13) 学生生活全体の評価

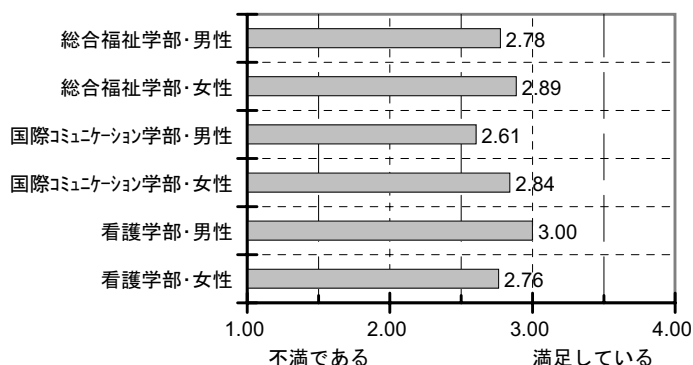
「あなたは、全体的に自分の学生生活をどう評価していますか」という質問項目について、「とても満足している」「どちらかという満足している」「どちらかという不満である」「とても不満である」のうちから当てはまるものを選んで回答させた。「とても満足している」を4点、「どちらかという満足している」を3点、「どちらかという不満である」を2点、「とても不満である」を1点として、学部・学科別、学部・性別、学部・学年別に平均値を求め、グラフ化したものが、図Ⅱ-13-1～3である。

3つの学部間に目立った差はない。性別では、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では女子の方が満足度が高いが、看護学部では男子の方が満足度が高い。学年別の推移は、小さな差であるけれども、1年生から2年生にかけて僅かに満足度が落ち、4年生で一番高くなるという同じ傾向が見られる。

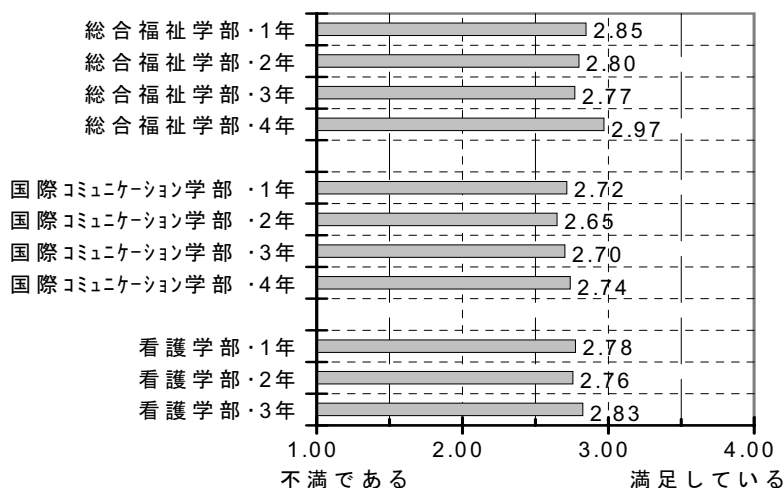
図Ⅱ-13-1 学生生活全体の評価(学部学科別)



図Ⅱ-13-2 学生生活全体の評価(学部・性別)



図Ⅱ-13-3 学生生活全体の評価(学部・学年別)



2. 学生生活への満足度

ここでは、教育環境や授業、大学生生活全般についての満足度を 52 の設問によってたずねた結果を述べる。各項目は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「該当しない」のいずれかで答える形式である。問われている設備やサービスを利用していないなどの理由から回答が困難な場合は、「該当しない」と回答することを想定しているため、その場合や誤記入などを除外した「回答率」も算出してある。

さらに、各項目についての平均的な満足度を示す指標として、つぎのような「不満足度スコア」を算出した。「満足」を+1、「やや満足」を+2、「やや不満」を+3、「不満」を+4として、各項目ごとに平均点を算出した。したがって、このスコアは、回答者全員が「満足」であった場合+1、全員が「不満」であった場合に+4 ということになる。こうしたスコアを用いることで、学部・学科の特徴、性差・学年差などを端的に示すことができる。ただし、対象となる学部を限定した設問や、「該当しない」との回答が多数であった場合などもあるので、結果の評価でもこれらの点には考慮している。

以下の記述は、原則として上記の集計方法に基づくものとし、「満足」と「やや満足」の回答率を合計したものを〈満足〉群、同様に「やや不満」と「不満」の回答率の合計を〈不満〉群として3学部の回答比率と不満足度スコアを要約した（表Ⅱ-2-1~4）。なお、学年別の結果を述べる際には、回答数がわずかである5年次以上の結果は除いてある。

（1）各学部における結果の概要

授業科目の豊富さでは、総合福祉学部と看護学部が共に70%の満足度、国際コミュニケーション学部が53.9%であった。Web履修はおおむね6割が満足。時間割と履修指導については満足度が高いとは言えない。授業内容に関しては、その専門性と就職との関連性が、3学部で満足度の違いにも反映されていると考えられる。なお、英語科目の授業内容において、国際コミュニケーション学部の満足度が3学部中最も低い状況は、早急に改善されるべきであろう。教員との関係もこの点と関係があるようにも思われる。オフィス・アワーについては、この制度が十分理解されているとは言えない部分、活用されていないと思われる部分がある。全般的には、看護学部での満足度が高いといえる（表Ⅱ-2-1）。

教室に関する質問項目では、特に看護学部の学生が不満を持っていた。それ以外の項目では、おおむね満足度の方が高いようであるが、各学部の違いもあるので「該当しない」と回答した割合を考慮して結果を見るべきである（表Ⅱ-2-2）。サークル活動についても「該当しない」と回答した学生が一定数いるが、回答した学生の不満は高いと言える。グラウンド（更科・みずほ台・坂戸）についても「該当しない」との回答が5割から8割と、利用しない学生が多く、それを差し引いた満足度も低い状態にある。

事務局業務については、職員の対応に関しては比較的満足しているが、総合福祉学部では5割以上が不満と回答している。また、「お知らせのわかりやすさ」「事務（事務局の仕事）の迅速さ」については、全体的に満足度が低い項目として注目される。スクールバスの運行に関しては、運転士に対する好評価

がある一方、運行時間帯に対しての満足度は低く、特に看護学部 of 学生が強い不満を感じていた。その他の学生サービスに関しては、学部固有のものや「該当しない」と回答した学生数によっても評価が異なるが、例えば保健室の利用のしやすさについては、看護学部での不満が高い傾向が認められた（表Ⅱ-2-3）。

食堂の広さや座席数に関しては、本調査の中で最も不満の高い項目であった。雰囲気や営業時間、料理の質や量、値段についても満足度は低い反面、食堂の職員の態度や対応に関しては、非常に高い満足度になっていた。

（2）授業・教員関連事項に関する満足度

ここでは設問のうち、授業と教員に関する満足度をたずねた項目 1 から 10 までについて取り上げる（表Ⅱ-2-1）。

1. 授業科目の種類（豊富さ）

大学全体の満足度は 64.4% である。総合福祉学部では、＜満足＞群 71.4%（スコア 2.15）であり、カリキュラムの充実度について学生はほぼ満足しているといえる。看護学部でもほぼ同様の傾向（＜満足＞群 70.3%）である。これに対して国際コミュニケーション学部では、＜満足＞群は 53.9% で、前回調査より 11 ポイント上昇した。しかし、＜不満足＞群も 44.0%（スコア 2.46）で、約半数の学生がカリキュラムの充実度に不満を持っている。各学部とも、性別、学年別にみてもこの傾向は共通している〔基礎表 2-1〕。

2. w e b 上での履修登録

大学全体の満足度は 60.3% である。＜満足＞群は、総合福祉学部 58.4%、国際コミュニケーション学部 61.9%、看護学部 64.4% と、ほぼ全体の傾向と一致していた。

また、国際コミュニケーション学部の女子（スコア 2.16）、同学部 1 年から 3 年（スコア 2.15 から 2.19）、看護学部 1 年（スコア 1.92）が、比較的高い満足度を示していたと言える〔基礎表 2-2〕。

3. 授業の時間割の組み方

大学全体の満足度は 50.3%である。総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では、＜満足＞群 50.7%と同じであるが、スコア的には前回より向上している。看護学部では＜満足＞群が 44.0%で不満が上回った。

総合福祉学部・国際コミュニケーション学部とも性別・学年に関係なく 2.50 前後のスコアをつけている。看護学部では、1 年次 (2.48) より 2 年次の不満度 (2.85) が高いが、3 年次 (2.58) では若干改善している [基礎表 2- 3]。

4. 履修指導・履修相談のあり方

大学全体の満足度は 49.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部で 43.4% (2.61)、看護学部 51.0% (2.51)、国際コミュニケーション学部 56.5% (2.46) の順に増加するが、全体として高い満足度にあるとは言えない。

このうち、国際コミュニケーション学部と看護学部では、女子の方が満足度で 10 ポイント以上、男子を上回っていた。学年別では、総合福祉学部と看護学部では、学年が上がるとともにスコアがやや高くなる傾向が認められた。一方、国際コミュニケーション学部では 2 年次以降のスコアがやや低下し、不満度が低くなる、他の学部とは逆の傾向が認められた。 [基礎表 2- 4]。

5. 専門演習（千葉）、基礎演習 2・演習（みずほ台）の選考方法

この項目は看護学部以外の 2 学部を対象としたものである。＜満足＞群は総合福祉学部 63.9% (2.15)、国際コミュニケーション学部 61.0% (2.31) という結果になった。国際コミュニケーション学部でスコアが高いのは、総合福祉学部で「該当しない」と回答した学生 (12.9%) が一定数いたことと、国際コミュニケーション学部の「やや不満」 (24.9%) と回答した学生の割合が、総合福祉学部 (16.0%) よりも高かったことによる。

性別では、総合福祉学部では男女ともほぼ同じ (2.1～2.2) だが、国際コミュニケーション学部では男子 (2.40) よりも女子 (2.18) のスコアがやや低い。学年でみると、総合福祉学部では学年が上がるほどスコアが低くなるのに対して、国際コミュニケーション学部ではほぼ同様の値を示した。この項目はゼミの選考方法について問うものではあるが、選択の時期は限られているので、選抜後のゼミにおける満足度も反映されている可能性も考えられる [基礎表 2- 5]。

6. 講義科目の授業内容

大学全体の満足度は 66.4%である。＜満足＞群は、看護学部 74.7% (2.21)、総合福祉学部 70.4% (2.21)、国際コミュニケーション学部 59.2% (2.35) の順になった。パーセンテージに対してスコアにそれほど差がないのは、「満足」よりも「やや満足」と回答した学生の割合が高いことも原因となっている。男女別あるいは学年別のスコアについては、いずれも 2.2 前後で大きな違いは認められなかった [基礎表 2- 6]

7. 英語科目の授業内容

大学全体の満足度は 58.3%である。＜満足＞群は、看護学部 73.3% (2.19)、総合福祉学部 62.1% (2.32)、国際コミュニケーション学部 50.2% (2.49) の順に高かった。看護学部においては「やや満足」が 62.4%であることが、この結果となった要因である。一方、総合福祉学部、国際コミュニケーション学部とも、前回よりは満足度は高まっている。

性別でみると、3 学部とも共通して男子の不満を表すスコアが女子に比べてやや高く、特に看護学部では、男子の＜不満足＞群 (65.0%) が女子 (29.8%) の約倍高いポイントを示した。学年別にみると、各学部ともそれほど大きな変化はない。

いずれにしても、「国際」の看板を掲げている国際コミュニケーション学部の満足度が最も低いという点に関しては、今後何らかの対策を考えるべきであろう [基礎表 2- 7]。

8. 免許・資格関連科目の授業内容

大学全体の満足度は 56.6%である。＜満足＞群は、看護学部 70.3% (2.11)、総合福祉学部 66.4% (2.15) であるのに対して、国際コミュニケーション学部では 40.9% (2.60) と、学部間で満足度に差がみられた。男女別、学年別でみてもこの傾向は変わらないが、各学部ともやや女子の満足度が高いようである。

免許・資格に直結しているかどうかという各学部の特徴を、ある意味よく繁栄していると言える結果である。反面、幅広く多様な学習をできるという要素が入ってきた場合の出口対策が不十分とも言える結果ともみることができるだろう [基礎表 2- 8]。

9. 教員の学生に対する態度

大学全体の満足度は 61.2%である。＜満足＞群は、看護学部＜満足＞群 79.2%（2.11）、総合福祉学部 60.4%（2.37）、国際コミュニケーション学部 58.7%（2.34）の順に高かった。学生は教員の態度に対して一定の評価をしており、特に看護学部では高い満足度を示していた。一方、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では、はっきり＜不満＞と回答している学生は約 10%である。まずは、＜やや不満＞と回答している3割弱の学生への対応について検討してくべきと思われる。男女別あるいは学年別でも、各区学部のスコアは全体とほぼ同様の結果であった〔基礎表 2- 9〕。

10. オフィス・アワーの状況

大学全体の満足度は 41.6%である。ただし、「該当しない」を選択した回答が総合福祉学部で 42.4%、国際コミュニケーション学部では 16.1%を示しており、その点も考慮して満足度を考えなければならないだろう。両学部とも、前回の調査と傾向としての変化はない。一方、看護学部では 60.9%が満足と回答しており、その差異がでた。スコアは総合福祉学部 2.46、国際コミュニケーション学部 2.44、看護学部 2.23 であり、実施状況に対応している。

以上の結果からすると、オフィス・アワーについてどのように周知しているか、それも含めて制度を理解しているか、改めて確認するなどの設問を設けるべきかもしれない〔基礎表 2- 10〕。

（3）教室・備品・設備等の整備状況に関する満足度

ここでは、設問のうち、教室、図書館、コンピュータ教室といったことの満足度をたずねる項目 11 から 14、18 から 24、36 から 41 までを取りあげる（表Ⅱ- 2- 2）。

11. 教室の広さ

大学全体の満足度は 62.8%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 68.3%（2.19）、国際コミュニケーション学部 62.7%（2.27）、看護学部 29.2%（2.94）で、総合福祉学部、国際コミュニケーション学部ともほぼ半数以上の学生が満足と回答し、前回調査より満足度が向上した。しかし、看護学部では、スコア 3.14 とかなり低い満足度である。男女別、学年別でも総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では、ほぼ同様の傾向を示している。一方看護学部においては、1年次 2.61 であるのに対して、2年次 2.61、3年次 3.05 と、学年が上がるに従い、不満の割合が微増している〔基礎表 2- 11〕。

12. マイクなどの教室の音響

大学全体の満足度は 65.0%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 66.4% (2.23)、国際コミュニケーション学部 66.6% (2.18) で、看護学部 49.0% (2.56) で、総合福祉学部、国際コミュニケーション学部とも前回アンケートより、満足度が微増しており、半数以上の学生が満足している。一方、看護学部では若干不満足度が高い。男女別、学年別でもこの傾向は同様であった。特に看護学部では、1 年次から半数以上の学生が不満を感じている〔基礎表 2- 12〕。

13. プロジェクター・ビデオなどの教室の視聴覚設備

大学全体の満足度は 66.6%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 62.9% (2.29)、国際コミュニケーション学部 70.4% (2.12)、看護学部 71.8% (2.22) で、3 学部とも 6 割以上の学生が満足と回答している。男女別でみると、国際コミュニケーション学部 (男子 2.21/女子 1.99) と看護学部 (男子 2.50/女子 2.19) において、やや女子の満足度が高い傾向がみられた〔基礎表 2- 13〕。

14. エアコンなどの教室の環境

大学全体の満足度は 66.1%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 60.1% (2.31)、国際コミュニケーション学部 72.8% (2.05)、看護学部 70.8% (2.14) と、2 学部で前回調査より満足度が高くなっていると同時に、看護学部でも同様に満足度は高かった。男女別にみると、総合福祉学部で男子 (2.43) の方が女子 (2.11) よりも不満を感じているようである。学年別に見ると、国際コミュニケーション学部の 1 年生で若干スコアがよい (1.86) が、3 学部ともスコアは 2.2 に近く、大きな差異は見られなかった〔基礎表 2-14〕。

18. 図書館の蔵書数や蔵書の種類

大学全体の満足度は 65.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 66.7% (2.15)、国際コミュニケーション学部 64.3% (2.13)、看護学部 60.4% (2.38) で、3 学部とも 6 割を超える満足度であった。男女別でもこの傾向はほぼ同様である。学年別で見ると、看護学部では 1 年次 2.08 から 3 年次 2.62 へ、学年があがるに伴って不満足度が高くなった〔基礎表 2- 18〕。

19. 図書館の利用時間

大学全体の満足度は73.6%である。＜満足＞群は、総合福祉学部77.1.%(1.92)、国際コミュニケーション学部72.2%(2.01)、看護学部59.4%(2.46)で、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部で満足と感じている学生が多いことがわかる。また、学年別で見ても、看護学部では1年次2.08から3年次2.97へ学年があがるに伴って、不満を感じている学生が多くなった。

一方、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では男女あるいは学年別のどちらの場合もスコアはほぼ2.0に近く、大きな違いは見られなかった〔基礎表2-19〕。

20. 図書館の座席数・設備(パソコン・ビデオ・コピー等)

大学全体の満足度は61.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部56.3.%(2.33)、国際コミュニケーション学部67.2%(2.11)、看護学部64.4.%(2.33)で、国際コミュニケーション学部と看護学部で6割以上が満足と感じていた。しかし、スコアがこれに対応していないのは、国際コミュニケーション学部で「やや満足」よりも「満足」の度合いが、他の2学部よりも高かったためである。また、学年別で見ると、看護学部では1年次2.06から3年次2.62へ学年があがるに伴って、不満を感じている学生が多くなっている〔基礎表2-20〕。

21. 自習室の利用のしやすさ

この項目は総合福祉学部のみが対象となる。＜満足＞群59.1%(2.29)で、利用すると考えられる学生の半数以上が満足しているといえる。男女別の違いは小さいが、学年別で見ると、1年次2.04から4年次2.46と学年があがるに伴って、不満を感じている学生が多くなっている〔基礎表2-21〕。

22. コンピュータ室(みずほ台)・0A 演習室、PC・LL 教室、自習室の利用時間

大学全体の満足度は60.8%である。＜満足＞群は、国際コミュニケーション学部69.7%(2.07)、看護学部66.3%(2.20)、総合福祉学部53.%(2.20)の順に高かった。男女別、学年別で見てもそれほど大きな変動はないが、看護学部では1年次2.05から3年次2.43へ学年があがるに伴って、不満を感じている学生が多くなっている〔基礎表2-22〕。

23. コンピュータ室、OA 演習室、PC・LL 教室、自習室のパソコン台数

大学全体の満足度は 56.9%である。＜満足＞群は、国際コミュニケーション学部では 72.5%(2.00)、看護学部では 64.8%(2.21)、総合福祉学部 43.8%(2.44)、の順に高く、総合福祉学部では他の 2 学部に比べてかなり低いことがわかる。ただし、総合福祉学部では「該当しない」と回答した学生が 24.0%に達するので、この点を考慮する必要がある。男女別学年別にみても、ほぼ学部の傾向を反映しているといえる〔基礎表 2- 23〕。

24. 貸し出しモバイルパソコンの利用しやすさ

大学全体の満足度は 56.9%である。ただし、「該当しない」と回答した学生が総合福祉学部で 70.8%、看護学部で 72.8%となっており、この 2 学部の＜満足＞群（総合福祉学部 13.3%、看護学部 12.9%）の評価をそのまま受け取るのは妥当ではないと思われる。一方、国際コミュニケーション学部では 57.1%(2.21)と、半数以上の学生が満足と感じていた。同学部の男女別では男子(2.30)よりも女子(2.09)の方がやや満足度が高く、学年別では 1 年(1.99)から 4 年(2.28)へとやや満足度が低下する傾向が見られた〔基礎表 2- 24〕。

36. サークルの部室の数

この項目では、「該当しない」と回答した割合が、総合福祉学部で 29.6%、国際コミュニケーション学部で 33.4%、看護学部では 65.8%存在している。これを踏まえて＜満足＞群は、総合福祉学部 37.0%(2.53)、国際コミュニケーション学部 37.2%(2.40)、看護学部 12.4%(2.82)であった。

男女別でみると、総合福祉学部では男子(2.72)、女子(2.40)、国際コミュニケーション学部では男子(2.55)、女子(2.20)、看護学部では男子(3.00)、女子(2.79)で、3 学部ともに男子の方が女子よりも不満と感じている割合が高かった。

学年でみると、総合福祉学部では 2.5～2.6 の間で、2 年次(2.62)の不満足度が最も高い。国際コミュニケーション学部でも 2 年次(2.53)の不満足度が最も高い。看護学部では 1 年次(2.70)から 3 年次(3.0)へと、学年が上がるにつれて不満足度が高くなっている〔基礎表 2- 36〕。

37. サークルの部室の広さ

この項目でも、「該当しない」と回答した割合が、総合福祉学部で 33.9%、国際コミュニケーション学部で 33.2%、看護学部で 66.8%存在している。これを踏まえて＜満足＞群は、総合福祉学部 29.1%(2.66)、

国際コミュニケーション学部 34.0% (2.49)、看護学部 10.4% (2.92) で、部室の広さについては不満を感じている割合が高いといえる。

男女別でみると、総合福祉学部（男子 2.75、女子 2.61）と国際コミュニケーション学部（男子 2.59、女子 2.35）では、男子の方が女子よりも不満と感じている割合がやや高かった。学年で特に大きな変動はないが、看護学部では、1 年次 (2.83) 2 年次 (2.86) 3 年次 (3.10) と学年が上るにつれて不満を感じている学生は増えるようである [基礎表 2- 37]。

38. サークルの部室の使いやすさ

この項で「該当しない」と回答した割合は総合福祉学部 34.8%、国際コミュニケーション学部 33.5%、看護学部 66.8%存在している。＜満足＞群は、総合福祉学部 34.0% (2.50)、国際コミュニケーション学部 37.0% (2.43)、看護学部 9.9% (2.94) と、項目 36、37 と同様に不満を感じている学生が多い [基礎表 2- 38]。

39. グランド(更科・みずほ台・坂戸)の使用時間

グラウンドの使用時間に関しては、3 学部とも「該当しない」と回答した学生の割合が高い。総合福祉学部では 79.9%、国際コミュニケーション学部では 49.8%、看護学部では 86.6%が「該当しない」を選択していた。それを踏まえたスコアも 3 学部とも 2.5 前後なので、利用されていないと同時に不満と感じている学生も多いと言える [基礎表 2- 39]。

40. グランド(更科・みずほ台・坂戸)の使用の仕方

グラウンドの使用の仕方でも使用時間と同様で、両学部とも「該当しない」と回答した学生の割合が高く、総合福祉学部では 80.0%、国際コミュニケーション学部では 49.6、看護学部は 86.6%であった。男女スコアにも同様の傾向があり、総合男子 2.50、女子 2.30、国際男子 2.74、女子 2.20、看護男子 3.00、女子 2.30 という結果であった [基礎表 2- 40]。

41. トイレの数・配置

大学全体の満足度は 76.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 73.5% (2.06)、国際コミュニケーション学部 77.5% (1.99)、看護学部では 87.2% (1.72) で、男女別、学年別でも大きな変動はなく、3 学部とも学生が満足していることがわかる [基礎表 2- 41]。

42. トイレの明るさ、清潔さ

大学全体の満足度は 76.7%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 74.9% (2.03)、国際コミュニケーション学部 75.6% (2.02)、看護学部 92.5% (1.51) で、男女別、学年別でも大きな変動はなく、3 学部とも多くの学生が満足していることがわかる [基礎表 2-42]。

(4) 事務対応・学生サービスなどに関する満足度

この節では、設問のうち事務的な対応への学生の満足度をたずねる項目 15 から 17、スクールバスの運行、学習・学生生活支援などに対する満足度をたずねる項目 43 から 52 までを取り上げる (表Ⅱ-2-3)。

15. 事務局からのお知らせのわかりやすさ

大学全体の満足度は 32.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 22.7% (3.05)、国際コミュニケーション学部 42.7% (2.55)、看護学部 42.6% (2.55) であり、全体的傾向として強い不満傾向が見られる。総合福祉部と国際コミュニケーション学部では前回よりもやや改善しているが、依然として不満が高い。看護学部でも、他の項目と比較しても不満度の高い項目である [基礎表 2-15]。

16. 事務（事務局の仕事）の迅速さ

「事務局からのお知らせのわかりやすさ」同様に、満足度は総合福祉学部 36.8% (2.80)、国際コミュニケーション学部 55.2% (2.41)、看護学部 53.5% (2.55) と不満の傾向が高い。男女別では各学部とも大きな違いはない。一方、学年別では、総合福祉学部の 1 年次 (2.52) から 4 年次 (2.98)、看護学部でも 1 年次 (1.90) から 3 年次 (2.84) へと不満度が高くなる傾向が認められた [基礎表 2-16]

17. 事務局窓口職員の学生に対する態度

事務局に関する質問の中では比較的満足度が高く、大学全体としても 53.8%となった。＜満足＞群は、総合福祉学部 44.5% (2.60)、国際コミュニケーション学部 62.5% (2.25)、看護学部 71.2% (2.20) である。総合福祉学部を除いて、満足度は 6 割を超えている。

男女別では各学部とも大きな違いはない。学年別で見ると、各学部ともに度合いは異なるものの、学年が上がるに連れて不満を示す割合が高くなっている [基礎表 2-17]。

43. スクールバスの運行時間帯

大学全体の満足度は 41.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 48.7% (2.50)、国際コミュニケーション学部 37.2% (2.81)、看護学部 13.4% (3.29) となっている。特に看護学部では、男女、学年別すべての区分で不満足度が 3 を超えていて、強い不満があることがうかがえる〔基礎表 2- 43〕。

44. スクールバスの運転士の態度や対応

大学全体の満足度は 76.7%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 81.0% (1.81)、国際コミュニケーション学部 70.4% (2.08)、看護学部 79.2% (1.74) となっていて、運行時間帯とは対照的に、3 部とも満足している学生の割合が 7 割以上である。特に総合福祉学部・看護学部では満足している学生が多いということがわかる〔基礎表 2- 44〕。

45. 海外プログラムへの支援体制

この項目については、「該当しない」を選択した学生が、総合福祉学部 70.0%、国際コミュニケーション学部 45.3%、看護学 66.3%となっており、国際コミュニケーション学部以外では利用度が低いといえる。これを踏まえて満足度を見ると、総合福祉学部では 18.7% (2.28)、国際コミュニケーション学部では 30.2% (2.41)、看護学部では 16.4% (2.66) であった。支援体制の満足度をどのように評価するかは、カリキュラムにおいて海外プログラムがどのように位置づけられているかによっても異なるので、各学部で基礎表に示す男女別、学年別の結果に応じた対応をとることが望ましい〔基礎表 2- 44〕。

46. 学生相談室(千葉・千葉第2)の利用のしやすさ

総合福祉学部と看護学部が対象となるが、「該当しない」を選択した回答が総合福祉学部 55.9%、看護学部 35.6%であった。これを踏まえた＜満足＞群は、総合福祉学部 25.6% (2.40)、看護学部 36.1% (2.52) で、両学部とも＜不満足＞群の方が多かった〔基礎表 2- 46〕。

47. 学生総合相談支援室（みずほ台のみ）の利用のしやすさ

国際コミュニケーション学部のみが対象となるが、「該当しない」を選択した回答が 25.7%存在した。それを踏まえて＜満足＞群 45.4%（2.32）、＜不満足＞群は 29.5%だったので、利用した学生の満足度は高かったといえる〔基礎表 2- 47〕。

48. カウンセリングルーム（みずほ台のみ）の利用のしやすさ

国際コミュニケーション学部のみが対象となるが、「該当しない」を選択した回答が 41.7%存在した。＜満足＞群が 30.7%（2.50）で、＜不満足＞群は 25.3%で利用した学生の満足度は相対的に高かったといえる〔基礎表 2- 48〕。

49. 保健室・保健相談室の利用のしやすさ

総合福祉学部では「該当しない」を選択した回答が 50%、国際コミュニケーション学部では 21.1%、看護学部では 27.7%で、総合福祉学部では回答者の半分以上の学生が利用していないのに対し、国際コミュニケーション学部・看護学部では多くの学生が利用しており、利用頻度の違いが見られる。それを踏まえて、満足群は総合社会福祉学部 33.2%（2.23）、国際コミュニケーション学部 50.7%（2.23）、看護学部 34.1%（2.63）で、国際コミュニケーション学部の満足度が他学部よりも高くなっている。実際の利用者数ベースでみると、看護各部では利用者の半数以上が不満であったと回答している。

男女・学年を通じて見た場合、看護学部での満足度が低いですが、総合福祉学部・国際コミュニケーション学部では全体を通して、満足度が高かったといえる〔基礎表 2- 49〕。

50. 学習支援室（千葉のみ）の利用しやすさ

総合福祉学部のみが対象となるが、「該当しない」を選択した回答が 53.2%で約半数以上の学生が利用していない。＜満足＞群 29.0%（2.34）、＜不満足＞群 28.2%で、利用した学生の約 6 割が満足しているといえる〔基礎表 2- 50〕。

51. キャリア支援室の利用のしやすさ

この項目では「該当しない」を選択した回答が、総合福祉学部 36.2%、国際コミュニケーション学部 18.7%、看護学部 52.0%と、学部によって利用する学生の割合に差が見られる。これを踏まえた＜満足＞群は、総

合福祉学部 39.7% (2.36)、国際コミュニケーション学部 52.2% (2.27)、看護学部 22.8% (2.66)であった。

総合福祉学部では男女別に違いは見られないが、学年別では「該当しない」と回答した割合が、1 年次 57.5% (2.19)、2 年次 46.2% (2.39)、3 年次 26.1% (2.43)、4 年次 7.7% (2.40) と、学年が上がるにつれて利用学生は増えているが、スコアに変化は見られない。

国際コミュニケーション学部でも男女に大きな違いは見られないが、学年別では「該当しない」と回答した割合が 1 年次 35.8% (2.26)、2 年次 23.8% (2.27)、3 年次 14.2% (2.25)、4 年次 6.1% (2.30) と、学年が上がるにつれて利用学生は増えているが、スコアに変化は見られない。

看護学部ではキャリア支援室は整備中で開設していないため、本来は「該当しない」が適切な回答ともいえる。“該当した”学生は千葉第一キャンパスのキャリア支援室を利用していることなのか、不満足度スコアの低い原因については慎重に検証する必要があるだろう〔基礎表 2- 51〕。

52. キャリア支援室の支援プログラム・就職イベント

総合福祉学部では「該当しない」が 38.5%、国際コミュニケーション学部では 21.2%、看護学部では 51.0% となり、学部によって参加する割合が異なっていた。学年別で見ると総合福祉学部では 1 年次 59.0%、2 年次 49.8%、3 年次 27.0%、4 年次 11.9% と、「該当しない」の割合は低下する。国際コミュニケーション学部でも 1 年次 39.7%、2 年次 29.0%、3 年次 14.6%、4 年次 8.5% と、学年が上がるにつれて「該当しない」の割合は低下する。一方、看護学部では「該当しない」の割合は 1 年次 59.7%、2 年次 53.0%、3 年次 40.6% と、学年が上がるにつれて「該当しない」の割合は減少するが、参加頻度は低い。

これを踏まえて満足度を実数から考えると、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部では、おおむね 6 割強の学生が、看護学部では 5 割の学生が満足しているといえる〔基礎表 2- 52〕。

(5) 食堂・購買の営業等に関する満足度

この節では、設問のうち食堂や購買への満足度をたずねる項目 25 から 35 までを取り上げる (表Ⅱ- 2- 4)。

25. 食堂の広さや座席数

この項目は、全学部でかなり不満の高い項目で、大学全体の満足度は 24.6% である。最も不満が高いのは看護学部で＜満足＞群は 9.9% しかなく、スコアは 3.41 であった。不満がもっとも小さかった総合福祉

学部でも＜満足＞群 29.4%、スコアは 2.91、であった。広さや座席数が不足していることは明らかで、今後早急な改善が求められる（基礎表 2- 25）。

26. 食堂の雰囲気・美観・快適さ

大学全体の満足度は 54.7%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 67.8%(2.26)、国際コミュニケーション学部 39.8%(2.77)、看護学部では 62.4%(2.35)と、国際コミュニケーション学部で満足度が低かった。不満と答えている学生が、26.6%おり、スコアにも反映されているといえる〔基礎表 2- 26〕。

27. 食堂の営業時間

大学全体の満足度は 45.5%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 54%(2.42)、国際コミュニケーション学部 33.5% (2.87)、看護学部 47.0%(2.67)と、全体的に満足度は低く国際コミュニケーション学部と看護学部では半数以上の学生が不満を感じている〔基礎表 2- 27〕。

28. 食堂の料理の質や量

大学全体の満足度は 48.7%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 58.8%(2.33)、国際コミュニケーション学部 40.0%(2.76)、看護学部 26.2%(2.99)と、営業時間と同様に国際コミュニケーション学部と看護学部で半数以上が不満を感じているが、「食堂の営業時間」と逆に、看護学部の学生の方が不満を強く感じていた〔基礎表 2- 28〕。

29. 食堂の料理の値段

大学全体の満足度は 44.9%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 56.4%(2.39)、国際コミュニケーション学部 36.5%(2.84)、看護学部 13.5%(3.31)と、看護学部の学生が非常に強い不満を感じていることがわかる〔基礎表 2- 29〕。

30. 食堂の職員の態度や対応

大学全体の満足度は 80.2%である。＜満足＞群は、総合福祉学部 83.2%(1.77)、国際コミュニケーション学部 75.3%(1.96)、看護学部 83.1%(1.78)と、食堂に関連する項目の中では唯一、しかも概ね全学部で満足度が高い結果となっていた〔基礎表 2- 30〕。

31. 購買・売店の場所

看護学部では<該当しない>と回答した学生が 63.9%で、キャンパスに店舗がないということを前提として満足度を考える必要がある。それを踏まえた<満足>群は、総合福祉学部 60.1%(2.35)、国際コミュニケーション学部 31.5%(2.93)、看護学部では 15.4%(2.80)であった。特に国際コミュニケーション学部の学生が強い不満を感じていることがわかる〔基礎表 2- 31〕。

32. 購買・売店の広さ・雰囲気・美観

看護学部では<該当しない>と回答した学生が 64.4%で、キャンパスに店舗がないということを前提として満足度を考える必要がある。それを踏まえた<満足>群は、総合福祉学部 52.0%(2.47)、国際コミュニケーション学部 43.8%(2.67)、看護学部では 13.9%(2.80)であった。全体に満足度は低く、特に国際コミュニケーション学部の学生は不満と感じていた〔基礎表 2- 32〕。

33. 購買・売店の営業時間

看護学部では<該当しない>と回答した学生が 64.9%である。<満足>群は総合福祉学部 48.1%(2.54)、国際コミュニケーション学部 41.2%(2.73)、看護学部 15.9%(2.74)であった。これまでの購買関連の質問と同様、国際コミュニケーション学部での不満足度が最も高い〔基礎表 2- 33〕。

34. 購買・売店で扱っている品揃え

看護学部では<該当しない>と回答した学生が 63.9%である。それを踏まえた<満足>群は、総合福祉学部 47%(2.58)、国際コミュニケーション学部 46.8%(2.62)、看護学部では 13.9%(2.82)であった。この項目でも全体的に不満足度が高く、総合福祉学部と国際コミュニケーション学部で、ほぼ同程度があることがわかる〔基礎表 2- 34〕。

35. 購買・売店の職員の態度や対応

看護学部では<該当しない>と回答した学生が 64.9%である。それを踏まえた<満足>群は、総合福祉学部 66.6%(2.21)、国際コミュニケーション学部 75.2%(2.03)、看護学部 18.6%(2.54)であった。これまでの購買関連の項目と比較すると、満足と回答した学生の割合が高い項目であった。しかし、看護学部の学生においては、この項目に関しても満足度が高くなることはなかった〔基礎表 2- 35〕。

表Ⅱ-2-1. 授業・教員関連事項に関する満足度（各項目の上段が実数、下段が%を示す）

	【全 体】				総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部			
	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア
1. 授業科目の種類(豊富さ)	1549	801	36	2.27	895	333	16	2.15	512	418	12	2.46	142	50	8	2.13
	64.4	33.3	1.5		71.4	26.6	1.3		53.9	44.0	1.3		70.3	24.8	4.0	
2. web上での履修登録	1450	912	27	2.31	732	499	15	2.36	588	344	9	2.27	130	69	3	2.23
	60.3	37.9	1.1		58.4	39.8	1.2		61.9	36.2	0.9		64.4	34.2	1.5	
3. 授業の時間割	1210	1147	26	2.53	635	595	13	2.52	482	448	9	2.53	93	104	4	2.63
	50.3	47.7	1.1		50.7	47.5	1.0		50.7	47.1	0.9		46.0	51.5	2.0	
4. 履修指導・履修相談のあり方	1184	938	255	2.47	544	510	189	2.55	537	353	42	2.36	103	75	24	2.50
	49.2	39.0	10.6		43.4	40.7	15.1		56.5	37.2	4.4		51.0	37.1	11.9	
5. 専門演習(千葉)、基礎演習2・演習(みずほ台)の演習2・演習の授業内容	1381	592	202	2.22	801	278	162	2.15	580	314	40	2.31	-	-	-	-
	62.7	26.9	9.2		63.9	22.1	12.9		61.0	33.0	4.2		-	-	-	
6. 講義科目の授業内容	1596	755	33	2.27	882	346	15	2.21	563	362	14	2.35	151	47	4	2.21
	66.4	31.4	1.4		70.4	27.6	1.2		59.2	38.1	1.5		74.7	23.3	2.0	
7. 英語科目の授業内容	1403	900	85	2.37	778	427	40	2.32	477	424	40	2.49	148	49	5	2.19
	58.3	37.4	3.5		62.1	34.1	3.2		50.2	44.6	4.2		73.3	24.2	2.5	
8. 免許・資格関連科目の授業内容	1361	764	259	2.32	831	296	116	2.15	388	430	121	2.60	142	38	22	2.11
	56.6	31.7	10.8		66.4	23.7	9.3		40.9	45.3	12.7		70.3	18.8	10.9	
9. 教員の学生に対する態度	1471	849	66	2.34	757	446	41	2.37	554	365	21	2.34	160	38	4	2.11
	61.2	35.3	2.7		60.4	35.6	3.3		58.3	38.4	2.2		79.2	18.9	2.0	
10. オフィス・アワーの状況	1000	649	721	2.38	436	266	531	2.36	441	343	153	2.42	123	40	37	2.23
	41.6	27.0	30.0		34.8	21.2	42.4		46.5	36.1	16.1		60.9	19.8	18.3	

表Ⅱ-2-2. 教室の設備・備品などに関する満足度（各項目の上段が実数、下段が%を示す）

	【全 体】				総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部			
	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア
1 1. 教室の広さ	1511	847	32	2.28	856	371	18	2.19	596	335	12	2.27	59	141	2	2.94
1 2. マイクなどの教室の音響	62.8	35.2	1.3	2.28	68.3	29.6	1.4	2.19	62.7	35.2	1.3	2.27	29.2	69.8	1.0	2.94
1 3. プロジェクター・ビデオなどの教室の視聴覚設備	1563	783	40	2.24	831	391	22	2.23	633	292	16	2.18	99	100	2	2.56
1 4. エアコンなどの教室の環境	1601	737	49	2.22	788	431	26	2.29	668	253	20	2.12	145	53	3	2.22
1 8. 図書館（室）の蔵書数や蔵書の種類	66.6	30.7	2.0	2.22	62.9	34.4	2.1	2.31	70.4	26.6	2.1	2.05	71.8	26.2	1.5	2.14
1 9. 図書館（室）の利用時間	1588	776	23	2.19	753	471	13	2.15	692	242	8	2.11	143	57	2	2.33
2 0. コンピュータ室、OA演習室、PC・LL教室、自習室の教・設備（パソコン・ビデオ）	66.1	32.2	1.0	2.16	60.1	38.1	1.0	2.29	72.8	25.5	0.8	2.20	70.8	28.3	1.0	2.38
2 1. 自習室の利用しやすさ（千葉のみ）	1569	680	135	2.24	836	320	88	2.29	611	284	43	2.13	122	76	4	2.46
2 2. コンピュータ室、OA演習室、PC・LL教室、自習室の教・設備（パソコン・ビデオ）	65.2	28.2	5.6	2.24	66.7	25.5	7.0	2.29	64.3	29.9	4.5	2.20	60.4	37.6	2.0	2.46
2 3. コンピュータ室、OA演習室、PC・LL教室、自習室の教・設備（パソコン・ビデオ）	1771	488	124	2.00	966	188	90	1.92	685	223	30	2.01	120	77	4	2.33
2 4. 貸し出しのモバイロソコンの利用しやすさ（みず）	73.6	20.2	5.2	2.24	77.1	15.0	7.2	2.33	72.2	23.4	3.2	2.11	59.4	38.1	2.0	2.46
3 6. サークルの部室や数	1474	805	107	2.22	706	463	75	2.44	638	274	28	2.00	130	68	4	2.21
3 7. サークルの部室の広さ	61.2	33.4	4.4	2.29	56.3	37.0	6.0	2.20	67.2	28.9	2.9	2.07	64.4	33.7	2.0	2.20
3 8. サークルの部室の使いやすさ	741	413	88	2.25	741	413	88	2.25	662	255	20	2.00	134	55	12	2.21
3 9. クラウド（更料・みず）	59.1	33.0	7.0	2.25	59.1	33.0	7.0	2.25	69.7	26.8	2.1	2.40	66.3	27.2	5.9	2.27
4 0. クラウド（更料・みず）	1461	570	348	2.22	665	260	316	2.53	688	228	19	2.40	131	59	11	2.82
4 1. 学内のトイレの数・配置	60.8	23.7	14.5	2.25	53.0	20.7	25.2	2.66	57.1	28.4	13.6	2.49	64.8	29.2	5.4	2.92
4 2. 学内のトイレの明るさ、清潔さ	56.9	28.2	13.8	2.49	43.8	31.2	24.0	2.50	72.5	24.0	2.0	2.43	64.8	29.2	5.4	2.92
	734	375	1163	2.49	166	94	887	2.44	542	270	129	2.50	26	11	147	2.56
	30.5	15.6	48.4	2.49	13.3	7.5	70.8	2.44	57.1	28.4	13.6	2.49	12.9	5.5	72.8	2.56
	843	715	821	2.49	464	408	371	2.44	354	266	317	2.40	25	41	133	2.82
	35.0	29.7	34.1	2.60	37.0	32.6	29.6	2.66	37.2	28.0	33.4	2.66	12.4	20.3	65.8	2.92
	708	800	875	2.49	364	455	425	2.49	323	302	315	2.49	21	43	135	2.92
	29.5	33.3	36.4	2.49	29.1	36.3	33.9	2.49	34.0	31.8	33.2	2.49	10.4	21.3	66.8	2.92
	788	707	884	2.49	426	384	431	2.49	342	280	318	2.49	20	43	135	2.94
	32.8	29.4	36.8	2.48	34.0	30.7	34.4	2.48	36.0	29.4	33.5	2.48	9.9	21.3	66.8	2.94
	394	314	1649	2.48	130	94	1001	2.48	255	211	473	2.50	9	9	175	2.56
	16.4	13.1	68.6	2.50	10.4	7.5	79.9	2.50	26.9	22.2	49.8	2.50	4.5	4.5	86.6	2.56
	388	318	1648	2.50	133	86	1002	2.42	246	223	471	2.42	9	9	175	2.50
	16.2	13.2	68.5	2.00	10.6	6.9	80.0	2.06	25.8	23.5	49.6	2.06	4.5	4.5	86.6	2.06
	1834	540	19	2.00	922	318	8	2.00	736	197	10	1.99	176	25	1	1.72
	76.2	22.5	0.8	1.99	73.5	25.3	0.6	1.99	77.5	20.7	1.1	2.02	87.2	12.4	0.5	1.72
	1844	533	17	1.99	939	300	9	2.03	718	219	7	2.03	187	14	1	1.51
	76.7	22.2	0.7	1.99	74.9	23.9	0.7	2.03	75.6	23.1	0.7	2.02	92.5	7.0	0.5	1.51

表Ⅱ-2-3. 事務対応・学生サービスなどに関する満足度（各項目の上段が実数、下段が%を示す）

	【全 体】				総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部			
	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満度スコア
15. 事務局からのお知らせのわかりやすさ	776	1547	63	2.91	285	908	51	3.10	405	524	11	2.69	86	115	11	2.76
16. 事務（事務局の仕事）の迅速さ	1094	1194	99	2.64	461	716	67	2.83	525	385	31	2.42	108	93	11	2.56
17. 事務局窓口職員の学生に対する態度	1295	1029	62	2.47	558	640	46	2.68	593	332	15	2.27	144	57	11	2.14
43. スクールバスの運行時間	992	1304	96	2.69	611	596	41	2.50	354	554	34	2.81	27	154	21	3.29
44. スクールバスの運転士の態度や対応	1844	448	101	1.91	1015	188	45	1.81	669	237	37	2.08	160	23	19	1.74
45. 海外プログラムへの支援体制	555	386	144	2.38	235	132	87	2.28	287	220	430	2.41	33	34	134	2.66
46. 学生相談室（千葉・千葉第2）の利用しやすさ	27.0	19.1	53.1	2.43	320	222	701	2.40	-	-	-	-	73	56	74	2.52
47. 学生総合相談支援室（みずほ台のみ）の利用しやすさ	45.4	27.5	25.7	2.32	-	-	-	-	431	262	244	2.32	-	-	-	-
48. カウンセリングルーム（みずほ台のみ）の利用しやすさ	30.7	25.3	41.7	2.50	-	-	-	-	292	240	396	2.50	-	-	-	-
49. 保健室・保健相談室の利用しやすさ	966	517	882	2.27	416	198	626	2.23	481	245	200	2.23	69	74	56	2.63
50. 学習支援室の利用しやすさ（千葉のみ）	364	212	666	2.34	364	212	666	2.34	-	-	-	-	-	-	-	-
51. キャリア支援室・就職相談室・総合キャリア支援室	1040	602	736	2.34	498	294	453	2.36	496	258	178	2.27	46	50	105	2.66
52. キャリア支援室の支援プログラム・就職イベント	998	592	787	2.36	481	280	483	2.37	466	266	201	2.32	51	46	103	2.60

表Ⅱ-2-4. 食堂と購買に関する満足度（各項目の上段が実数、下段が%を示す）

	【全 体】				総合福祉学部				国際コミュニケーション学部				看護学部			
	満足合計	不満合計	非該当合計	不満満足度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満満足度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満満足度スコア	満足合計	不満合計	非該当合計	不満満足度スコア
25. 食堂の広さや座席数	591	1738	67	3.06	369	839	42	2.91	202	719	23	3.18	20	180	2	3.41
26. 食堂の雰囲気、美観、快適さ	24.6	72.3	2.8	3.06	29.4	67.0	3.4	2.91	21.3	75.7	2.4	3.18	9.9	89.1	1.0	3.41
	1315	1013	64	2.47	811	396	41	2.26	378	544	21	2.77	126	73	2	2.35
	54.7	42.1	2.7	2.47	64.8	31.6	3.3	2.26	39.8	57.2	2.2	2.77	62.4	36.2	1.0	2.35
27. 食堂の営業時間	1092	1211	83	2.62	678	509	57	2.42	319	598	23	2.87	95	104	3	2.67
	45.5	50.3	3.5	2.62	54.1	40.6	4.5	2.42	33.5	63.0	2.4	2.87	47.0	51.5	1.5	2.67
28. 食堂の料理の質や量	1170	1113	110	2.56	737	433	79	2.33	380	540	22	2.76	53	140	9	2.99
	48.7	46.3	4.6	2.56	58.8	34.6	6.3	2.33	40.0	56.8	2.3	2.76	26.2	69.3	4.5	2.99
29. 食堂の料理や値段	1080	1206	108	2.65	706	469	78	2.39	347	573	23	2.84	27	168	7	3.31
	44.9	50.1	4.5	2.65	56.4	37.1	6.2	2.39	36.5	60.3	2.4	2.84	13.4	83.2	3.5	3.31
30. 食堂の職員の態度や対応	1977	345	118	1.85	1044	120	83	1.77	715	199	27	1.96	168	26	8	1.78
	80.2	14.4	4.9	1.85	83.3	9.5	6.6	1.77	75.3	20.9	2.8	1.96	83.1	12.9	4.0	1.78
31. 購買・売店の場所	1085	1144	160	2.60	754	468	25	2.35	300	636	6	2.93	31	40	129	2.80
	45.1	47.6	6.7	2.60	60.1	37.4	2.0	2.35	31.5	66.9	0.6	2.93	15.4	19.8	63.9	2.80
32. 購買・売店の広さ、雰囲気、美観	1095	1131	161	2.57	651	571	24	2.47	416	518	7	2.67	28	42	130	2.80
	45.5	47.0	6.7	2.57	52.0	45.5	1.9	2.47	43.8	54.5	0.7	2.67	13.9	20.8	64.4	2.80
33. 購買・売店の営業時間	1025	1195	168	2.62	602	614	28	2.54	391	544	9	2.73	32	37	131	2.74
	42.7	49.7	7.0	2.62	48.1	49.0	2.2	2.54	41.2	57.3	0.9	2.73	15.9	18.3	64.9	2.74
34. 購買・売店の扱っている品揃え	1059	1172	158	2.61	588	636	22	2.58	443	493	7	2.62	28	43	129	2.82
	44.1	48.7	6.6	2.61	46.9	50.7	1.8	2.58	46.6	51.9	0.7	2.62	13.9	21.3	63.9	2.82
35. 購買・売店の職員の態度や対応	1602	613	171	2.15	849	364	32	2.21	715	219	8	2.03	38	30	131	2.54
	66.6	25.5	7.1	2.15	67.7	29.1	2.6	2.21	75.2	23.0	0.8	2.03	18.8	14.9	64.9	2.54

（６）全体的な大学への評価 - まとめにかえて

ここまで示したように、学生生活への満足度はいくつかの項目で強い不満があるものの、おおむね満足しているようである。52 の項目についてたずねた後に、まとめとしてたずねた全体的な大学への評価をみると、＜満足＞群は大学全体で 64.1% (2.35)、総合福祉学部 70.8% (2.25)、国際コミュニケーション学部 55.1% (2.48)、看護学部 65.4% (2.35) となった。性別、学年、学科でも大きな変動はなかった〔基礎表 3-1〕。

本報告書には、自由回答の結果は示していない。自由回答の内容に関しては、「はしがき」にも書いたように、別途その内容を該当する部署において詳細に検討し、その結果を平成 22 年の夏休み頃には示す予定である。今回の調査では、各学部とも約半数かそれを上回る回答者が要望を記述していた〔基礎表 3-2〕。日頃感じている要望については真摯に検討していきたいと考えている。

一方、今回は前回までの質問に加えて、淑徳大学の良い点などについても記述してもらう欄を設けた。これについては、要望ほど多くの回答が得られず、全体としては 2 割の学生が記述していた〔基礎表 3-3〕。しかし、大学が提供しようとしている教育環境や教職員の努力を、しっかりと感じてくれている学生がいることもわかる内容であったことは、大変ありがたい。

以上の点も含めて今回の調査結果は、以下のようにまとめられるだろう。

まず、一般入試、特に筆記試験を含む入試を受ける学生は、看護学部を除き減少傾向が続いており、推薦入試と AO 入試による受験が増加している。そして、いずれの学部でも 9 割が現役で入学しているが、本学を第一志望としていた学生は、総合福祉学部 (70.2%) 以外では 4 割から 5 割にとどまる。出身高校や通学時間からみると、千葉、埼玉、東京に集中する傾向が前回より強まり、1 時間半以内の範囲で自宅から通学する学生が 7 割前後となっている。大学を選択した理由は学科の特徴を反映しており、「将来の仕事に必要な勉強」を意識している学生は、看護学科 (78%) と社会福祉学科 (67%) で特に多かった。また、全体を通じて男子よりも女子の方が専門志向と学習意欲が高い傾向がみられた。一方、国際コミュニケーション学部でも専門的な学習をしたいという希望は高いが、英語の学習や海外プログラムなどへの魅力を感じている学生は 2 割程度しかないという結果となっている。

その傾向を反映してか、「将来就きたい仕事にあった勉強」の実現率も、看護学部 (96%)、総合福祉学部 (74%) では高かったが、国際コミュニケーション学部では 50% となっている。「幅広い知識や教養」でも看護学部と総合福祉学部の実現率は 8 割程度であるのに対して、国際コミュニケーション学部では 6 割には届いていない。こうした傾向は、後半でまとめた授業や教員関連の満足度にも反映されているといえる。「授業科目の種類」、「講義科目の授業内容」、「免許・資格関連科目の授業内容」に対する満足度は、総合福祉学部と看護学部でおおむね 7 割であるが、国際コミュニケーション学部では 4 割から 6 割と、やや低い傾向が認められる。また、「英語科目の授業内容」についても同様の傾向にあり、国際コミ

コミュニケーション学部の満足度が最も低い点は、問題があるといえる。一方、こうした勉学に関する実現率や満足度とは別に、「時間割の組み方」と「履修指導・相談」については、3 学部共通して 5 割前後の満足度しか得られていない。

以上の点からは、卒業後のイメージが明確であるほど授業の内容に対して満足しているが、その履修の仕方については必ずしも満足していない、という様子がうかがえる。

サークル活動については、3 割から 6 割の学生が「該当しない」と回答しているが、参加している学生にとっては、友人関係などでの実現率はおおむね高いといえる。一方、サークルの部室の数や広さ、グラウンドの利用のしやすさなどに関しては、決して満足度が高いとはいえない結果であった。

アルバイトに関しては、全体の約 7 割の学生が行っており、特に男子学生のアルバイト時間が長い傾向があった。そのためか、アルバイトによる授業への遅刻や欠席という影響も、男子学生に強く表れていた。

学生生活の悩みとしては、3 学部通じて進路に関する悩みをあげた学生が 3 割から 5 割となっていた。総合福祉学部と看護学部では、学業に関する悩みがそれぞれ 6 割から 7 割と高い傾向があったが、これも将来の進路や職業と関連しているのではないだろうか。一方で、教員の学生に対する態度に対する満足度は 6 割から 8 割と悪くはない。学習支援関連、キャリア支援関連の質問項目において「該当しない」と回答した学生は決して少なくはなく、満足度も高いとはいえない状況にある。支援があったからといって悩みが簡単に解消されるものではないかもしれないが、学習支援とキャリア支援に関しては、引き続き各学部それぞれで検討されるべきであろう。

また、「人間関係で悩むことがある」と回答した学生も、全体として 5 割程度いた。一方で、大学で新しい友人関係を作るに際して、基礎ゼミの役割が大きいということも示されていて、初年次教育におけるゼミや教員の役割が重要であることは再確認できたといえるだろう。

授業への参加状況については、7 割から 8 割の学生が予習も復習も行っておらず、私語をしたり居眠りをしてしまう学生も 5 割程度いる。この点は、マナーに関する質問への回答でも反映されていて、自由回答の中でも授業中の私語に迷惑しているという記述がかなり多く認められた。一方、8 割の学生はノートをしっかりとり、7 割は教員の話をよく聞くと、7 割半は質問をせず、わからないことを調べるのは 5 割から 6 割にとどまる。関連して、書籍や新聞を読む習慣は 6 割から 7 割程度の学生にはなく、図書館を利用する学生も 6 割には満たない。何かを調べるという場合は、8 割の学生がインターネットを利用していた。

生活習慣では、全体として 4 割の学生が「朝、起きられずに遅刻することがある」と回答しており、5 割の学生が「夜、眠れないことがある」と回答していた。また、「ふさぎ込んでしまうことがある」と回答した学生も 4 割程度いる。こうした点からみると、生活習慣の自己管理について、理解を深めていくような教育と支援も必要と思われる。生活習慣にもマナーにも関連する点では、自由回答の結果も含め、喫

煙の問題がある。喫煙場所を守らない、あるいは場所が建物の入り口に近くにあるために中まで煙が入ってきてしまう、そもそも喫煙可能な場所が多いのではないか、などの回答が寄せられていた。

この他に、学生生活の中で不満足度の高かった点は、以下の通りであった。まず、強い不満が示されていたのは、事務局関連の質問である。「お知らせのわかりやすさ」「仕事の迅速さ」に関しては、3 学部共通して低調であった。総合福祉学部では、これに加えて職員の対応についても、満足していない学生が 5 割を超えていた。同様に、スクールバスの運行時間についても、全体として不満が高く、特に看護学部からは強い不満が示されていた。食堂の施設とメニューの内容や営業時間、料金についても、不満が高い項目である。看護学部では購買施設はないが、千葉第 1 キャンパスの購買を利用した学生という意味で、利用者の満足度をみると、その立地や運営内容に対しての不満が認められた。国際コミュニケーション学部においても同様で、特に購買の場所については前回の調査と同様不満度が高かった。現在の立地は、サークル棟や新しい教室棟からは最も離れている場所になってしまったため、場所の移動がない限りこの不満が解消されることはないといえる。その一方で、スクールバスの運転士や食堂・購買のスタッフに対する満足度はかなり高く、事務局と比べても対人関係での満足度は高い。教員との関係でも満足度は高かったため、全体としては事務局の学生対応の部分でより努力を要する部分がある。このほか、看護学部では特に教室の広さや音響について強い不満が示されていた。フリーアンサーの中でも、これらの強い不満が示された点についての記述が多く、その内容も分析した上で、早急な改善策の実施が望まれる。

以上述べてきたように、改善すべき点と留意すべき点は、大学全体としても各学部としても浮き彫りにされている。しかしそうした課題とは別に、今回は、本学のよい点についてもフリーアンサーでの回答を求めてみた。その中では、表現は様々だが、小規模なキャンパスであるからこそ可能となる、教職員と学生の距離の近いことに満足感じて大学生活を過ごしている様子がうかがえた。大学として持つその強みを活かしていけるよう、今後も引き続き教育環境の改善に取り組んでいくことが求められているといえる。

第5回 淑徳大学学生生活実態調査委員会

委員長	松原 健司	国際コミュニケーション学部教授
副委員長	野田 陽子	総合福祉学部教授
委員 (五十音順)	磯岡 哲也	総合福祉学部教授
	井上 善博	国際コミュニケーション学部准教授
	岩井 阿礼	総合福祉学部准教授
	小川 博章	国際コミュニケーション学部准教授
	白井伊津子	総合福祉学部准教授
	鈴木恵理子	看護学部教授
	千葉 浩彦	総合福祉学部教授
	西尾 孝司	総合福祉学部准教授
	松山恵美子	総合福祉学部准教授
	村松 仁	看護学部准教授
	矢島 健三	国際コミュニケーション学部教授
事務局	江島 一弥	千葉キャンパス学事部 課長
	柴田 征浩	みずほ台キャンパス学事部 課長
	塔下 敬三	東京事務所エクステンションセンター長

第5回 淑徳大学学生生活実態調査報告書 第I部 記述編

発行 第5回 淑徳大学学生生活実態調査委員会
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200
電話 043-265-7331